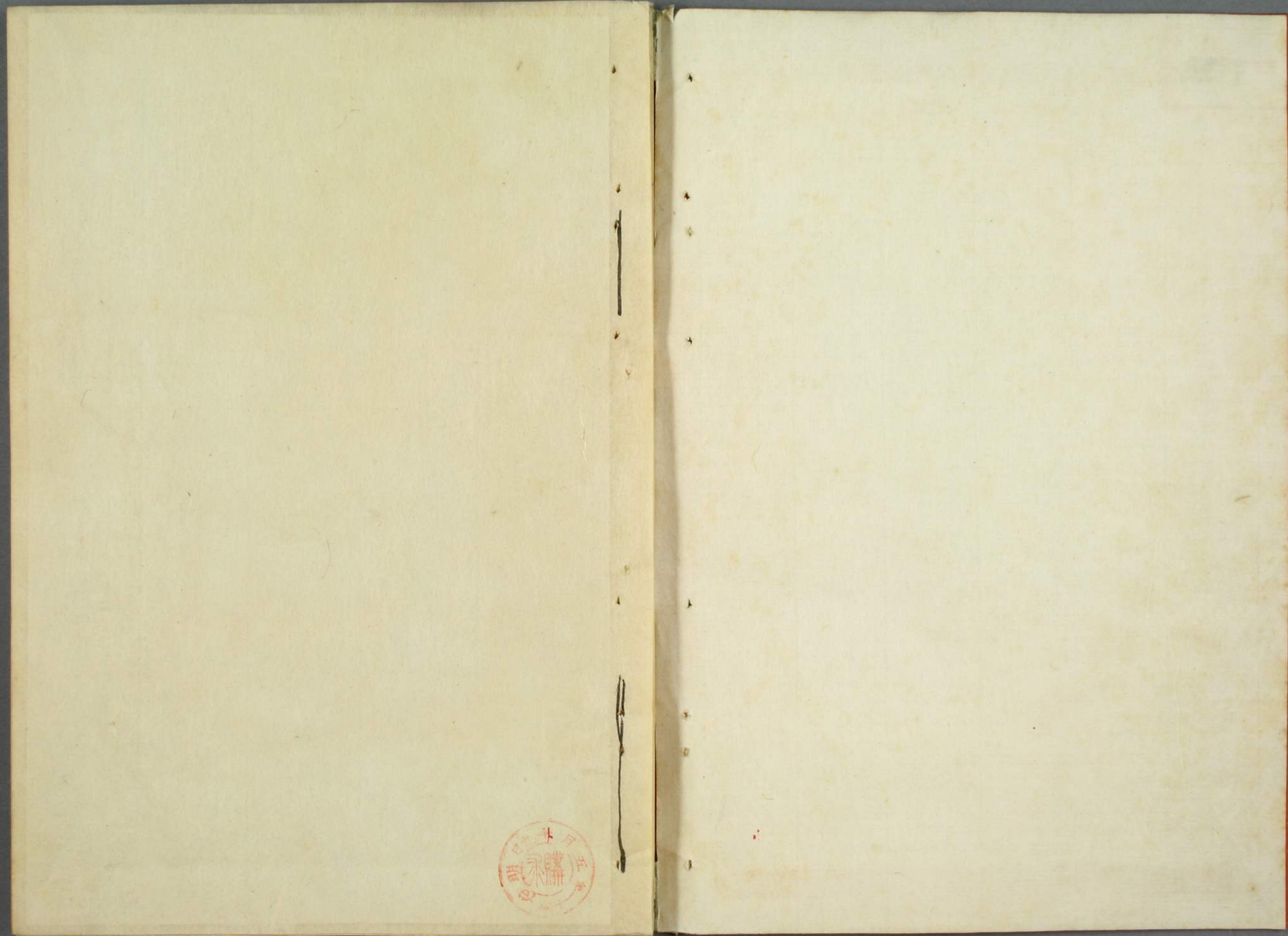


利
2279



吾山居士
平齋文庫

松廼舍文庫

青幽堂



少轉心印集

二子仲平

判取性之模

一 惜と

おのれをいふ

惜念


おのれをいふ

おのれをいふ

おのれをいふ

おのれをいふ



范侯雨
 畫


此
 之
 人
 畫
 人



頁

万葉集 卷之八 梅花

梅花の香をいかにかきとるべし

梅花の香をいかにかきとるべし

梅花の香をいかにかきとるべし

梅花の香をいかにかきとるべし

梅花の香をいかにかきとるべし

梅花の香をいかにかきとるべし

すけいもみかきおのてい
のふら梅さきくさくさ梅

柏よみすく
梅のふらいたはのさ
みまふらさき

るきささきさきさき

ちりねさきさきさき梅

下の
但お奇のしけり
ふらさきさきさき
ふらさきさきさき
ふらさきさきさき

美 梅さきさきさきさき

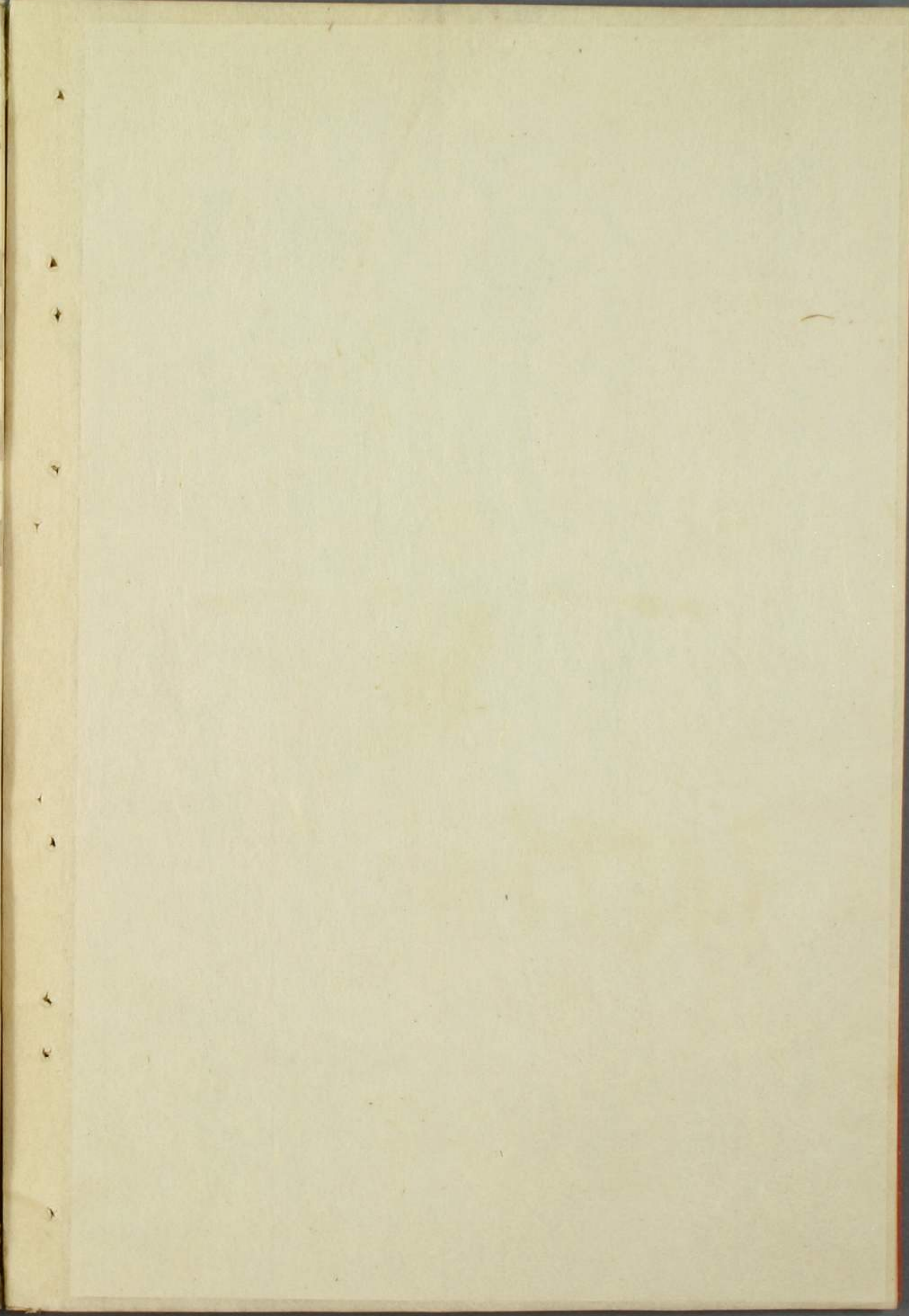
梅とさきさき梅さき

山
ふらさきさきさき
mountain landscape

梅さきさきさきさき

さきさきさきさき梅

山
おのさきさきさきさき
梅さきさきさきさき





嘉五

家
 砂
 花
 橋

庭
 花
 橋

如
 花
 橋

峰に〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜

人々〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜

山に〜山に〜



三
騎
圖



二輪画

其のまゝに
 一とほのまゝに

一とほのまゝに
 一とほのまゝに

知事と馬の
 持とあまの

栗のいし
 栗のいし
 栗のいし

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

一二三みわりのついでにあらうきつりておのころのついでに
南無阿弥陀仏の朝にあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

縦白甲金丸のついでにあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

西のついでにあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに
おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに

おのころのついでにあらうきつりておのころのついでに



小童負



之
轉
画

聲あけくさくさあつと
地をくさくさあつと
あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと
あつとあつとあつと
あつとあつとあつと

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは
あはれなるはなをよみしは



人
 今のはあつたての
 繪巻の一時

昔のよき時を
 今のはあつたての
 繪巻の一時



七種... 神佛の座... 神の座... 神の座... 神の座...

七種... 神の座... 神の座... 神の座...

七種... 神の座... 神の座... 神の座...

七種... 神の座... 神の座... 神の座...

朱書入刊者
 勝宗 因兵 秋多氏
 播磨 皆兵 應兵四
 坂井 雁兵四 批一 点
 左近 月二 批一 日一
 赤安 日二 批三 日一
 赤松 日二 批一 点二
 赤松 日一 批一 点二

東都根元
 狂歌 奈流會
 茶點五頭
 西野人
 梅子百葉
 雪中山景
 楊梅馬舞
 花子百葉
 合拾鼓琴

申又 豐善
 勝宗
 播磨 皆兵 應兵二
 赤松 日二 批二 批二
 赤松 日二 批二 批二
 坂井 日四 批一
 赤松 日二 批二
 赤松 日二 批二
 赤松 日二 批二
 赤松 日二 批二
 赤松 日二 批二

蛙四場京
 赤安 日二 批三
 文化元年八月廿五日
 解行庵
 批根丸

曲河圖



いふはく

字名のくま

いふはく

いふはく

いふはく

いふはく



いふはく
いふはく

手枕可侍

たるまのうまぬ

五葉舎
三友時成



いふはく
いふはく

いふはく

梅の花

女漢の湯

さくら

あけ

あけ

あけ

傳

湖



山崎美香

侍傳

あけ

あけ

あけ

あけ

あけ

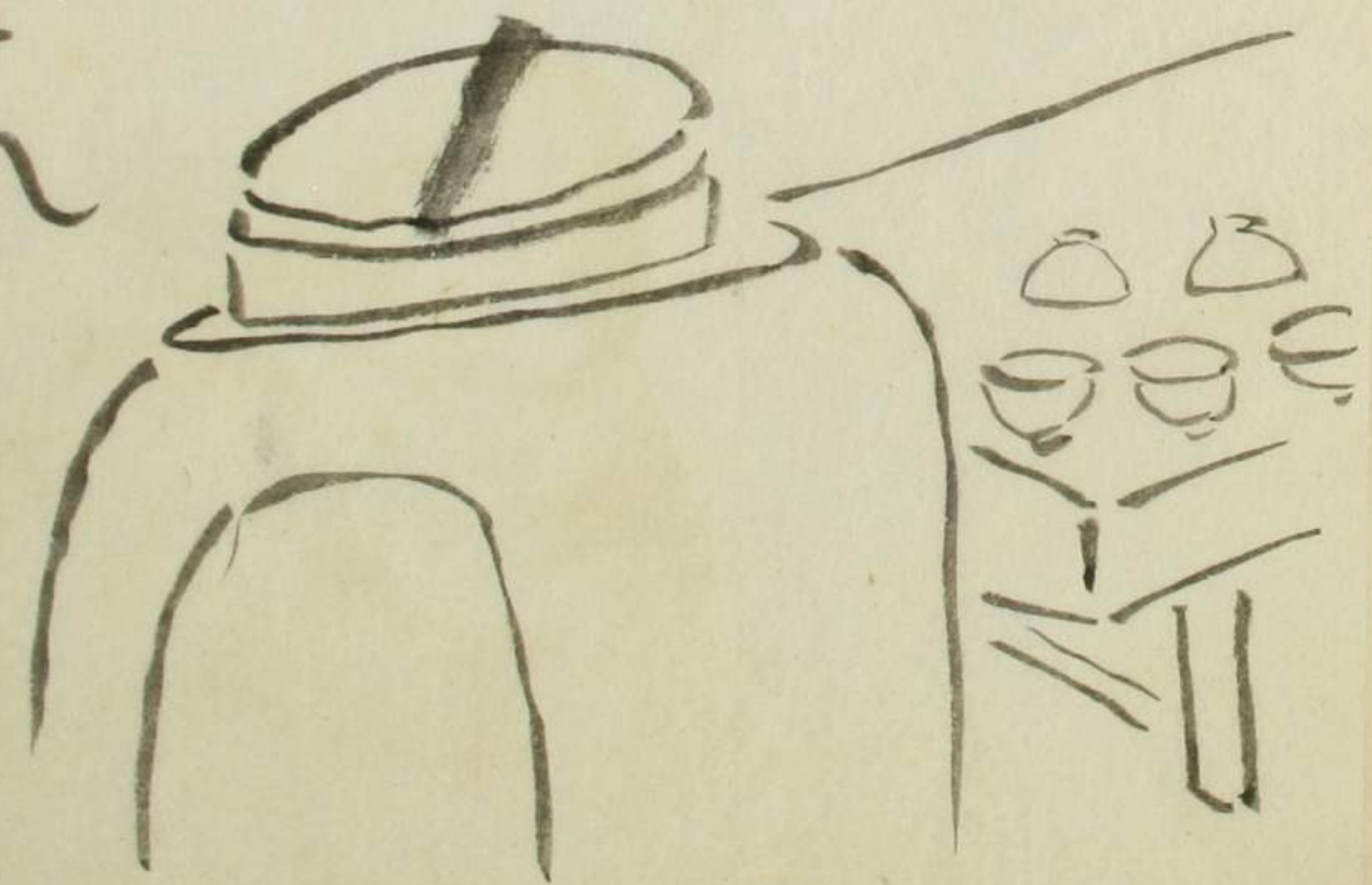
あけ



あけ

あけ

ますりて
 フ松乃
 備中園
 楊柳
 茶室
 地生
 えんま
 なるん



又雪

秋
 柳
 山道
 なるん



海を眺む
 羅下実
 兼九
 松
 名
 己
 菜
 本
 全
 全
 全



心
 お
 菊
 山
 全
 全
 全
 全



山
东
京
信
回

納涼

六月廿一日

物狂々々々

はらりや

海苔

ちみ

波の涼〜



田毎丸

暮の夜々

物狂々々々

少〜

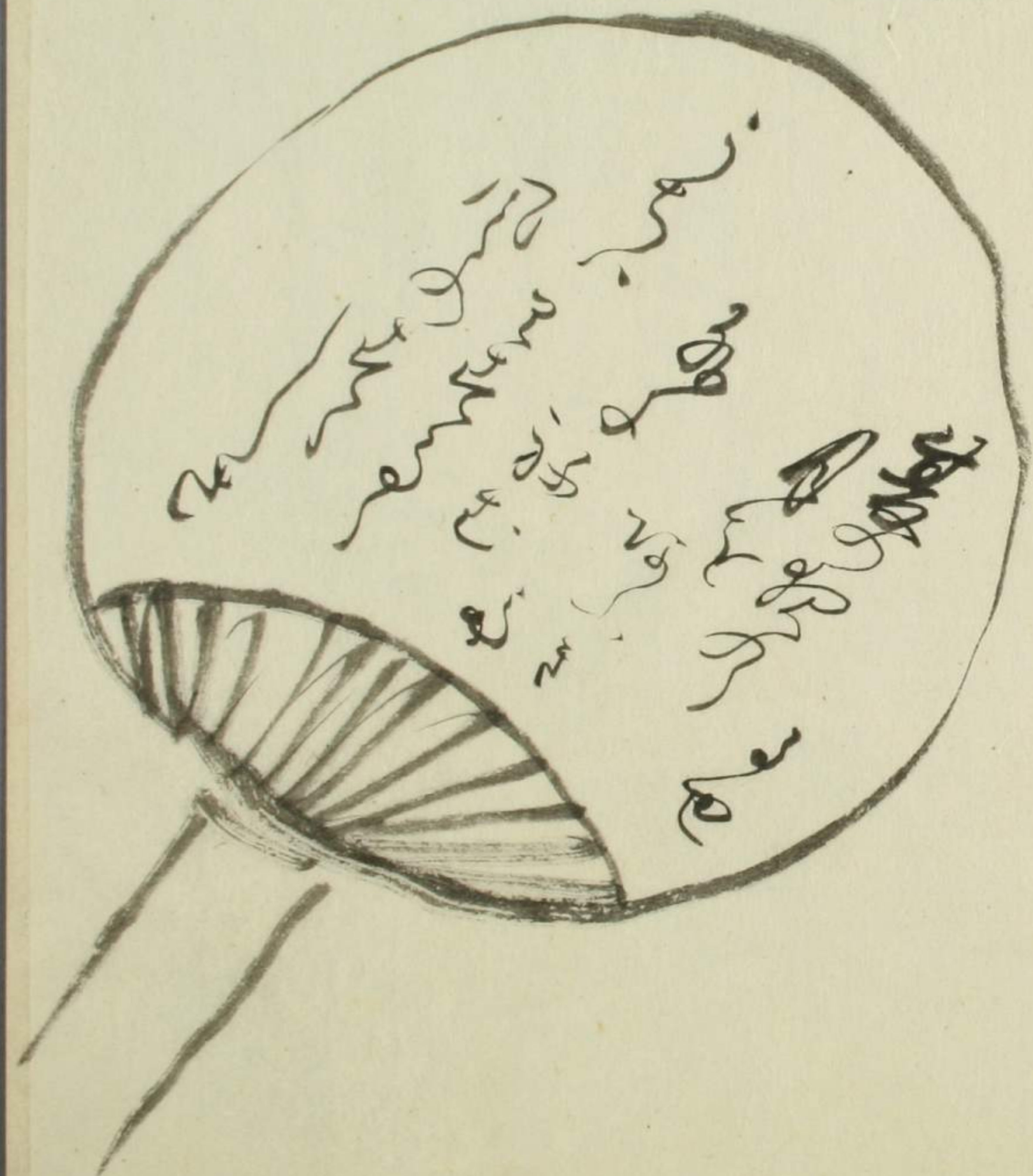
暗〜

〜

あ〜

牛芝夜々
画野



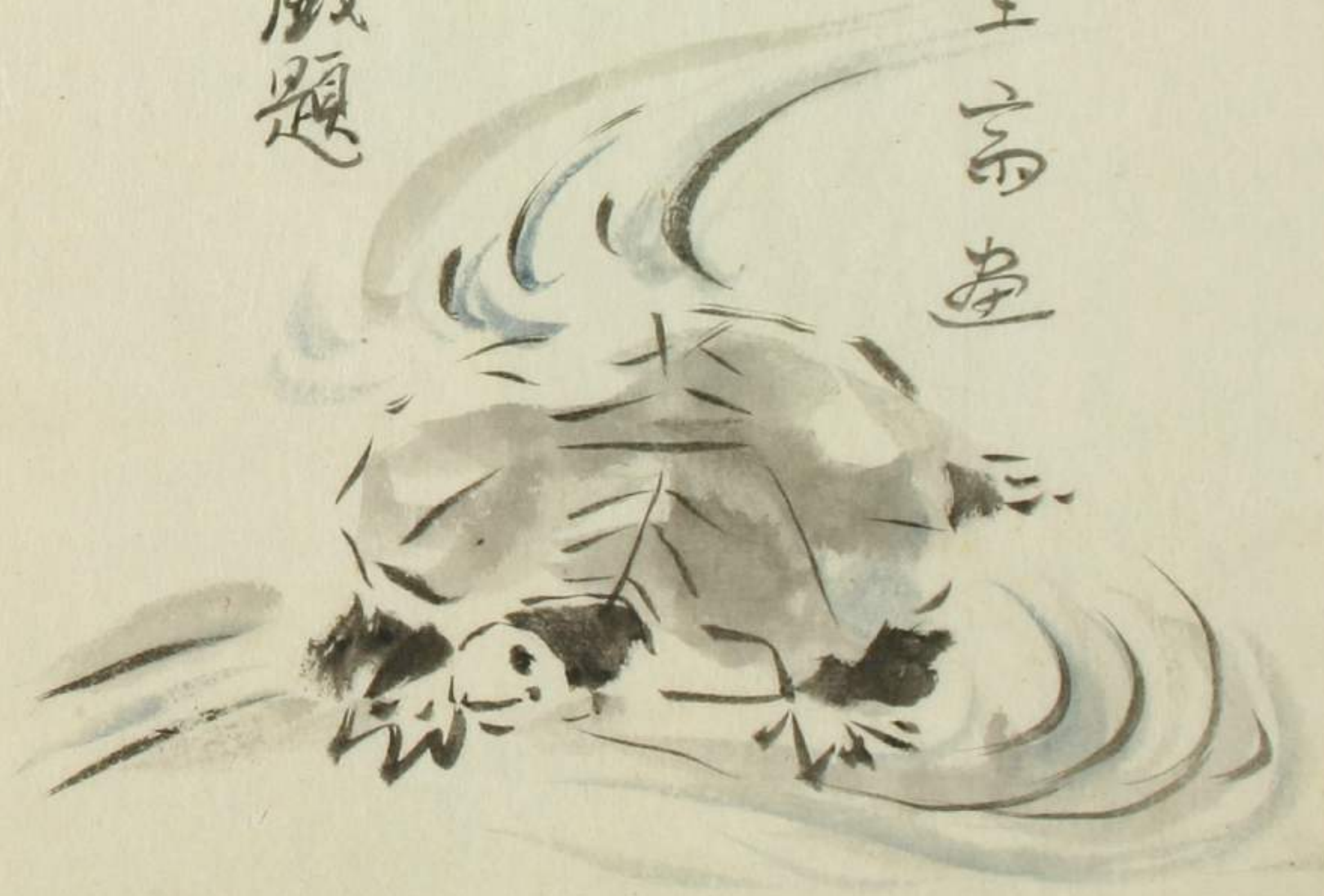


浦島元乘甲
 龍宮萬里遊
 乙亥年
 六月廿二日
 作我猪牙舟
 子化

翁詒教人

戲題

三士高遊





追風志

森羅戲画

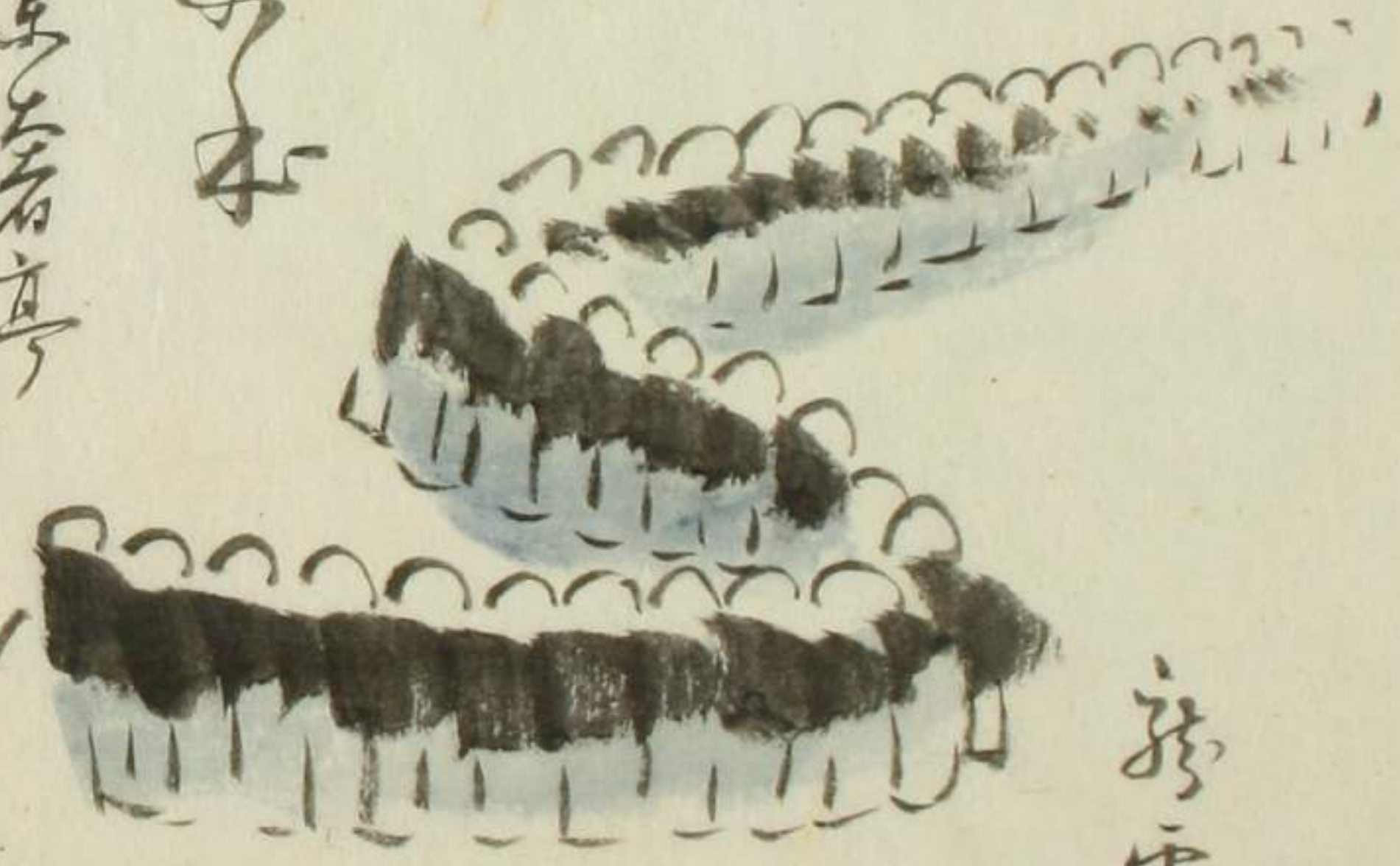


あかり
かき
大橋
川端を
舟
舟



山
花
河
月
枝の
ふゆ

葉を
保る



新
中
の
心

女之は影は月夜

いふく

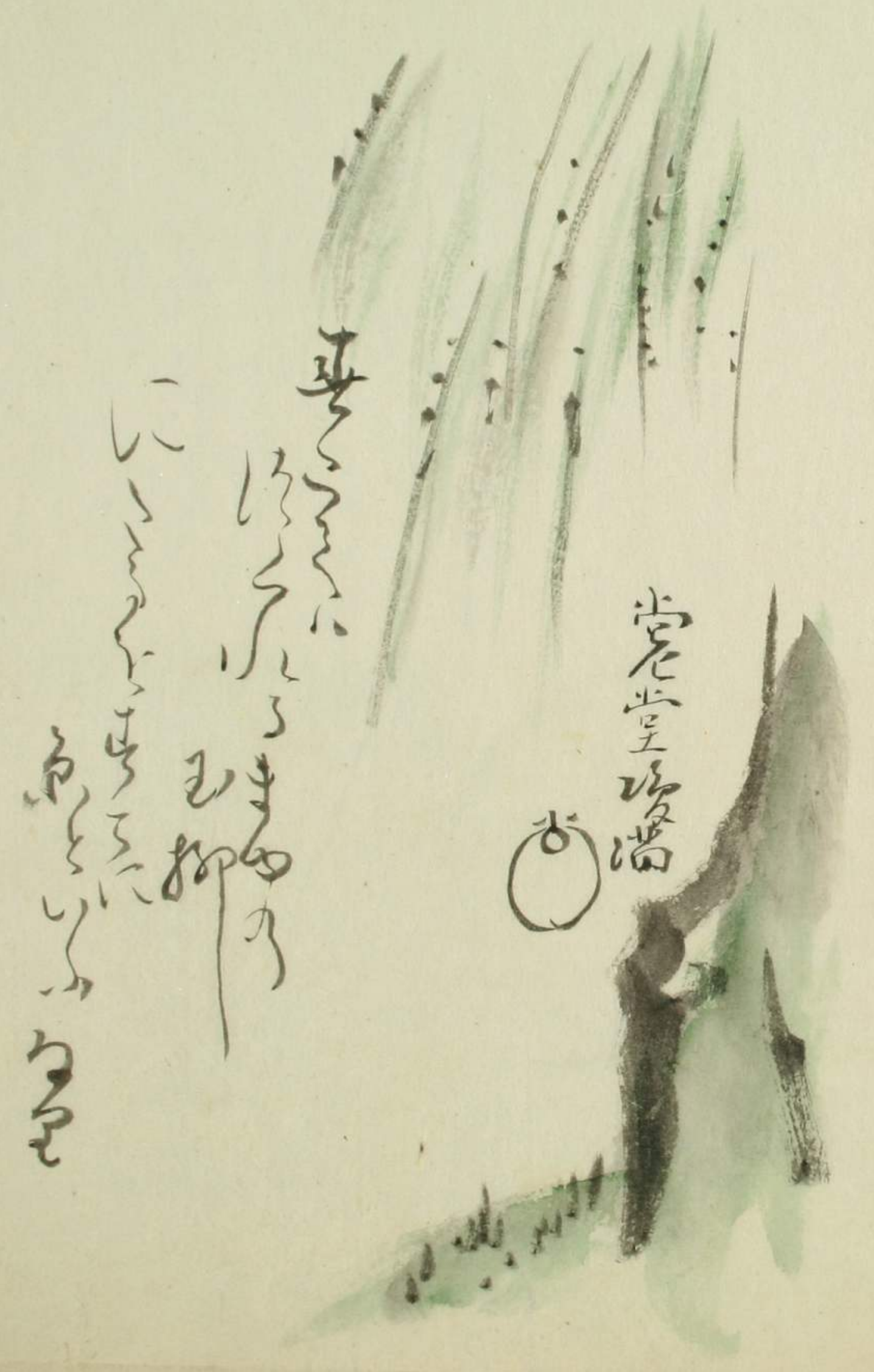
三三三相

抱いえ

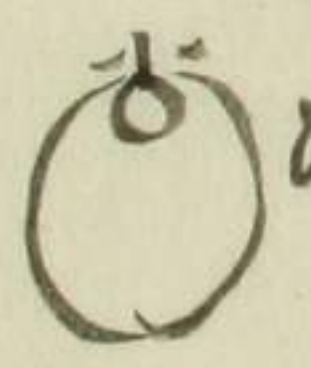


清涼真 廿四夜

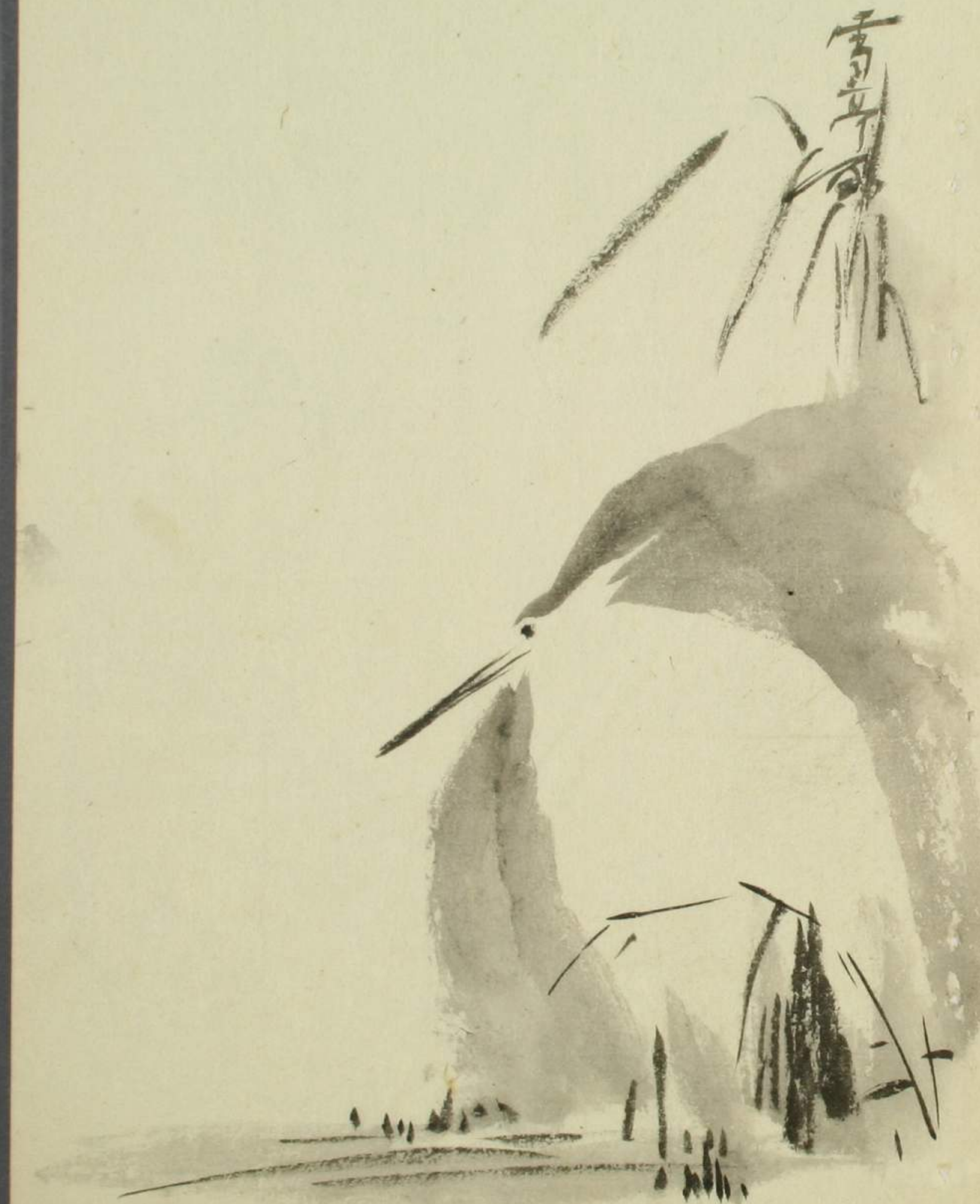
なつかし
あはれ



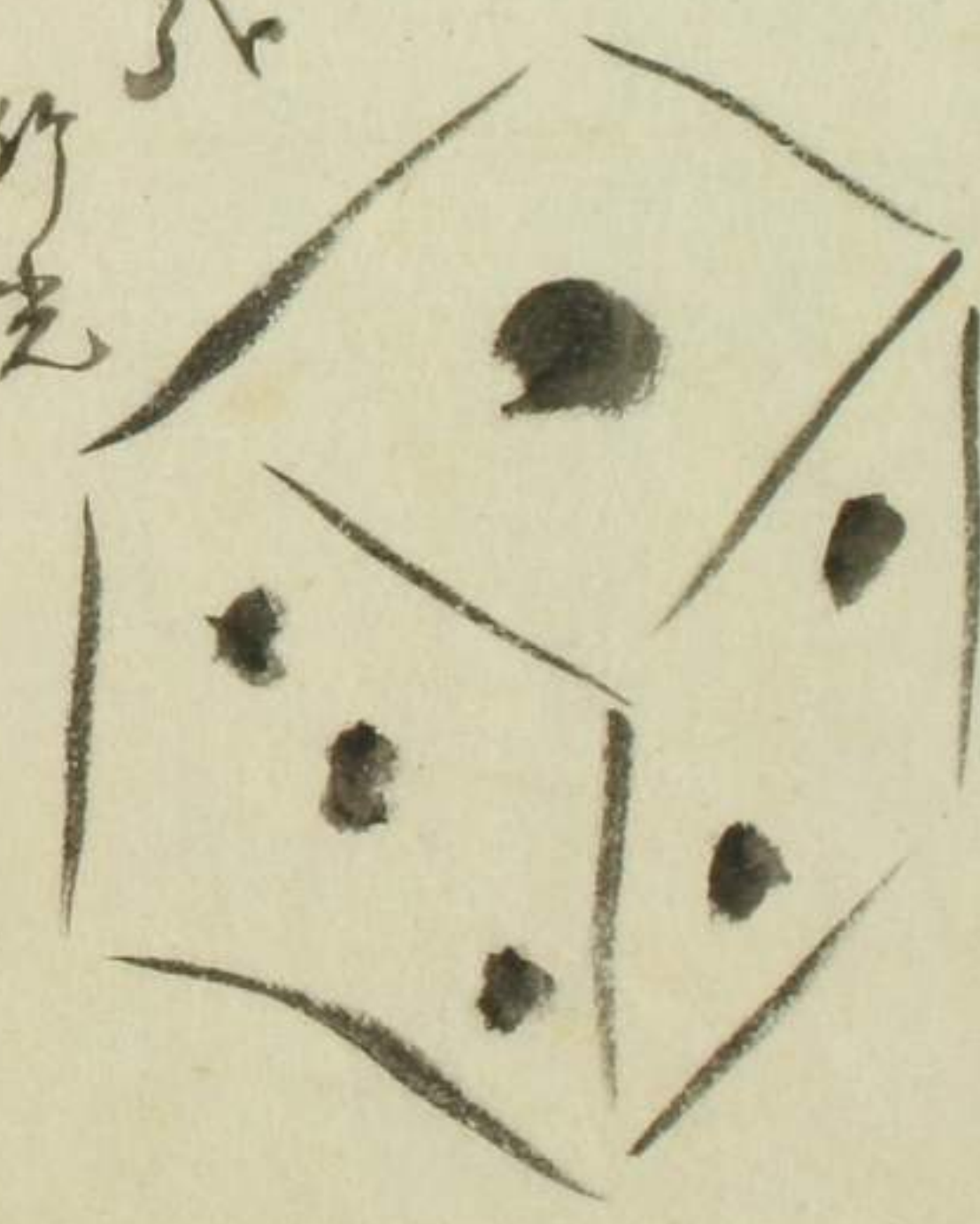
常楽堂



いにしへの
あはれに
あはれに
あはれに


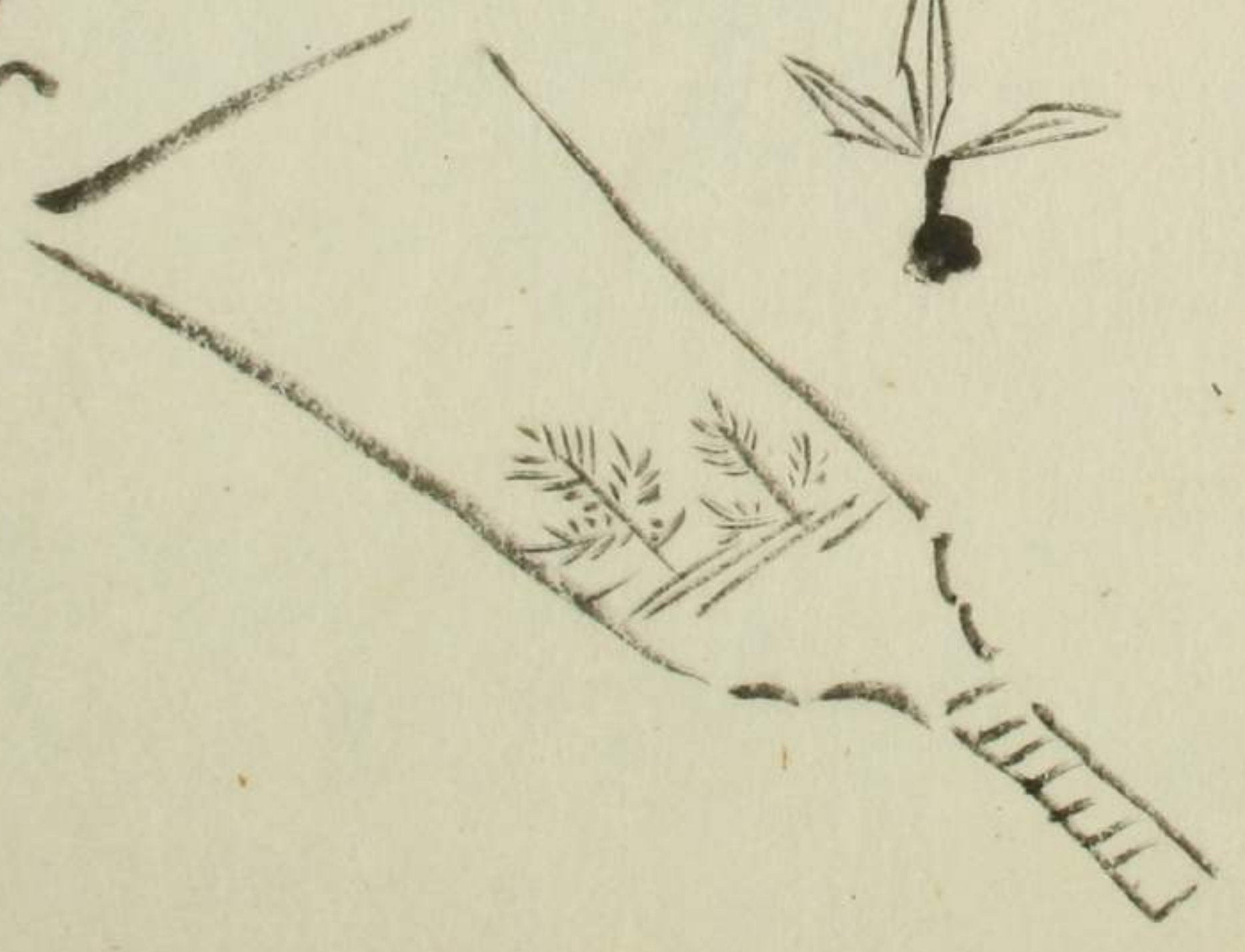


古事記の
 和名
 今鳥の
 小行
 竹光





手校東作物産會

さきほの
 一夜の歌
 はらわす
 かしらな
 君

きんぎょ

白紙と
 人に
 さきほの
 ま
 みる
 みる
 みる

きんぎょ



おれはまはり
おれはまはり

おれはまはり
おれはまはり
おれはまはり
おれはまはり

おれはまはり



おれはまはり
おれはまはり

おれはまはり

おれはまはり
おれはまはり

おれはまはり

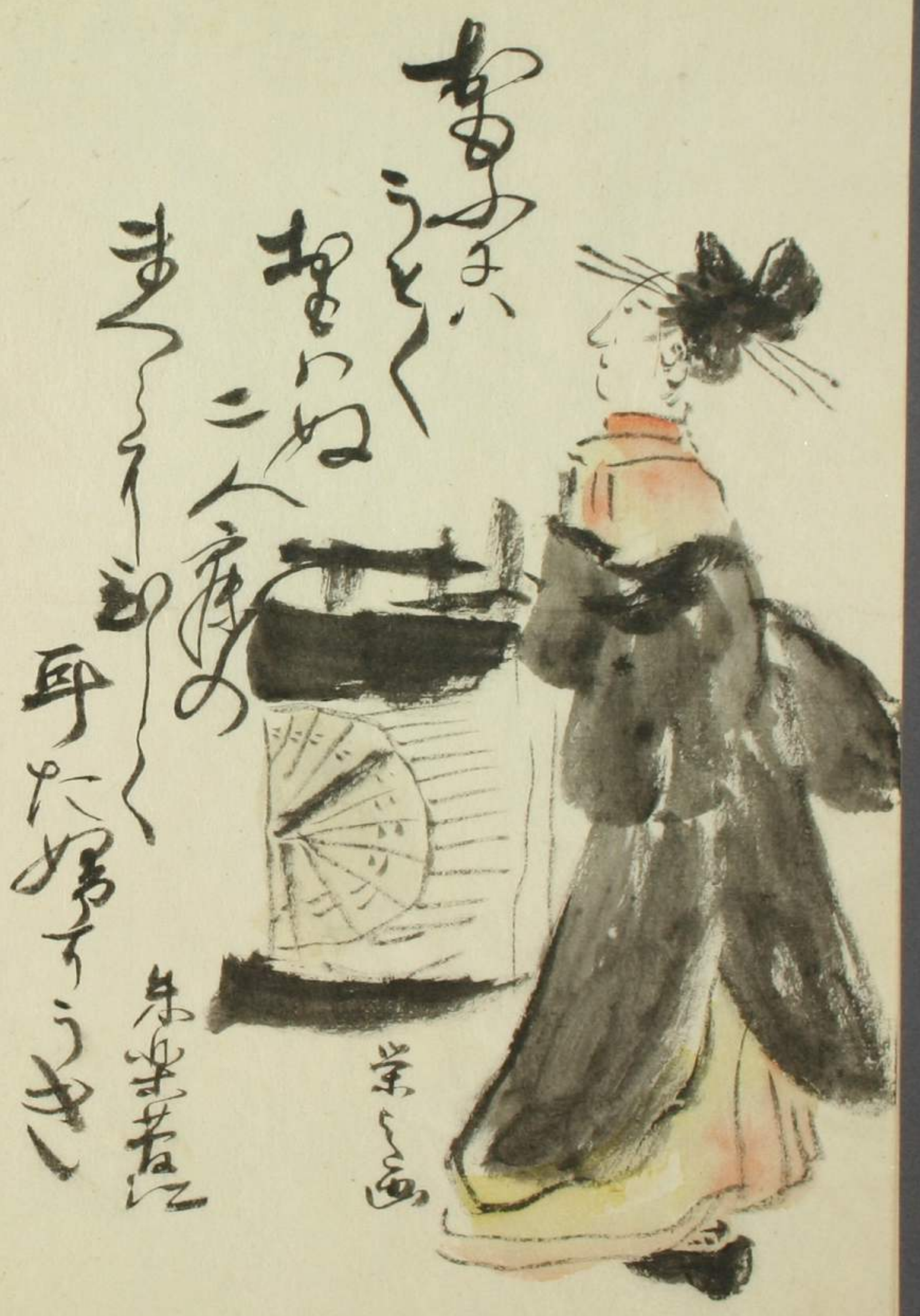
おれはまはり

おれはまはり
おれはまはり

おれはまはり
おれはまはり

Handwritten calligraphy in cursive style, including characters such as 子 (child) and 女 (woman).

從五位下源朝義勝



Handwritten text located near the bottom of the figure painting.

Handwritten text located to the left of the figure painting.

君子其慎獨

柳

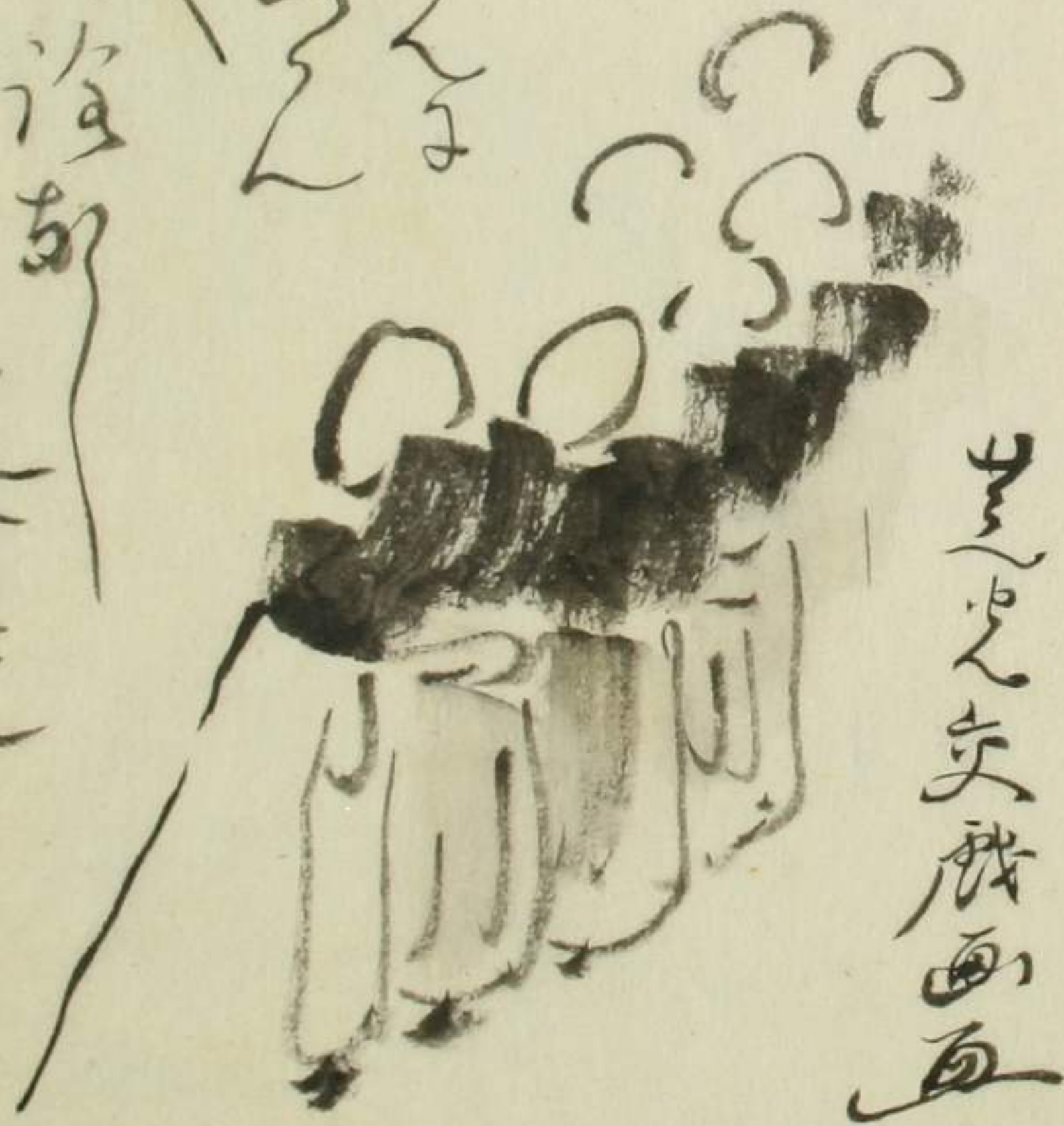
けろろえぬし

村

め

目

芝



芝

花

の

く

く

の

よ

の

の

松



研

娥

女

福

福
いぢぢぢ

招き
ハ

みぢぢぢ

ハ

あつ
三
画



ほ
ほ
ほ

枝の

あ
あ
あ

の
ゆ
も
る

猫
の
あ
ま
り
田

宗理画

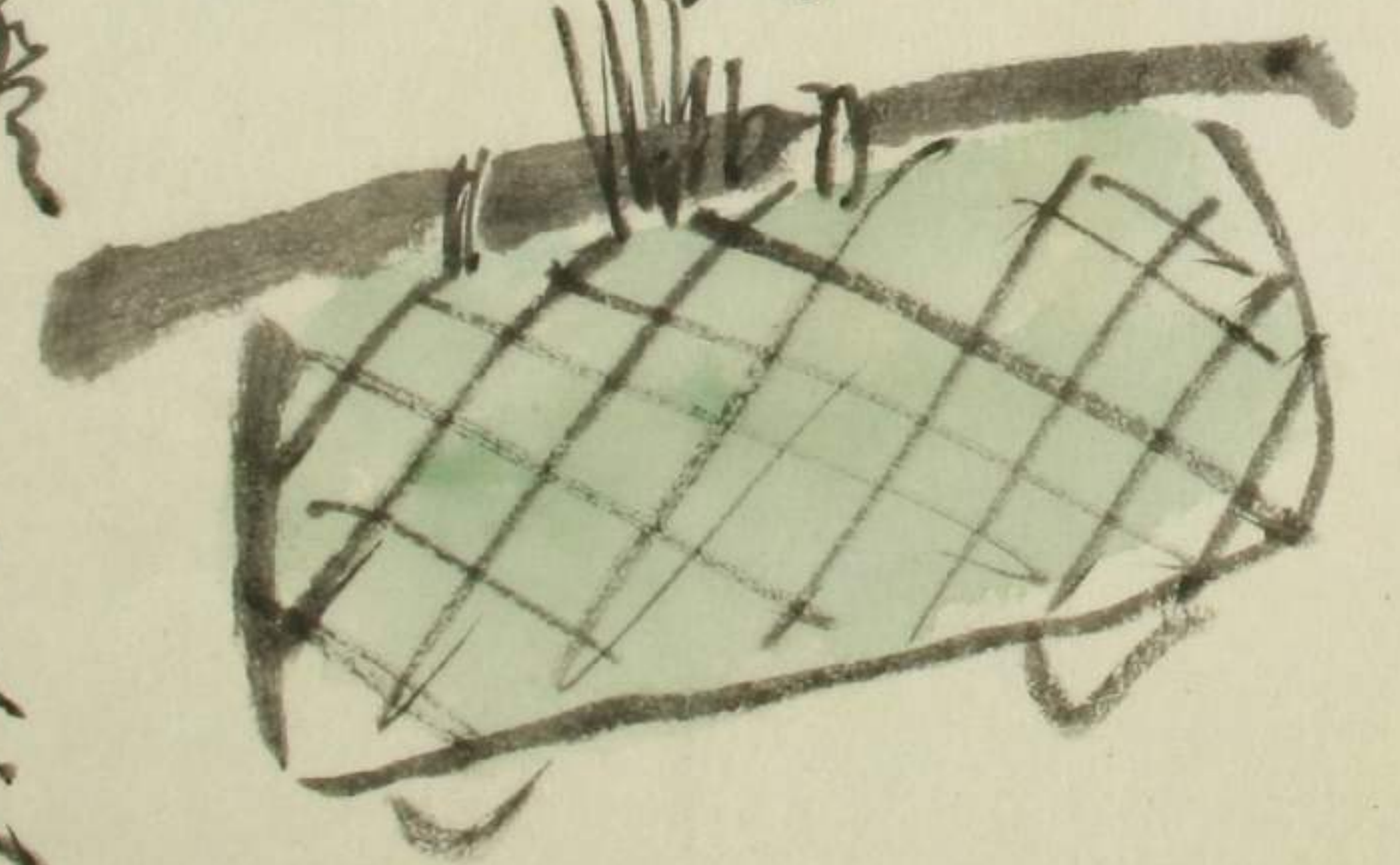


まじりの

目下

つら

いもの



増思成大

酒中よえんくろみ
のり

園地



音

ことごとく寛政七卯の春まじりて愚祖母八十あまりハッ
 かきつゝとてしきやまよ松とつり雑煮の解を
 せし海老のつての曲まらとつらふよここと
 法王子は袖ふくかき今の道をゆゑく四子思法を
 号政いとる辰則二月四日をちりてはお席御
 たいまつるあん

一 老母 席書
 以白席法意のいそ者とてこと

一 糸の守 左よ相を

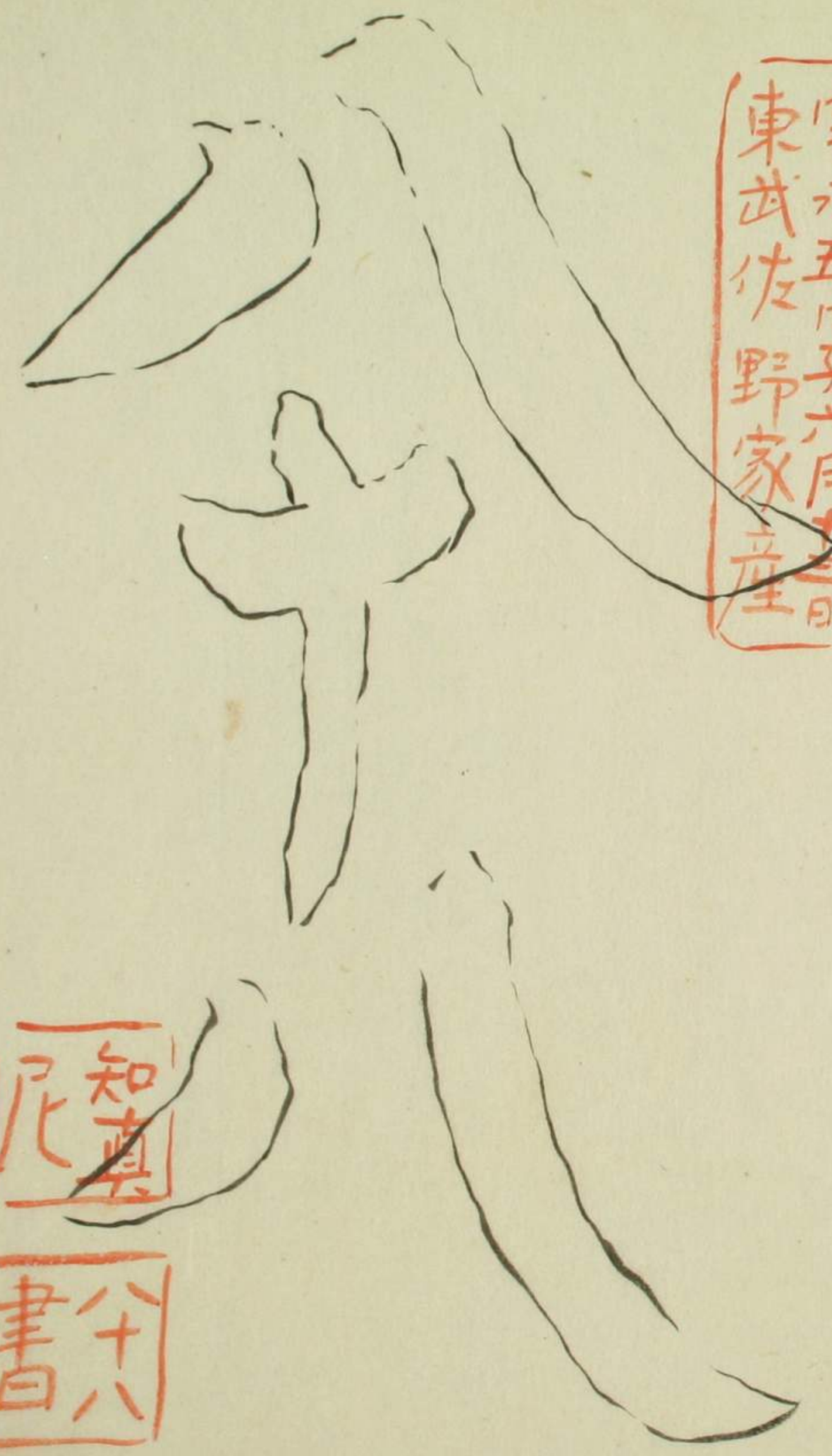
右ハ四谷録々橋谷丁垣子歌音堂下松風柳庵
 奥行朝四時ハ出席うりて 余之風柳庵

卯二月

法君子ハ糸のちちたいまつるあん

かきつゝとてしきやまよ松とつり雑煮の解を
 おらまらるあん糸のまんちう


宝永五戊子六月廿三日
 東武佐野家産




知真

十八書

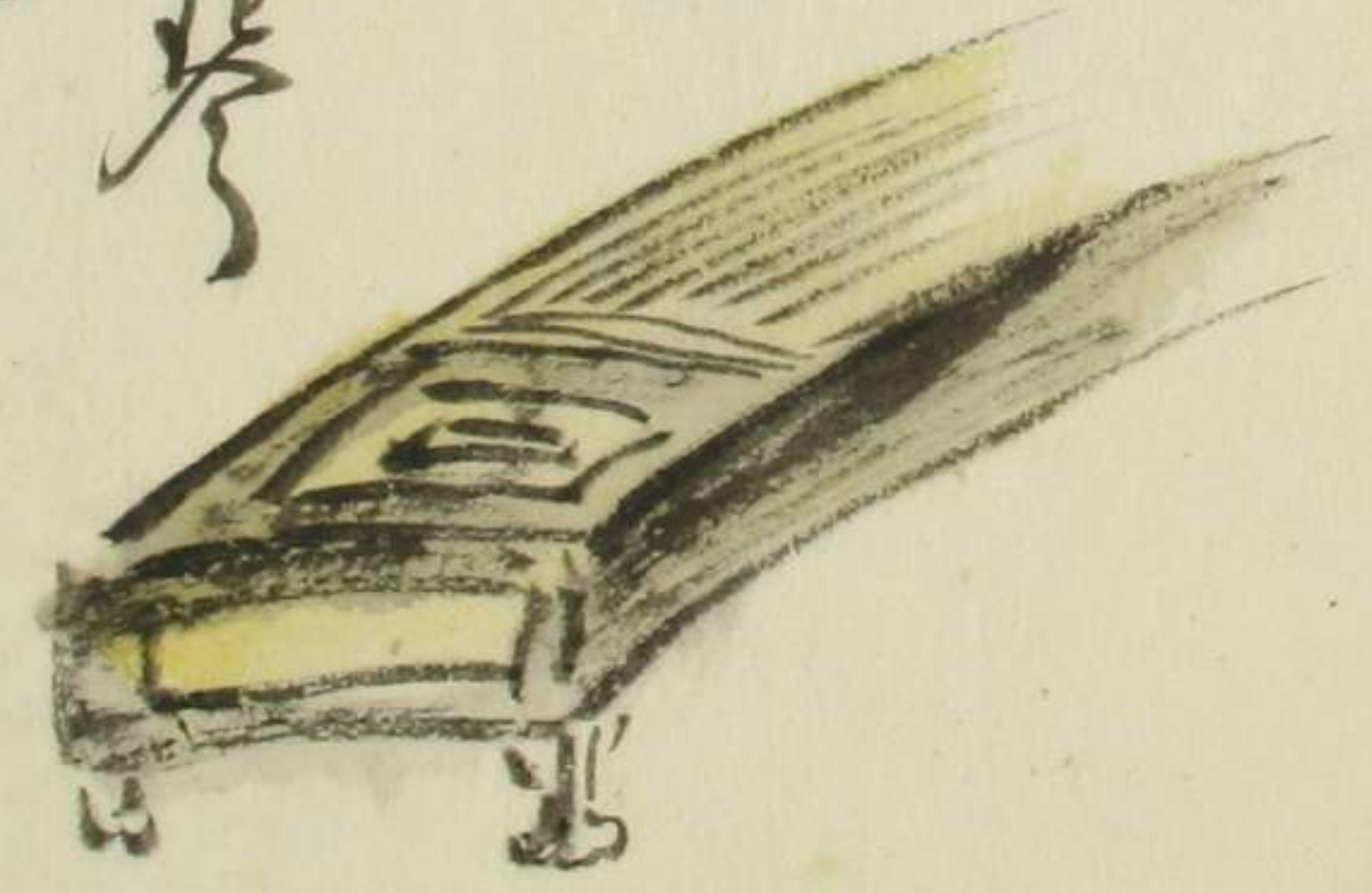
金銀
 女の
 道
 人
 ね



精迫る
 ちん録も
 あり
 御師
 香の
 太神宮



い
 君よ心を
 琴
 交
 つま
 ち
 ち



雪
 月
 人
 妻
 埋
 火
 の
 子



後にも四月の以

麻呂那夫人

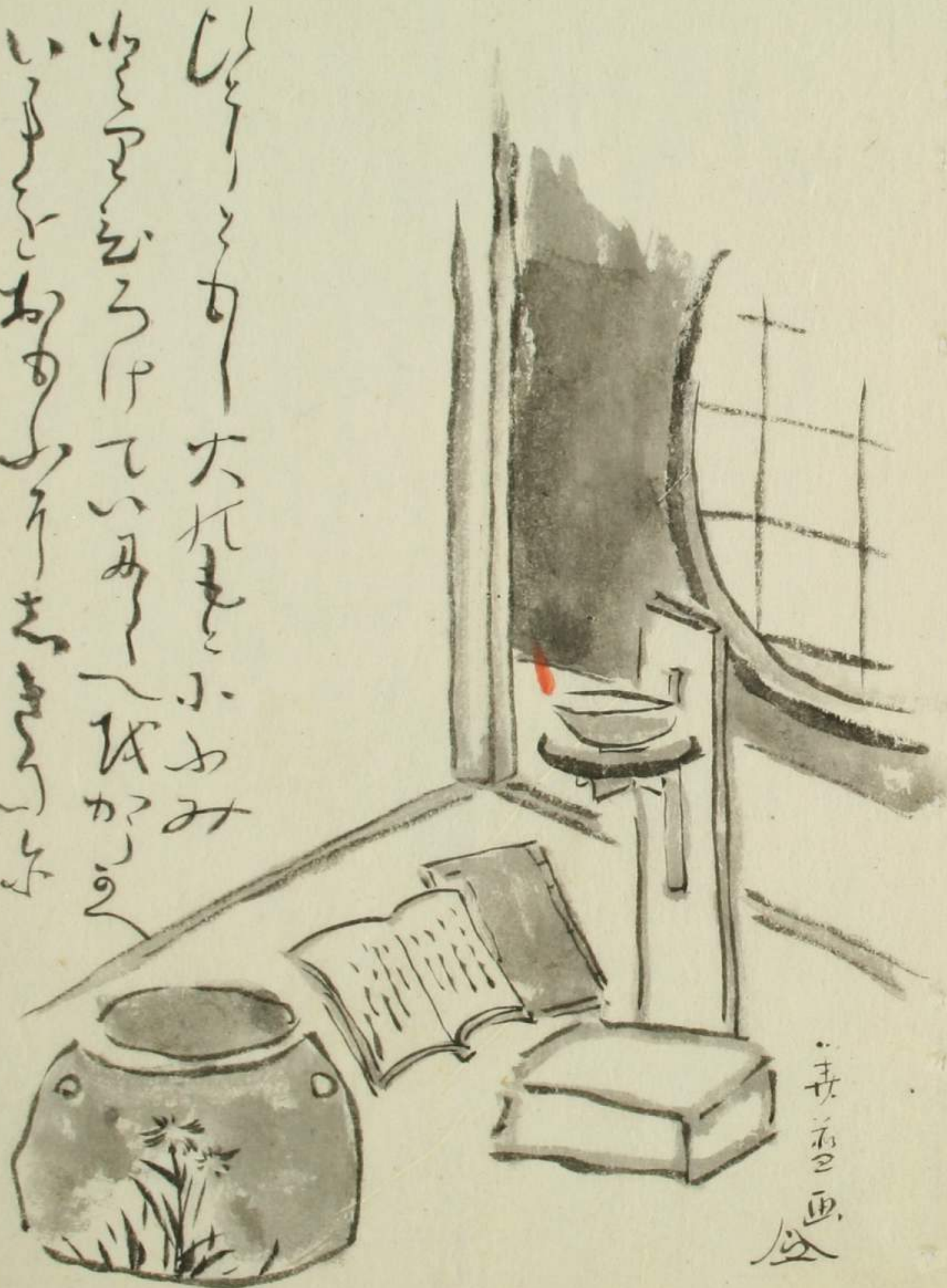
弟もわろく

あ

釋如の
誕生



善画
全



しりぞかり大れまを小おみ
しりぞかりけていみしけか
いしぞおあしりまきりし
ほしりぞかりまきりし

竹歌何となく聞かすはるの
 きりり〜我がふるさとをさしほん
 火桶もさる〜見るとふたつ
 うらみせん〜けりぬ〜あまぬを
 浦川〜あ〜樹のささるのささる
 けり〜あま〜静まれば又眠る〜
 何れ寝るの声を〜あり〜
 忘るる〜あ〜あ〜あ〜
 地も〜あ〜あ〜あ〜
 月〜あ〜あ〜あ〜
 さ〜あ〜あ〜あ〜
 明〜あ〜あ〜あ〜

素外



波山東京傳

津高政編
 一名牙質の打挿
 三條

三教色抜書

四季繁糸花曰孔子名丘仇名通其先通也

先生小夷歌清河人か

加 事法

師の極成法に三教とく

こゆん方子の法も教かん

三教通作者

唐末泰和



狐を虎の威とからしむ子建と
走りしりき父のるも法一紙とて

世懐の言は丁よるまのぬれ

も誠は月言の親の目かこえたり

今道も能くしこくな力蝶

この次の幕も折わ

世園賞才子

まの衣 香玉
西の衣

原要三郎観流齋原富子
住大草屋敷

大枝吉車、養女位大州屋敷

大枝系兩娘

とよみし



秋原君十郎位曾祿源八家住小川町
命よすり給へ折ありし書
の記ありてまはる

大枝系兩娘
とよみし

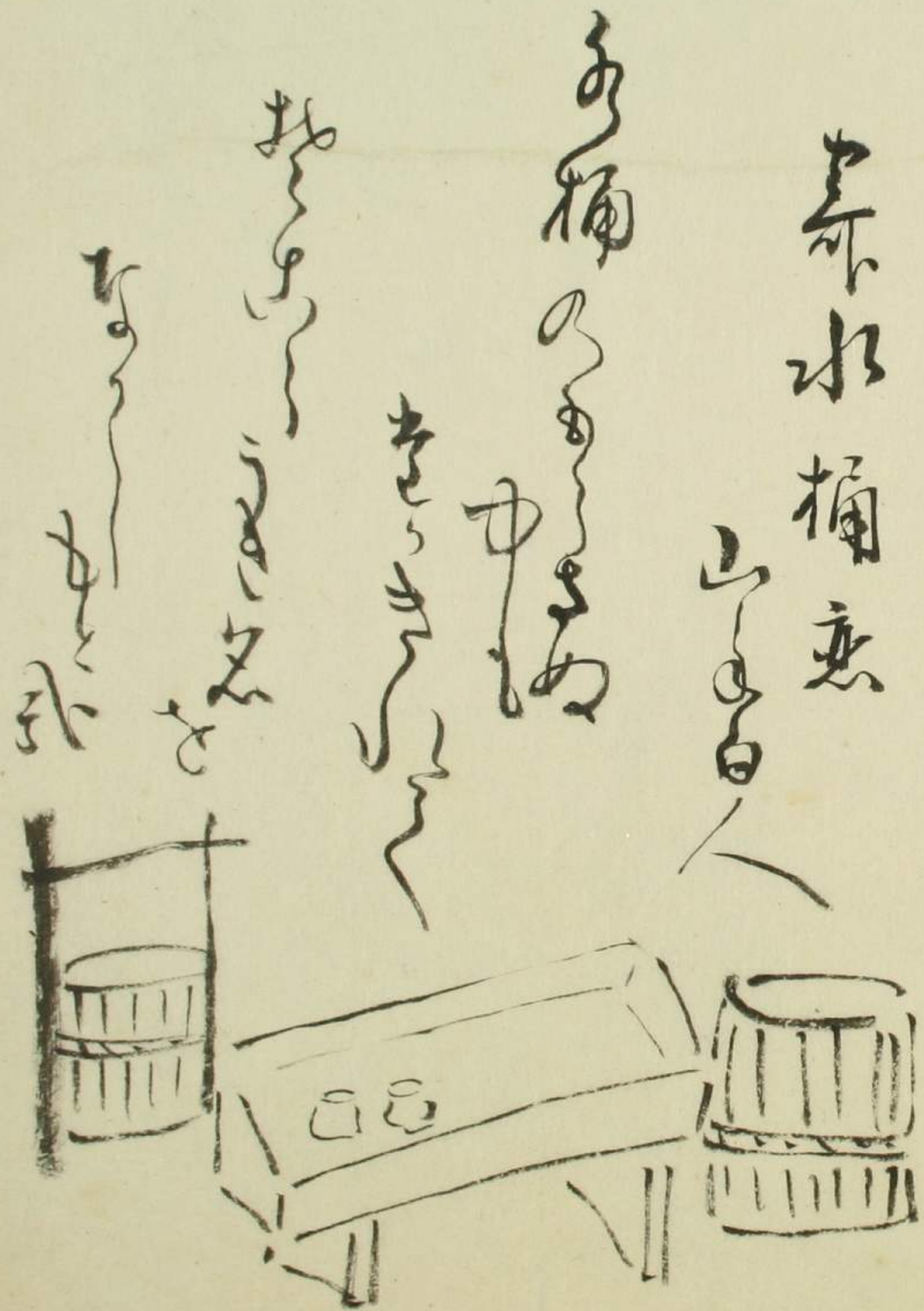
大枝系兩娘



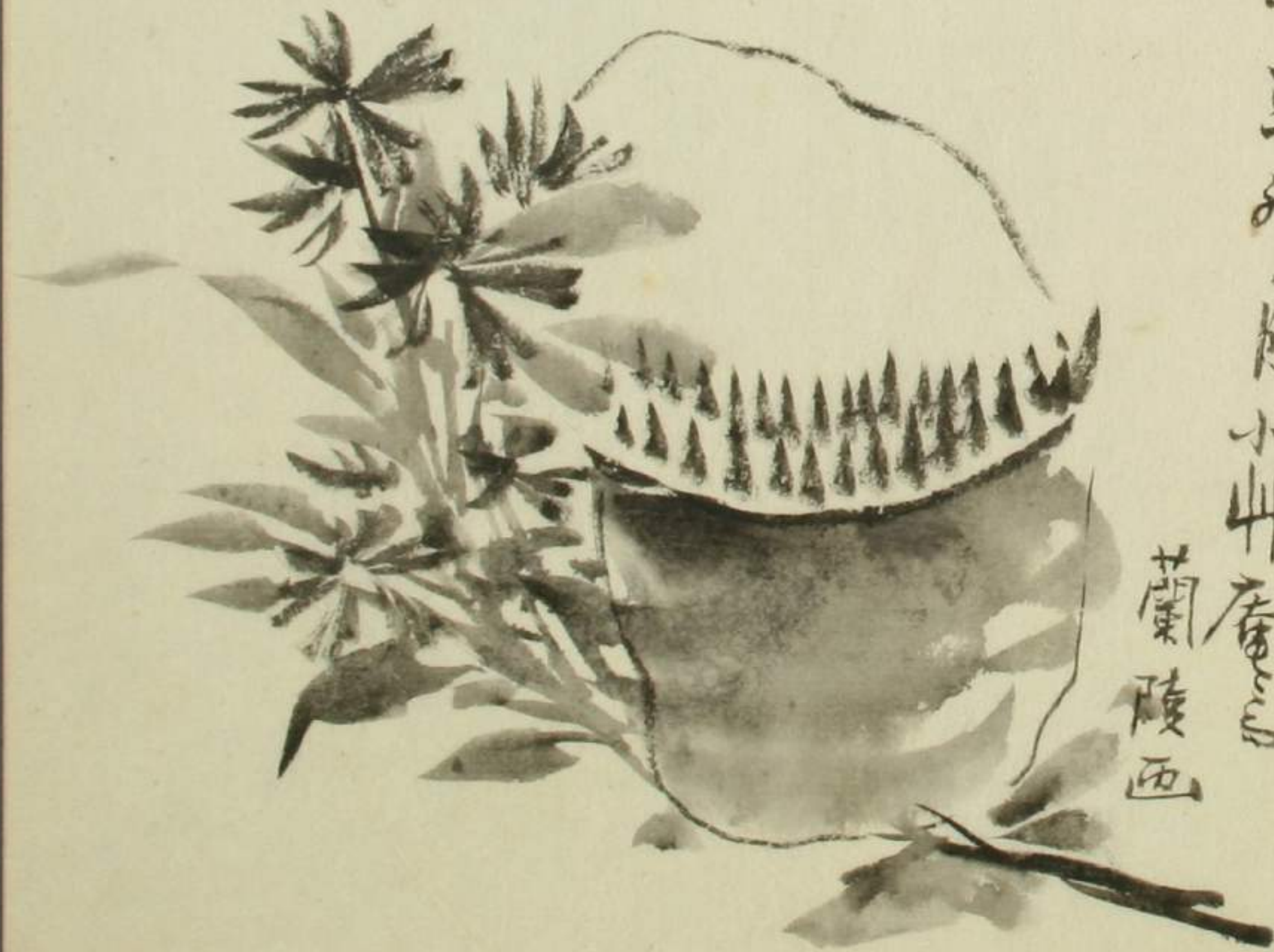
此系田の記

秋原君十郎位曾祿源八家住小川町

布施陈三郎住三百板



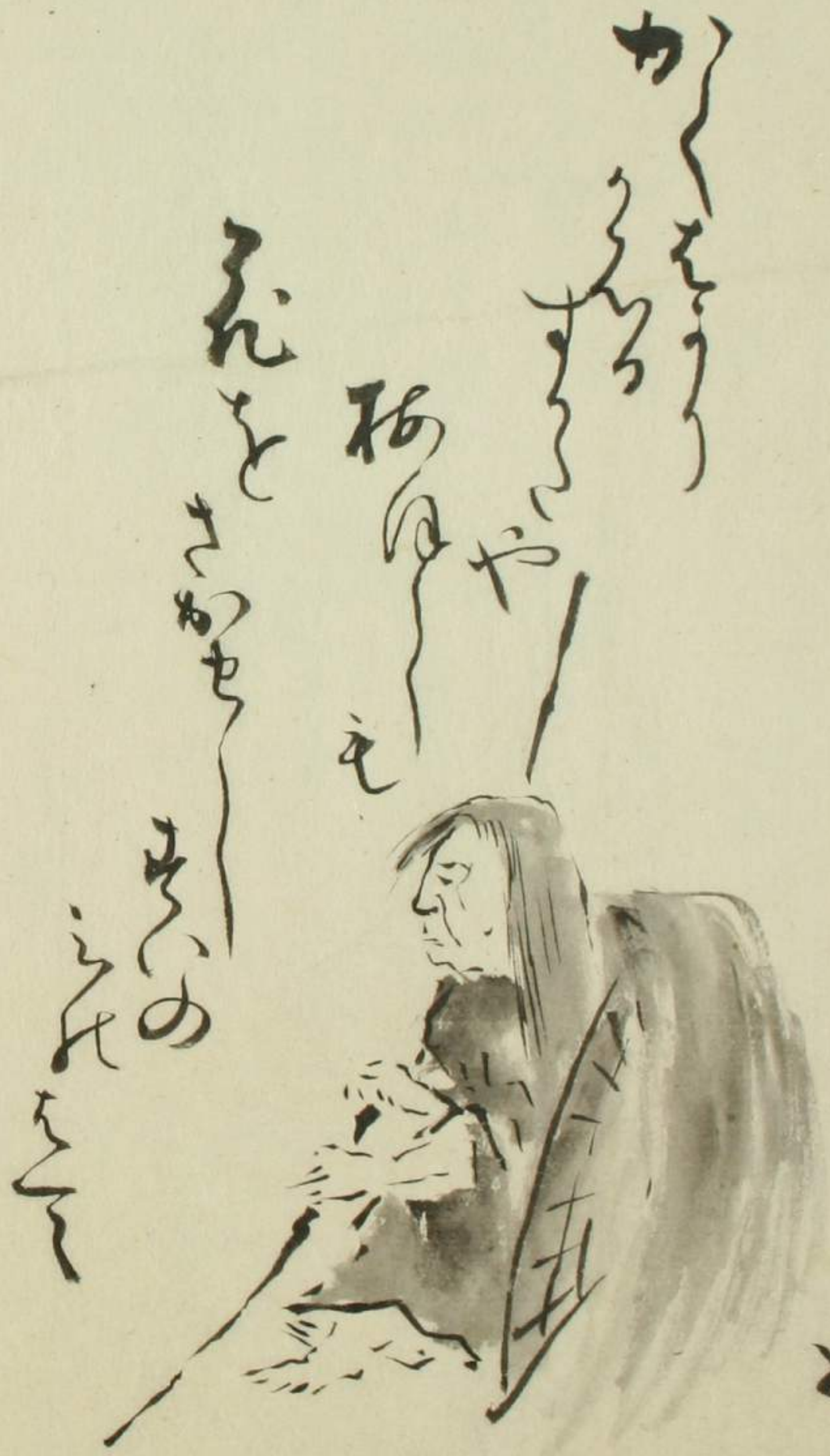
住大草名補



天明三年卯月小川庵

蘭陵西

渡嵩松住西窪神谷所号落栗卷
まじりのむらじり白髪翁よ



家振屋小左衛門 住市谷日下

山崎のすきいひくはの額

梅皮釘井

何そくとも可の浮世成
すき揚枝る金とすの
うきうき

山口長年水匠小石川金杉高松彦藩

馬名殿補

神和真買小糸かみよあす梅
きり玉あしり一連子娘子健也

夢あつとふり

高松彦彦

あつとふり

ちや

あつと

あつと
あつと



北川山人画

山口治部少助 住小石川金杉高松彦藩

山口喜房三席位小石川午天神下田安藩

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村



山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村

山ノ下村



山ノ下村

山ノ下村



信澤重三郎住小阿所高松彦中郎

多減居人よあふふ

改修

是より

思ひ

あ

是より

何れ



初生し銀のふとあち
たもよも歌
さあ
りふとあち

銀のふとあち

あ
りふとあち

栗原簡賢名安字子甲 初号文平姓多可谷并友姓名乃匡住京橋水前寺
後漢細也

伊吹山の名

西井 安太郎住

あまの

鴨青羽之

あまの

あまの

あまの

あまの



高慢 益 益川 春所 於
子孫 考 之 應 需 寫 之

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの



高慢 益
倉橋 寿平 住 小石川 春日 町 狂名 酒 上 不 埒 松平 豊 冊 後 守 臣

柳原男依住牛込若宮小路

新撰道の人とて

御所の関子殿の御所
切羽の御所

村岡孫右衛門住小河町廣小路佐久間六左衛門

宗舟

あの子

百とありの地

古蔵

四のしんを

柳原男依住牛込若宮小路

地獄か

松田魏伯住妻恋医者

柳原男依住牛込若宮小路

か

吉田十五郎住石川金杉高松度藩

宗の御孫の御孫 長き御孫の御孫
衣 子者御孫の御孫
八多御孫の御孫の御孫

おはる御孫の御孫の御孫

開くとやみ申くのおくしとて
安房の御孫の御孫の御孫

神路

よみ人おれい

大膳亮好基住平也市川前医官

老水寫

あまの御孫の御孫の御孫
あまの御孫の御孫の御孫
あまの御孫の御孫の御孫

梅志振右衛門住市谷田町

山道具屋片目



湯屋涼さしとて題よみ人

行水も所離さすみの湯殿山
あまの御孫の御孫の御孫

新言な紙

平河屋住市谷田町

宗新茶屋

場成

あまのり 吸りて ころし 申を
業名屋武右衛門 住牛天神下 薬種屋

宗新茶屋 山川 申を
大高に助 住山石川 高杉屋中郎

角田川

宗新茶屋

朝倉源之住牛 辻道坂

赤ら大人のあまのり 申を
宗新茶屋 住牛 辻道坂

ハマのあまのり 申を

宗新茶屋

あまのり 申を

宗新茶屋



六樹園五老大人
今四谷 新宿 宿 虎 撰 町 中 村 屋 清 三 郎 親
稼屋七 女 兼 住 小 代 町 下 目 筋 屋 兼

号文笑 住蓮井下 此 岸氏宗在東門

四方先生成

といひて

清々水城

これぞ時

ほくまんと

十とく

もたぐ

法松の産陽子

何して清々水

より魚んけり

はとまのり

つむいおえん



牛足のみくのみま

るのほり

ちよ

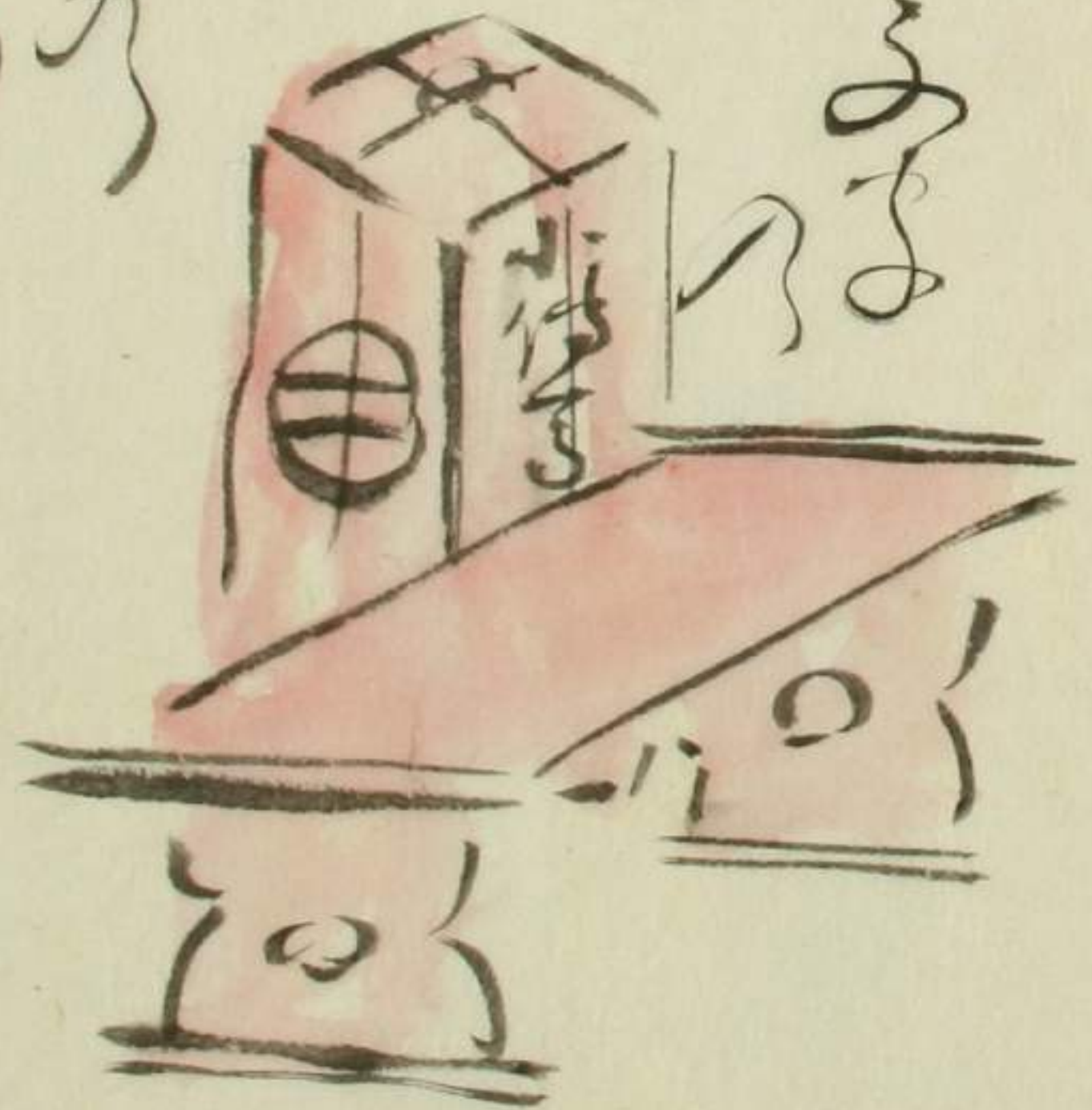
柳

園

山

あし

ま



号柳和位小侍守所二丁目

大西南南南位付通流市匠園名

四のしん子

帆の申

西大

東

道

道

道

道



新頭御所

雑草

長野

あまのあまの

あまの

あまの

あまの

あまの



源

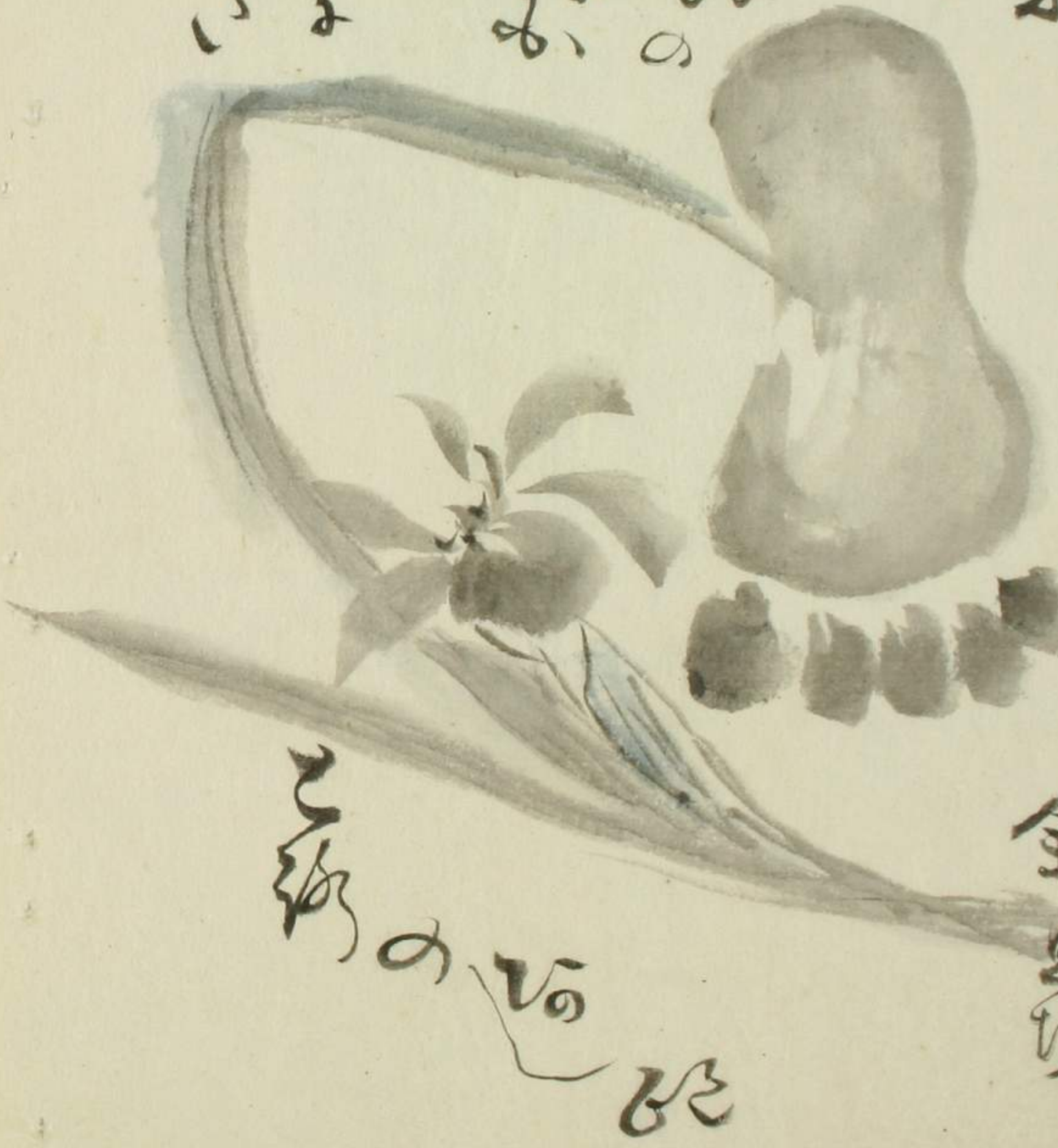
狩野派 賦任 御指所 水滸画工

つゆ

浪

うねり

しづか



糟の齋
全
是
場

こけの石

澤庵和尚
一文中
根

石

石

石

石



草加作 石の石 環の字 楯仲 号 無海音
住 常盤橋北 香曲 剗 公 郎

今濱所山伏丁井戸中井清外

楊の

赤の

下平の

有馬山

筆と足は

鹿成

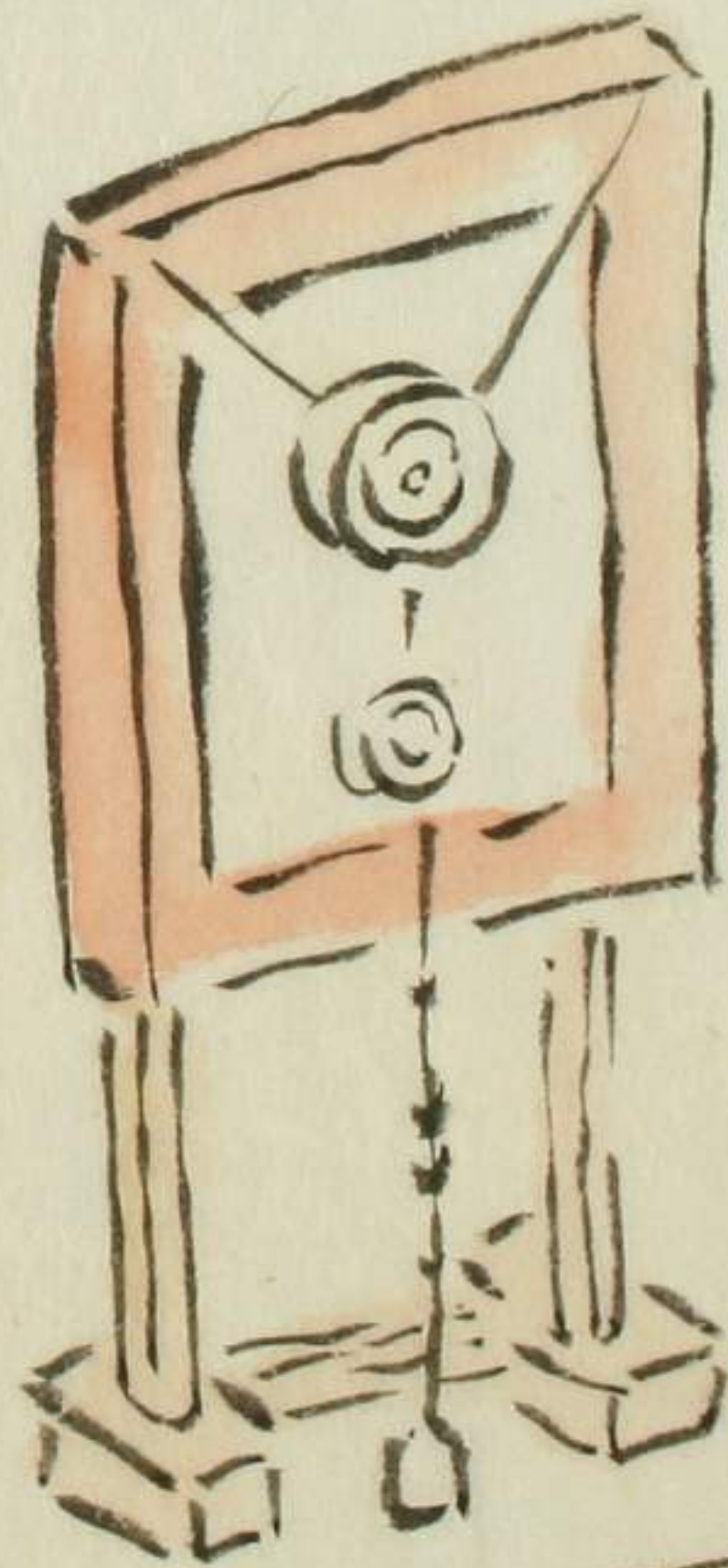
しの筆原

東武盤橋邊市隠
本街二丁目

結の秋人

自画自賛

燕



燕

燕

燕

燕

白子屋 孫左馬 氏 合 込 所 表

大倉 表 作

牛解之

人の

上の

中の

浮の

世の

中の



稻毛居士金堂院居士德之字子王瑞東蒙山人
住四谷内多宿

系

子

子

子

子



自西野

嘉德庵
東作

醍醐祝

坂月人

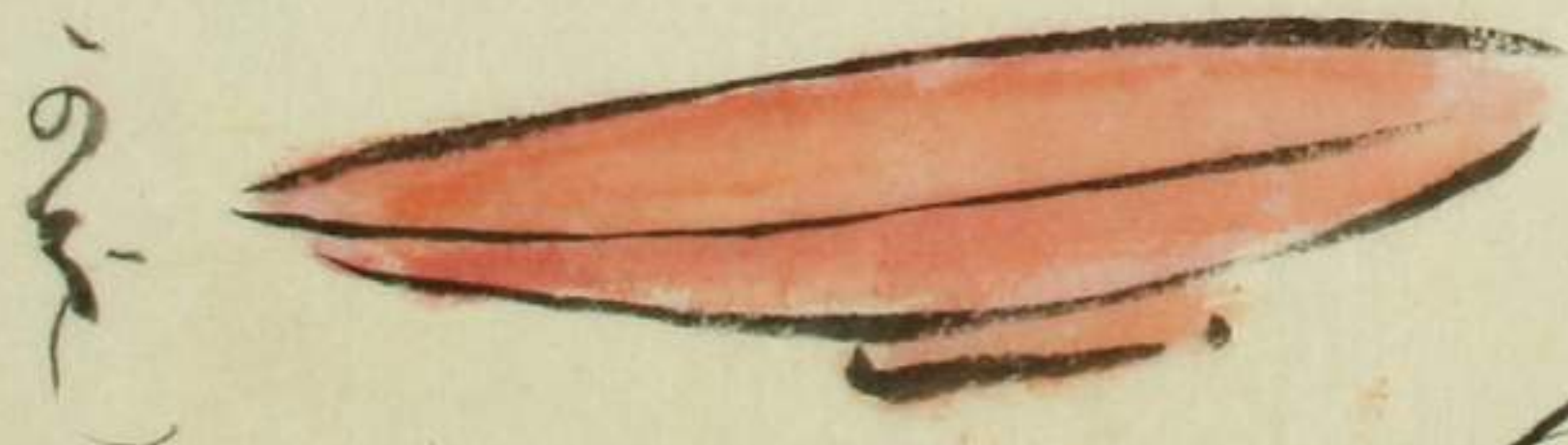
け

玉

ま

り

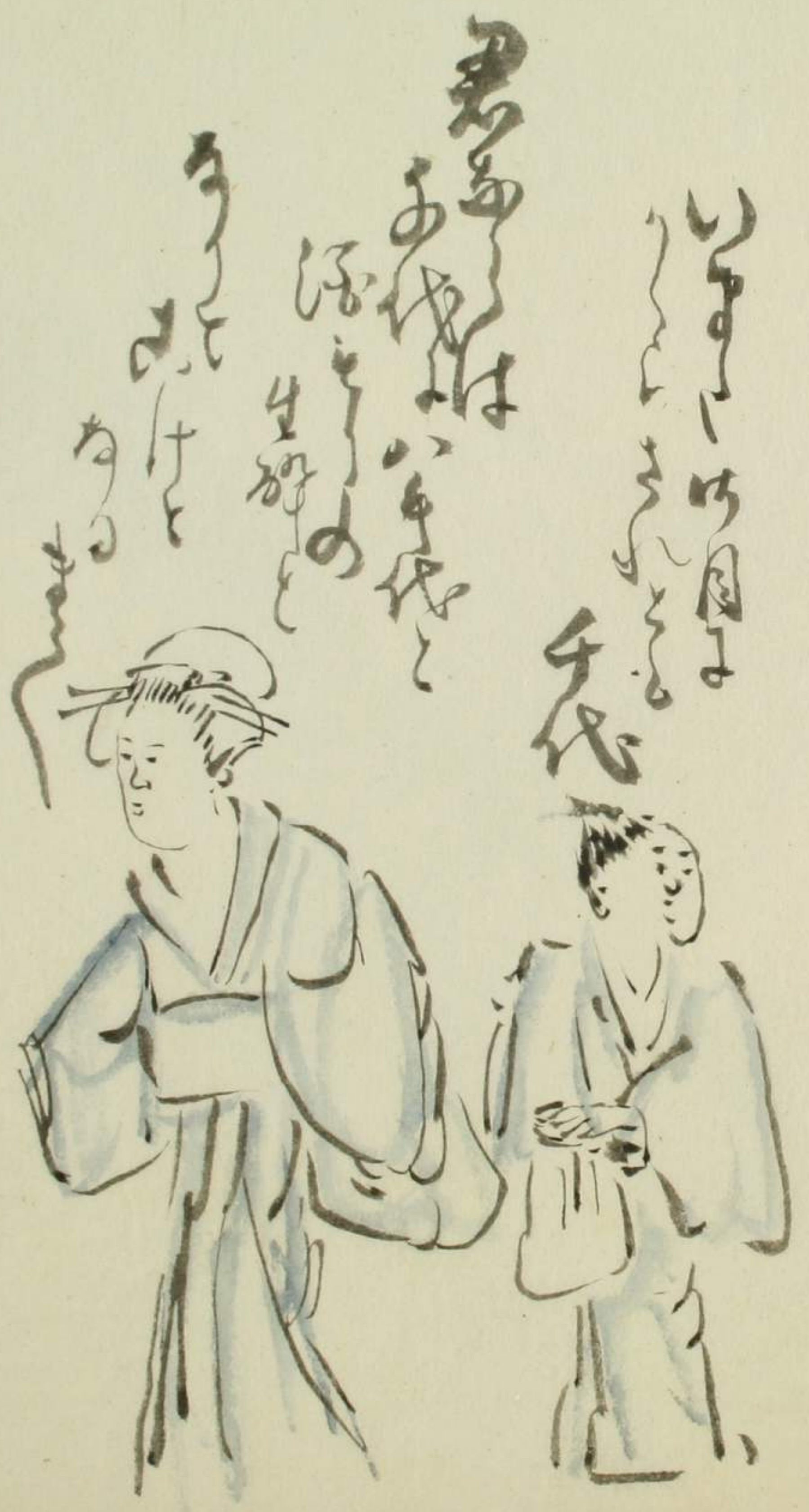
か



住全吹下京

山崎御即名景貫字通文住此加賀長瀨原二十騎所

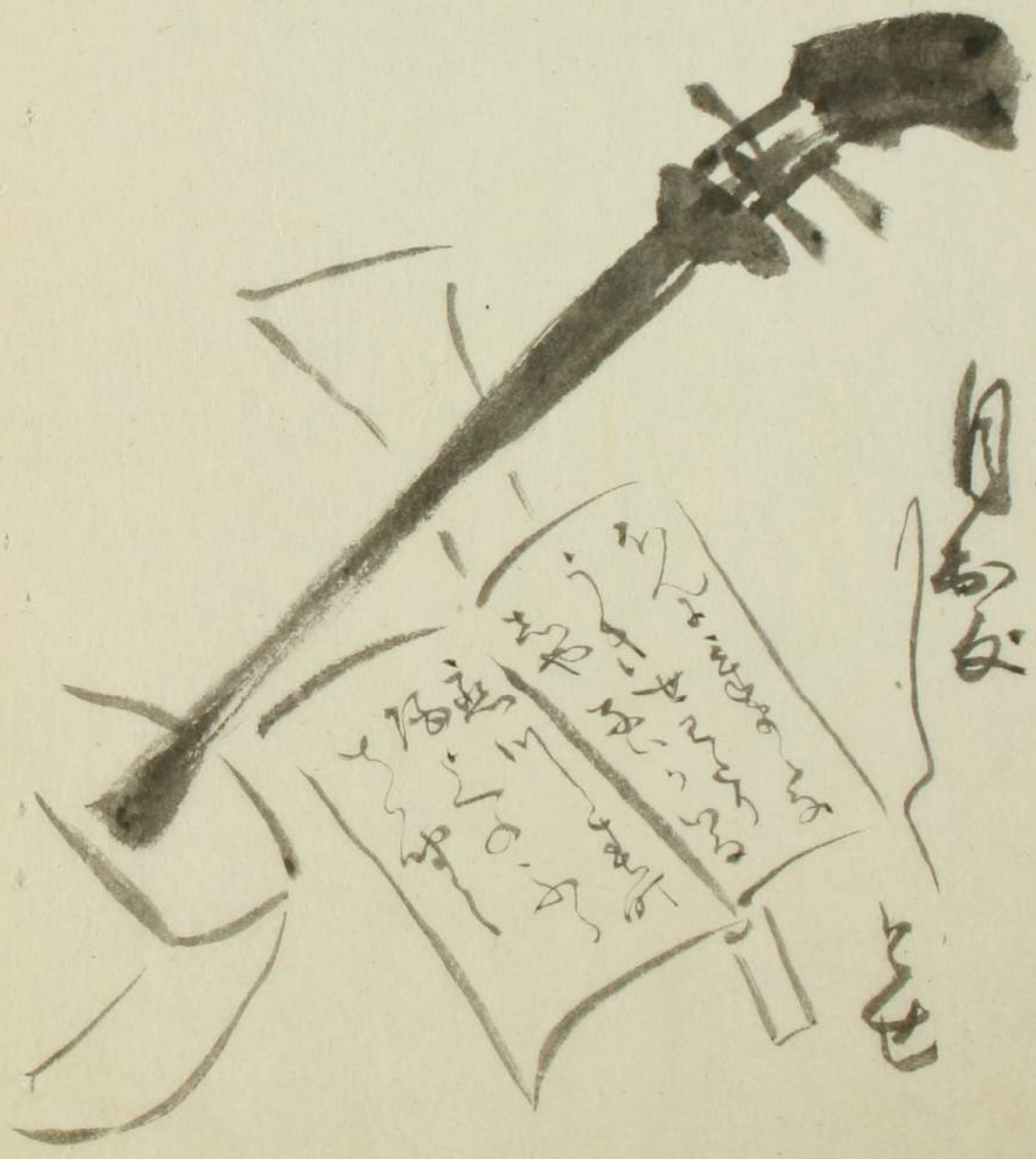
中々世々
別々世々
御の御
卯月石山
川舟道途
まのの
きよの
福の
朱葉書に



海上の御
道州屋於千代位葉研所
無川

增田 貞之 琴之 師 住 堂 研 埜

貞之



市川

花

力

生

芝

市川 升 龍 号

山本 房十郎 住 西 保 祿 谷 所
水 滸 能 後 者
市川 升 龍 号 所 車
狂 名 通 小 紋 息 人 被 在 此 以 名

市川白猿

都人の

は貝類貞氏

謝

あつこのあつあつ

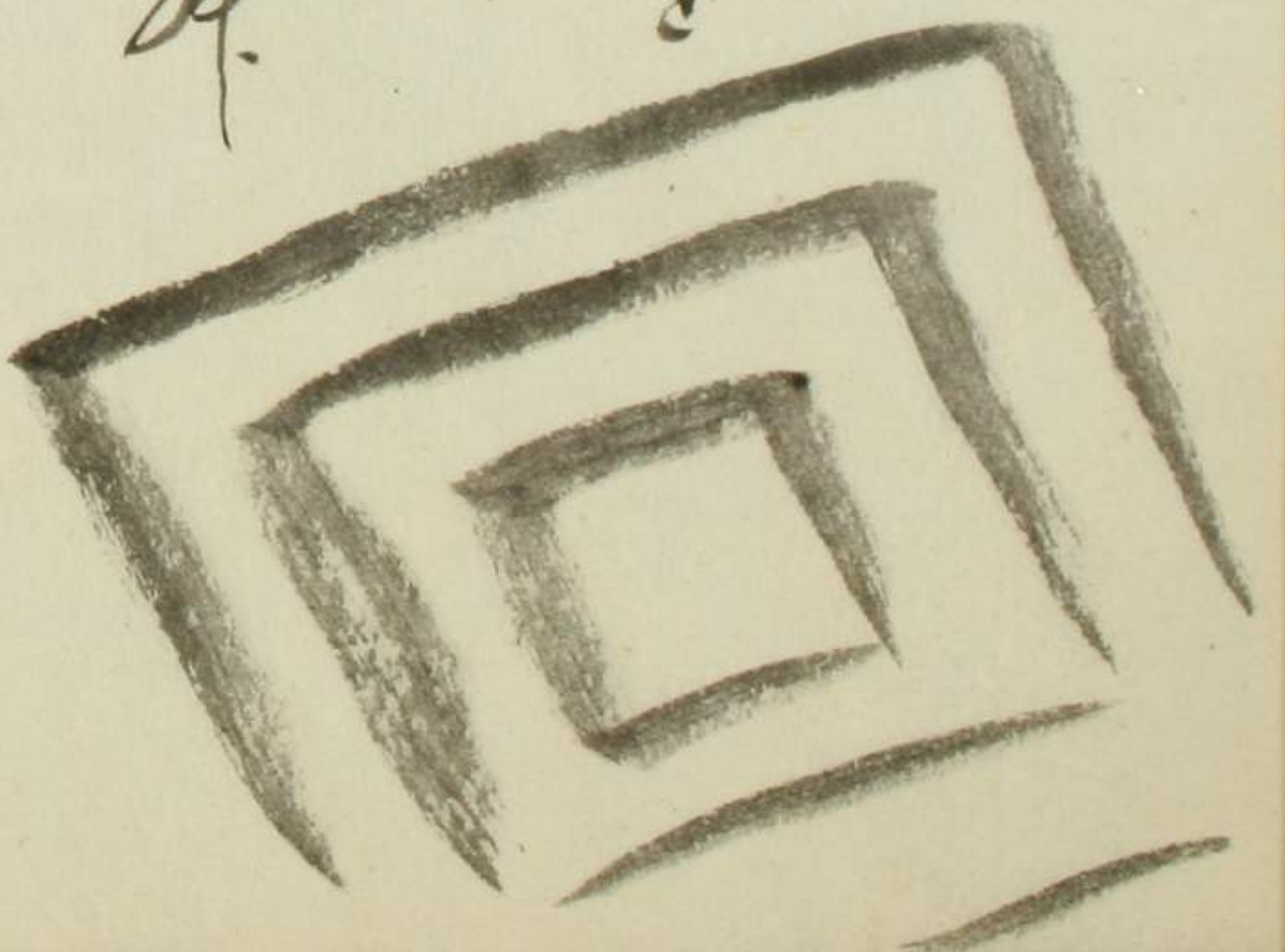
あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

お

あつあつあつあつ



と念ふ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

光

一画下 有るを因

一担歌一禮

あつあつあつあつ

住沈落書肆 青柳松閣

竹田月去日

すわあつあつ

牛込の馬のり
 牛込の馬のり
 馬喰所
 山崎屋馬市住馬喰所

馬喰所馬のり
 井屋安二市住橋町竹町屋

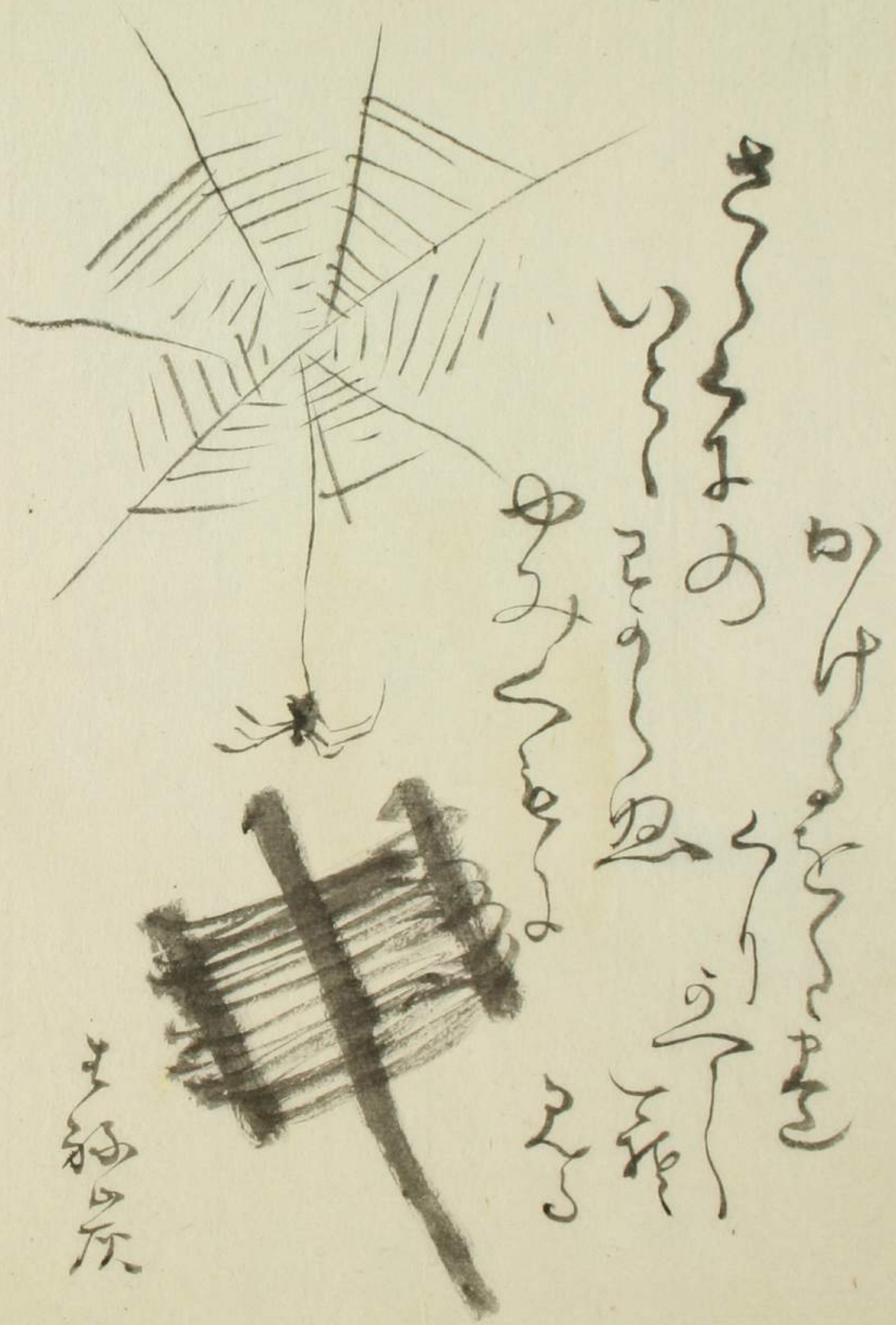
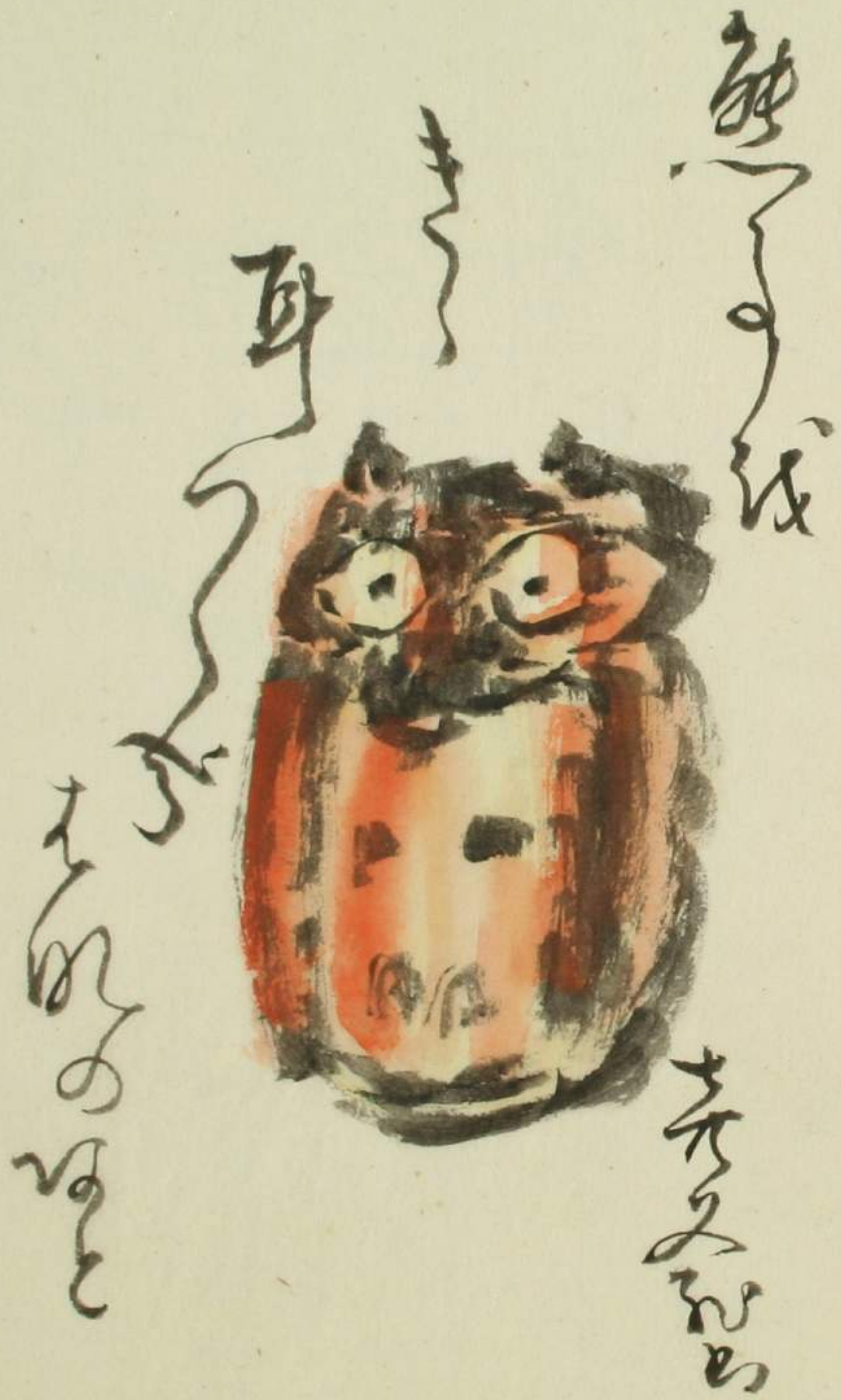
庭際雙栖雀
 素質千年色
 右賦双雀
 源孝孫

上月水三郎兵衛住三齋小路

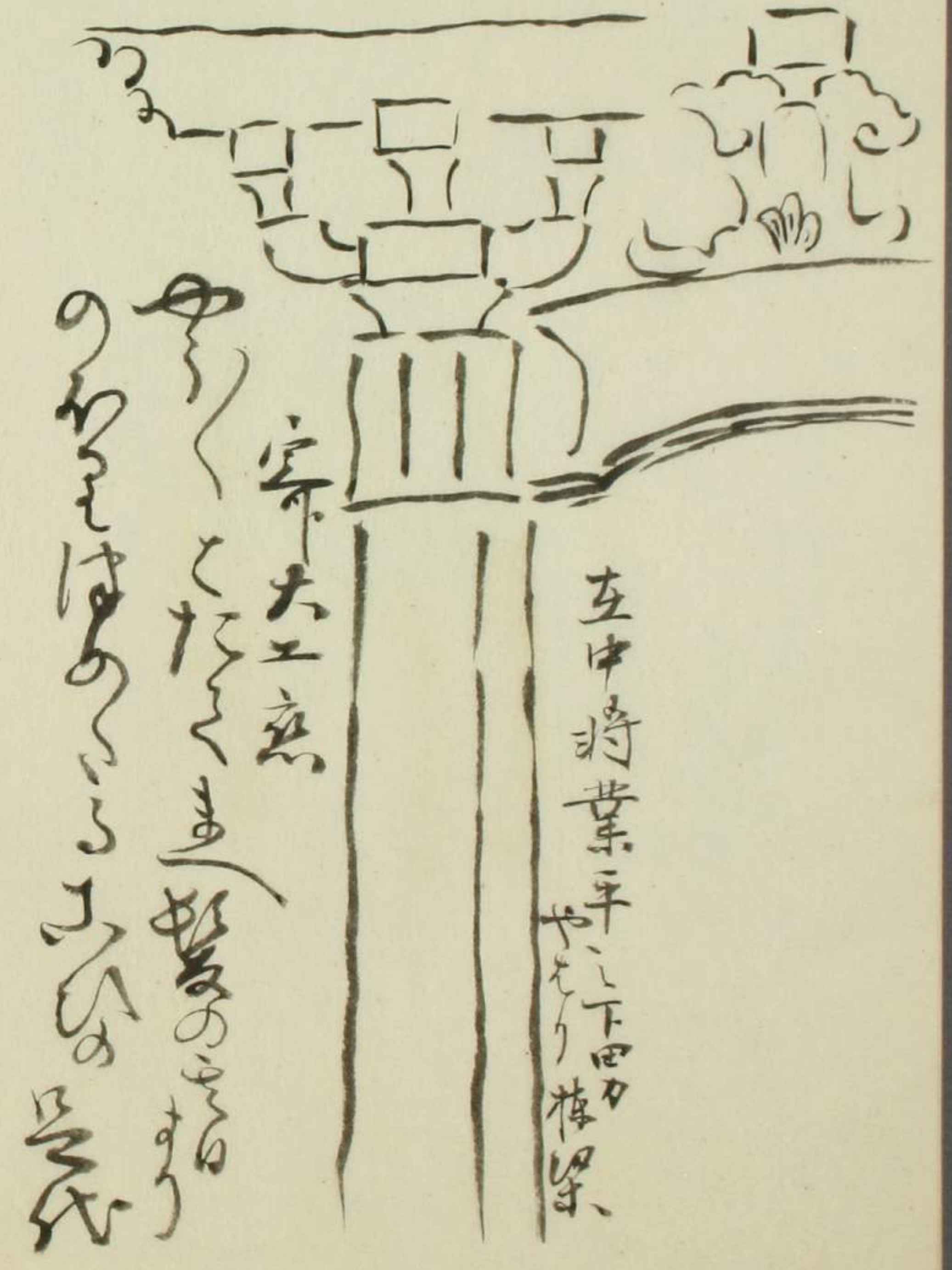
赤良人
 市谷ハ
 万の



喜久藏狂名喜古久声色
住白州所喜名為人



左中將葉平
 下田カ
 梅原
 宗大工
 宗大工
 宗大工



左中將葉平
 下田カ
 梅原

宗大工

宗大工
 宗大工
 宗大工



まよひ

まよひ

まよひ

まよひ

まよひ

まよひ



五ノ下地云



山まのふ
 全まのふ
 日まのふ
 山まのふ
 全まのふ
 日まのふ
 山まのふ
 全まのふ
 日まのふ

山本夏十郎位西久保井谷町水満能衣衣

借手と志らふ
 借手と志らふ
 借手と志らふ



かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり
かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり
かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり

かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり
かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり

かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり

かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり
かひなきるあむつらりきりきり
うむつらりきりきりきりきり



三河屋平兵衛任本廿三月

おのゝ
おのゝ
おのゝ
おのゝ

惟命位鎌倉置石一

後をのりつれもやほれこし
ののりつれをのりつれ
きんつれをのりつれ
亞相のつれをのりつれ

あつれ

えつれ

あつれ

あつれ

あつれ

あつれ



一なり

あつれ

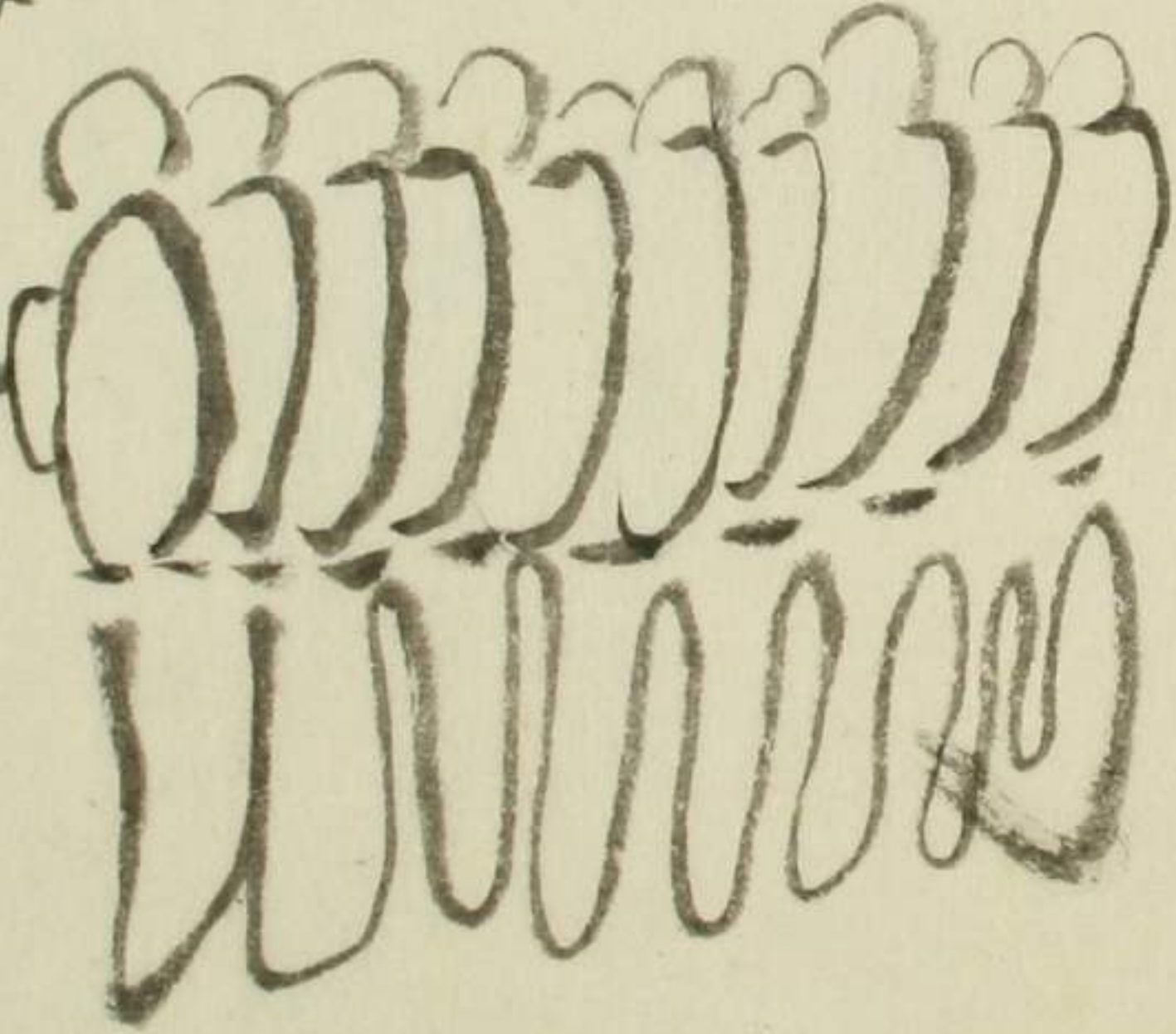
あつれ

あつれ

あつれ

あつれ

あつれ



四日谷坂

之秋 穰之

くわれたる秋

中々あつたは穰をとりておけりやう
こしあつたは穰の目あつたは穰
高山元三郎住青山百人所

之家 飯を林火

望月が

くあつたは穰の目あつたは穰
あつたは穰の目あつたは穰
あつたは穰の目あつたは穰

宗 穰 繪 卷

あつたは穰の目あつたは穰

あつたは穰の目あつたは穰

あつたは穰の目あつたは穰

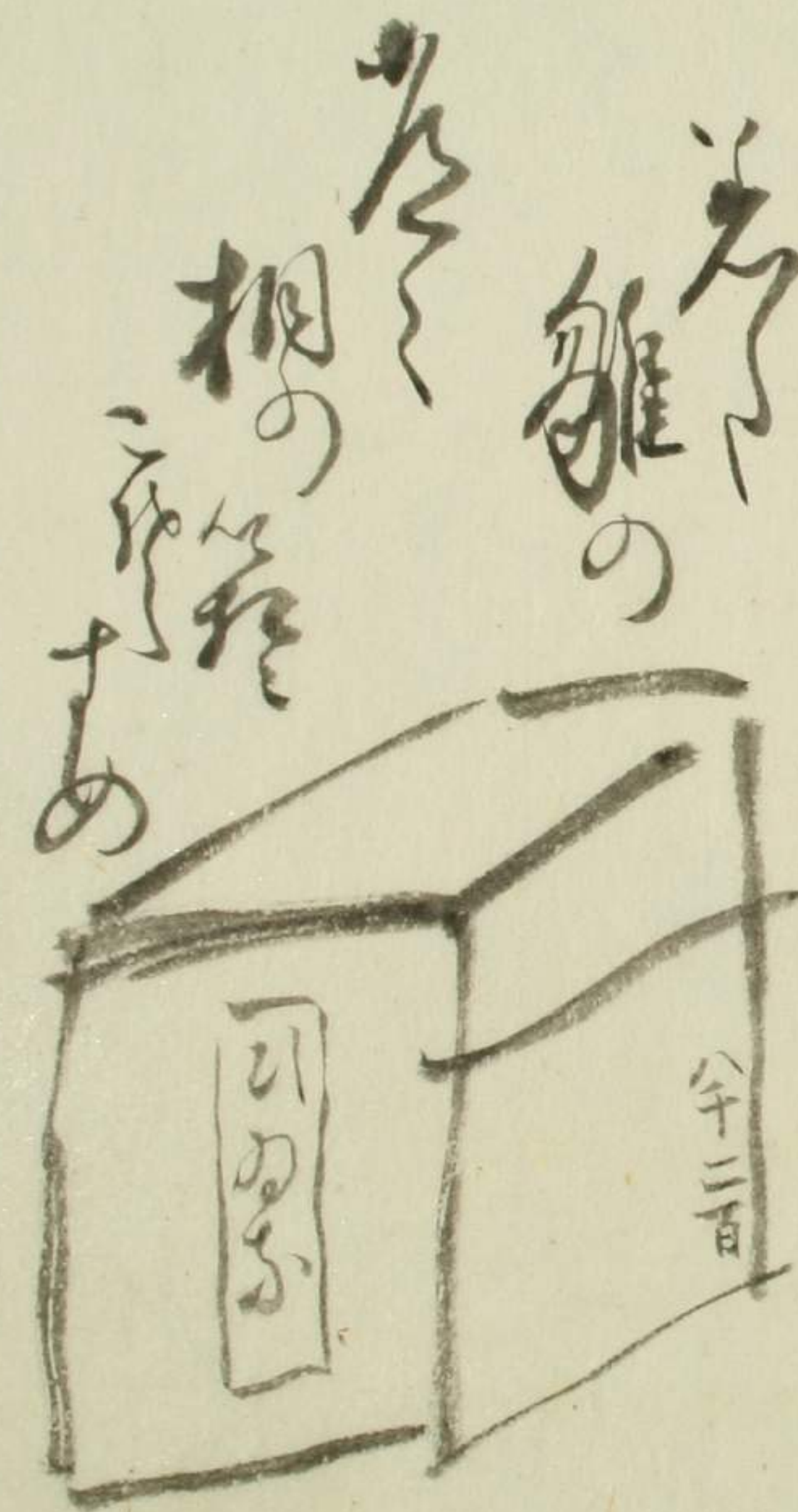
あつたは穰の目あつたは穰



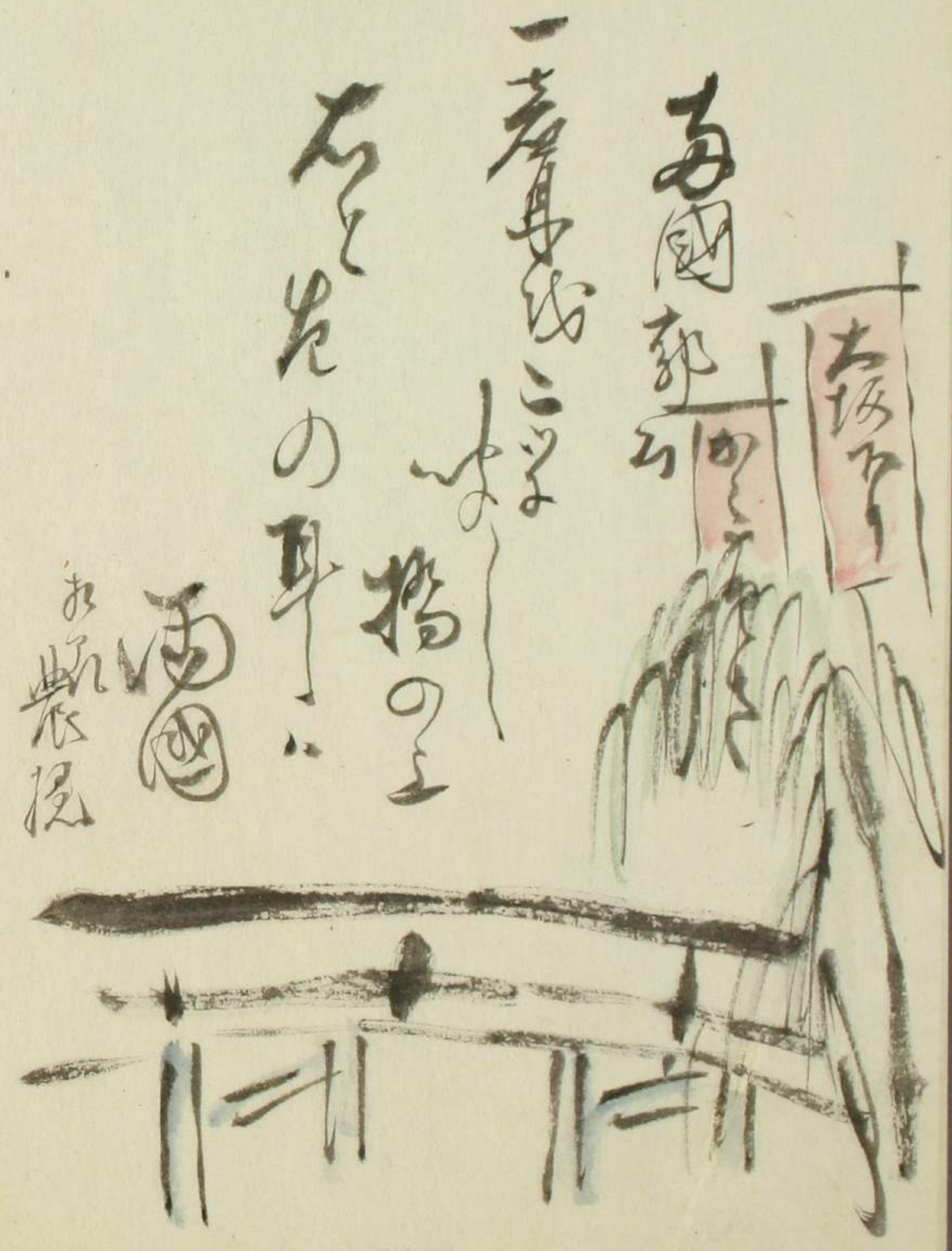
あつたは穰の目あつたは穰

八木岡政七位赤坂

何とあや
うらひを



あ
ひのふ



おん 衆 提

酒 園

指の

大坂

酒 園

御船の古を流し
 山を築く父の
 三又百永所
 中洲部云

寛政元年丁酉の夏の
 ころすけ
 大橋三股新地

大橋三股新地
 寛政元年西暦六月十六日

大橋三股新地
 寛政元年西暦十二月

大橋三股新地
 寛政元年西暦十二月

大橋三股新地
 寛政元年西暦十二月

大橋三股新地
 寛政元年西暦十二月

大橋三股新地
 寛政元年西暦十二月



明和八年卯年
 三月のころまで
 大川とを

九千
 六百
 七十
 七

我意を
 甲戌の
 桐の
 箱
 大川
 舟の
 角

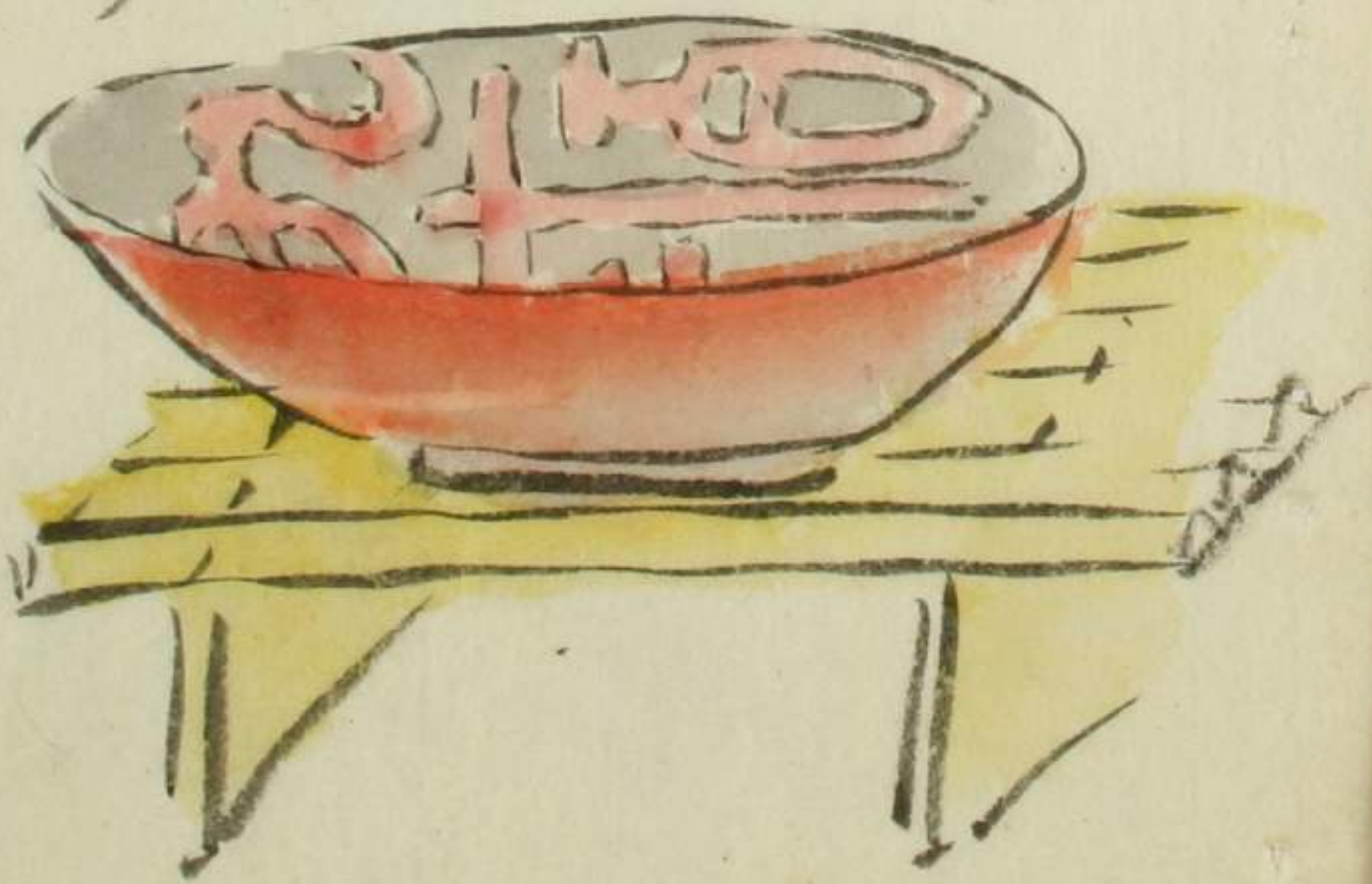


大川

渡瀬庄無事

廣田安東位通坊所

か
 神紙
 解
 春んん
 結
 中
 友



一
 友
 の
 友

道後清水癒五節経在所一ツ目
 神紙

あ
 神紙



旅の
 神紙
 あ
 神紙
 大
 地
 の
 神

上野州屋志四郎住馬場所三丁目

雨晴さく

入る

あま

津田の橋

あま

あま

あま

あま



傾城美流

あま

傾城の海

あま

あま

傾

あま

あま



中手屋三郎住馬場所

遠州屋佐助住小幡馬丁三丁目

坊主の女御實成丸

水晶の珠

の

の

の

の

高尾の感徳...
人の...
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



志のり

おき

おき

四の半

人の子

正馬

正馬住本所相生町

橋本所唐紙を久三帝



福のめい

野見山  
すゑの  
ね

舟楫幸左馬  
住牛込松枝所

香珮免傳天御出那  
年志乃玉章遠飛  
羅玖扇澗於以蘭  
農花

右寄扇面甘蘭戀

河邊我馬

紀のま成

あつたけ

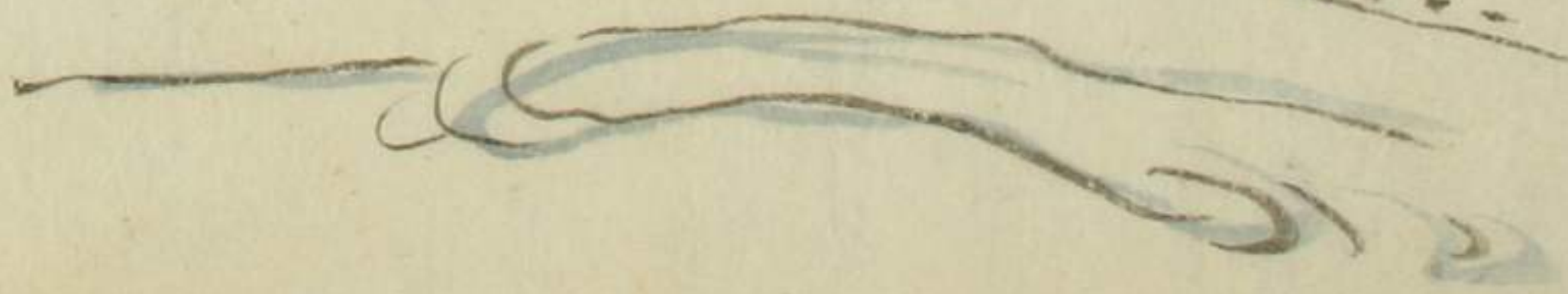
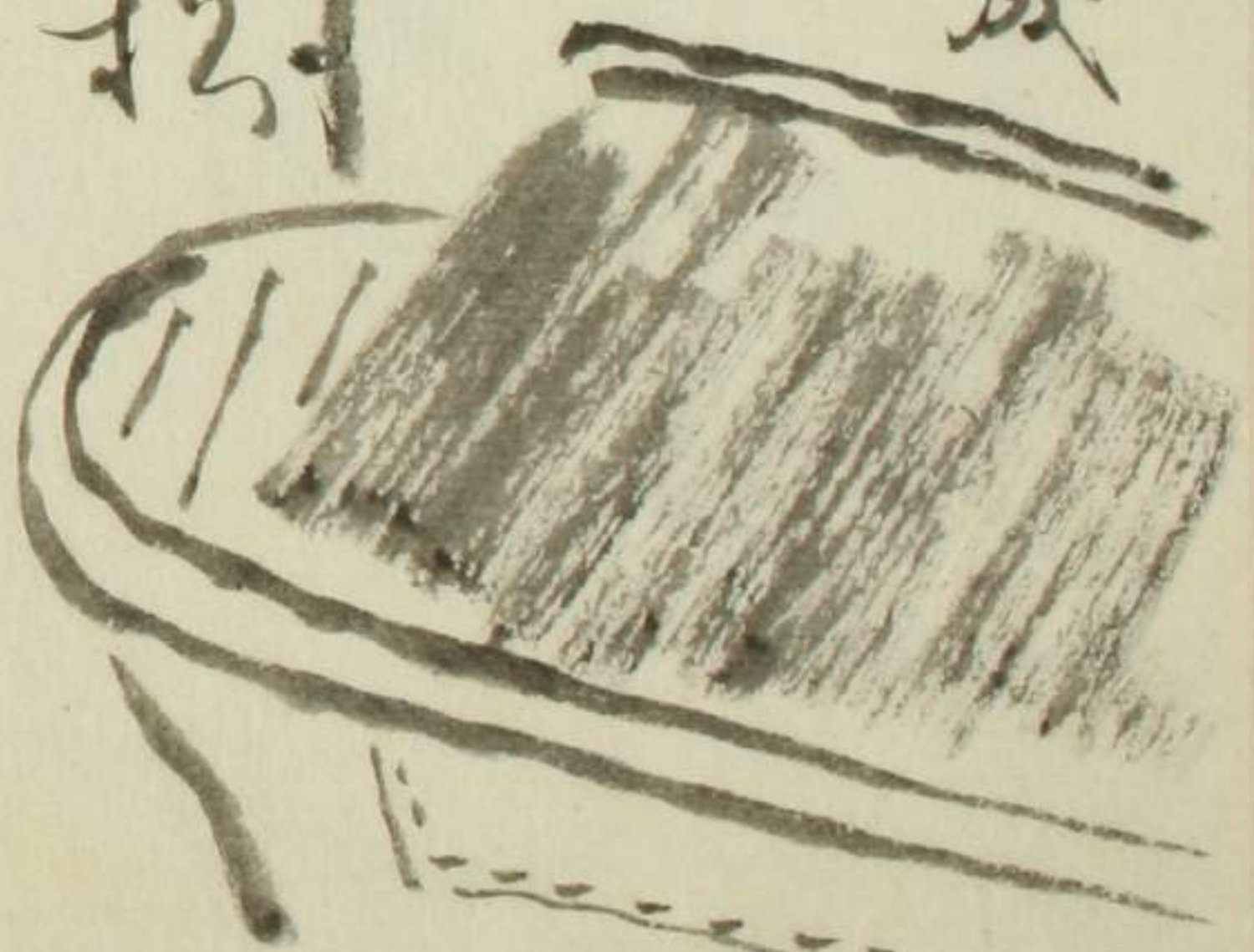
あつたけ

いづれ

あつたけ

あつたけ

あつたけ



酒吞の行々 羅波津浅香山  
 二れ帰る 今も多き歌の親方  
 歌人の

越後の旅より 不動峰の月を詠ふ

旅の亦々 不動峰の縁有る

又よん 如松のせむ高 天地玄黄

道後清水急五知 任本所一日

此行の如松の縁有る 人地違ふ  
 伊豆の此山 伊豆の山 伊豆の山  
 門限南側

高知の

竹

一日の

竹

竹

竹

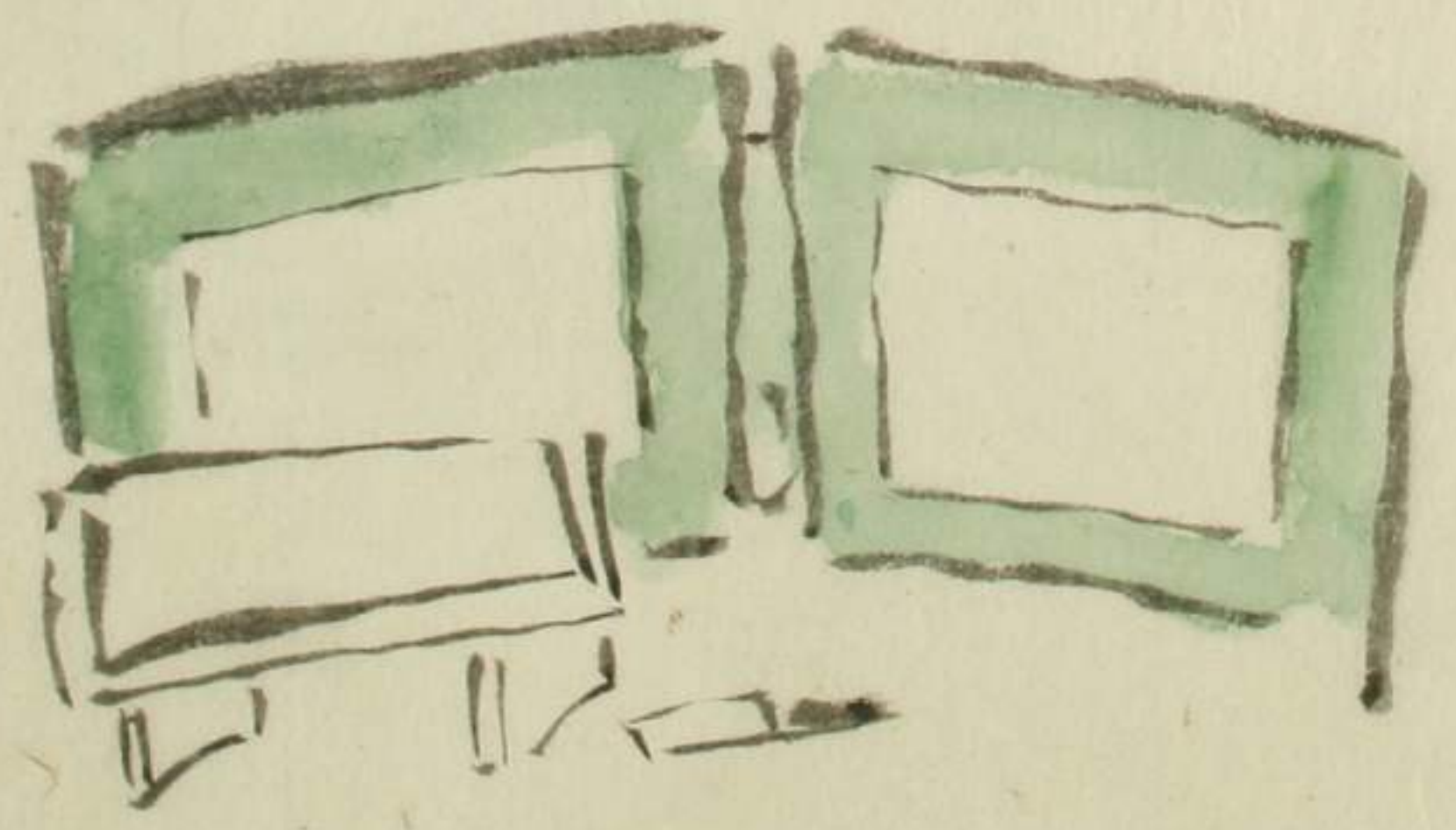
秩父屋敷八注馬冷下三首

竹保久路人





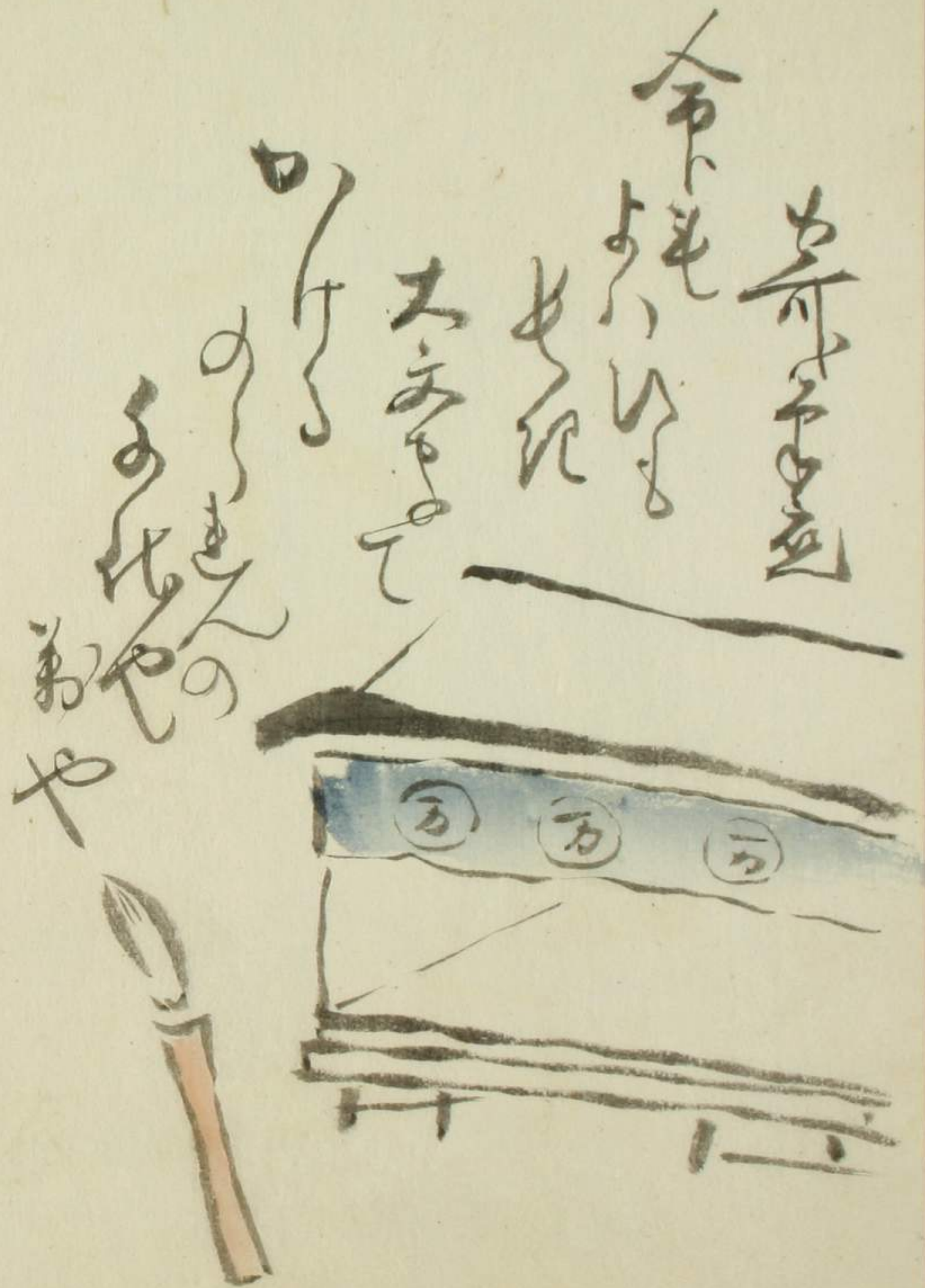
稚子恋  
 心なほ  
 人なほ  
 今も  
 まな  
 人なほ  
 月夜  
 月夜の香



世は  
 方は  
 如く  
 心は  
 人の

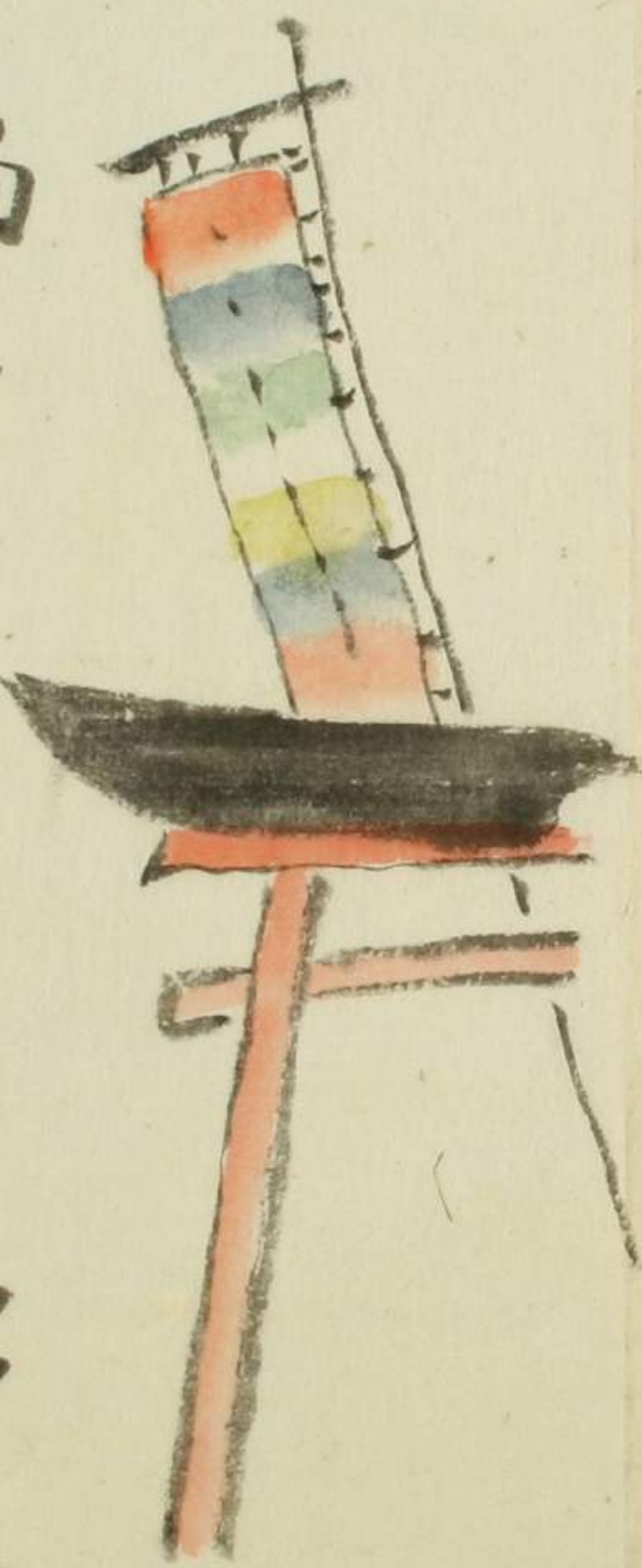


南鏡  
 かほ



達二の目

あはれと  
あはれと  
あはれと  
あはれと  
あはれと  
あはれと



初年  
日  
紀米

大船  
きく

今小石川白壁町名権  
流浦下西川清具たあ

俳句 日向の火は獨寒し 狂歌 其 紫山川の  
名もそけし玉は 秋 暮の心はしんじ  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して

本村堂助 狂言作者住へつりせり

あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して  
あつらひをすすはく 宇 空を 夢 夢して

秋の角力

沈香満門

長雨に秋の角力もたのめ  
西のしやの夕日やけら那

舟煙を信じて  
舟 煙を信じて  
舟 煙を信じて  
舟 煙を信じて  
舟 煙を信じて

寄 松林池

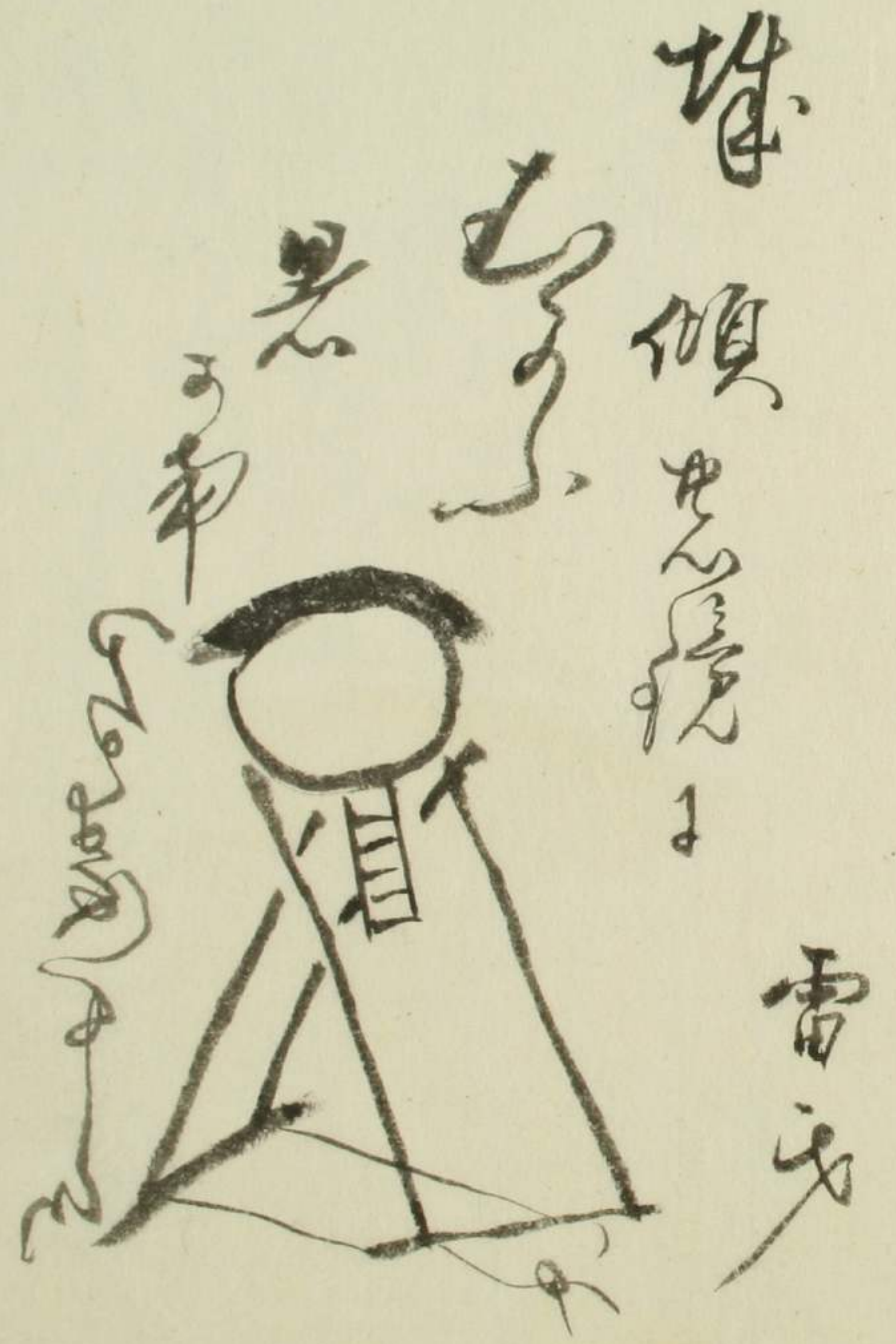
久世松林池

君が代を 高松池よ  
松と中心を 池の心

佐立和二郎住 高松池中部

お推し... 紙の筒長  
 次ま... 御氏...  
 長節...  
 土月人の...  
 よ...  
 心...  
 坂根...  
 竹...  
 竹...

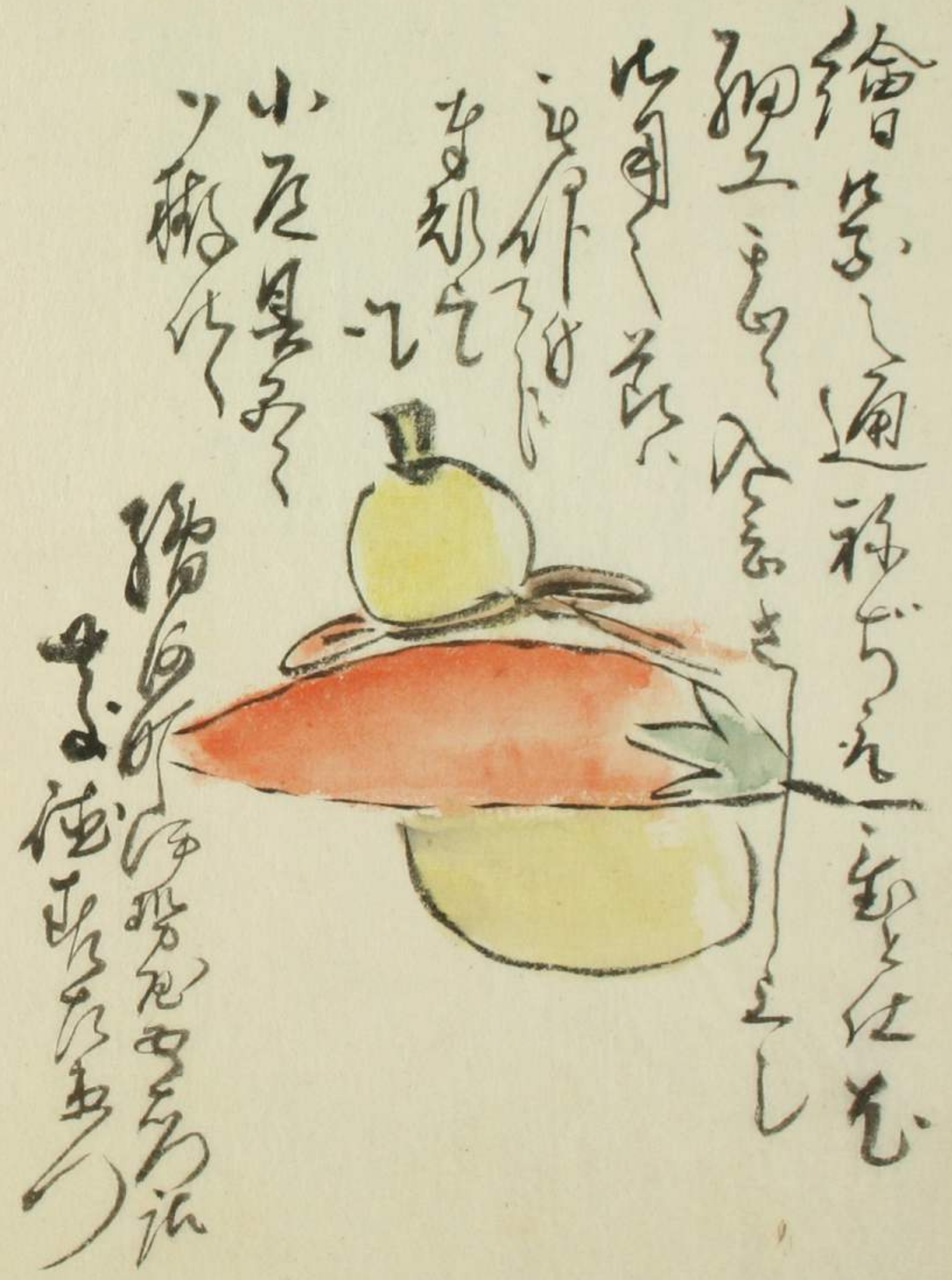
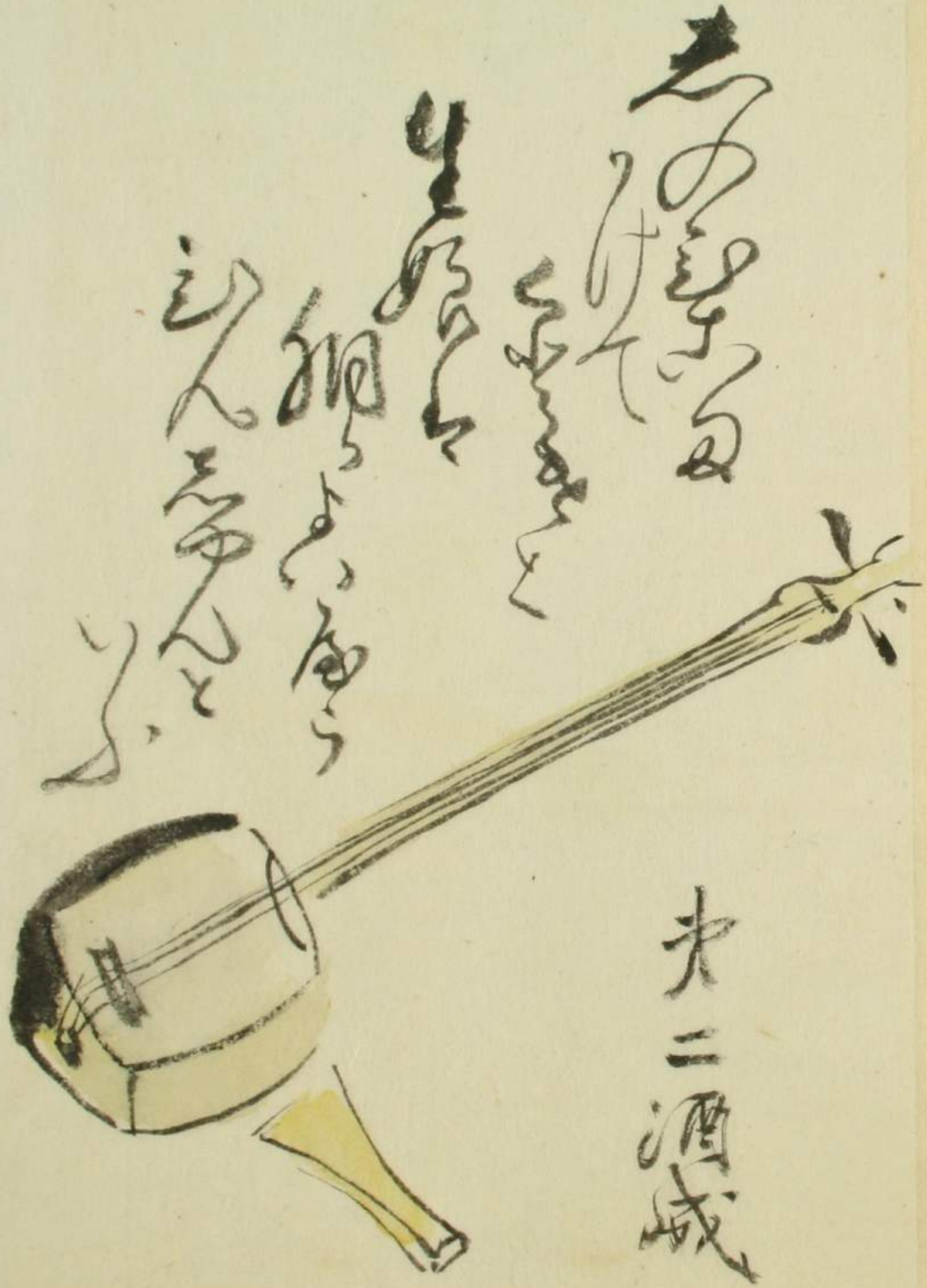
三井源右衛門 殿後屋支配人  
 住駿河所



城 傾

雷文

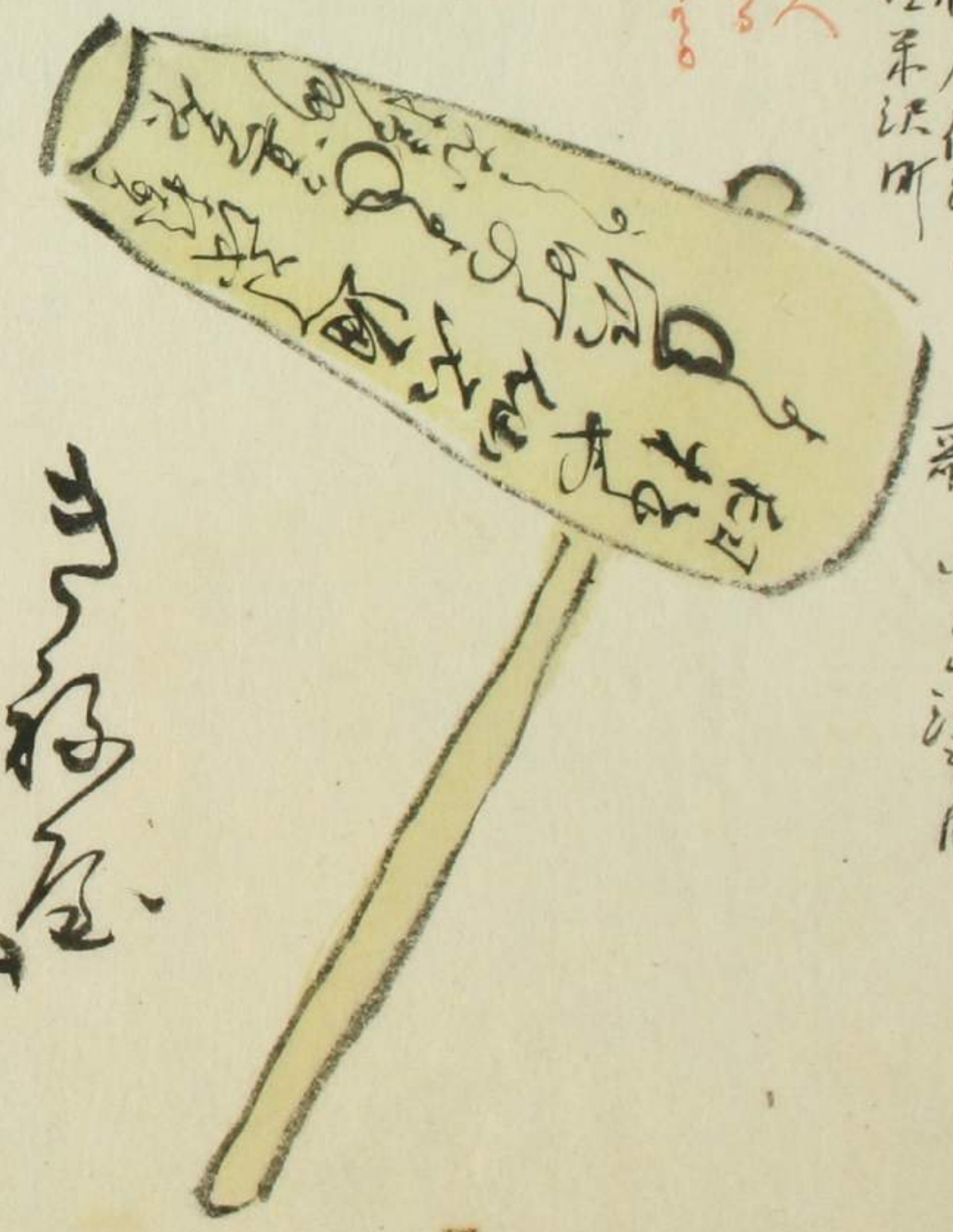
浅田伴十郎越後守番頭



向字の武蔵や田舎の仙人  
 仙女として下りて来りて  
 中々いふ事ある人あり  
 中々いふ事ある人あり  
 中の下草履の書ける

画名 杆屋依縁の  
 任来決所

歌 小島涼の助



山好屋

けぬお孫とまゝと  
 のまゝとまゝと  
 のまゝとまゝと

とまゝとまゝと



孫子のまゝとまゝと  
 のまゝとまゝと  
 のまゝとまゝと

畠大坂屋今住葉研堀歌  
 忘川春所

あまのりや  
 行

京筆全吉兵衛住田所町

版成り  
いふ  
あつた  
り

あつた  
あつた  
あつた

あつた



京吉事  
繪の系層

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



花の露を多くしよとて  
浮世のちりもさしひきし

園味

女あゝ何そも恋の山に  
流るゝ中かきか

部  
詠草の念

大輪の神の心  
守人

出づる籠木又高の住少清馬所

源川を流るる  
竹の影を

は

あ

あ

い

川  
水

井上幸三  
住家殿  
御紙  
三目

出云守 和歌掾 任日本橋 幸一町目

三日月に影見せ

いそやも

君とていふく

さしつかへなく

なまよのたぐひ

月よ影見せ

和歌集に巻九 (5)



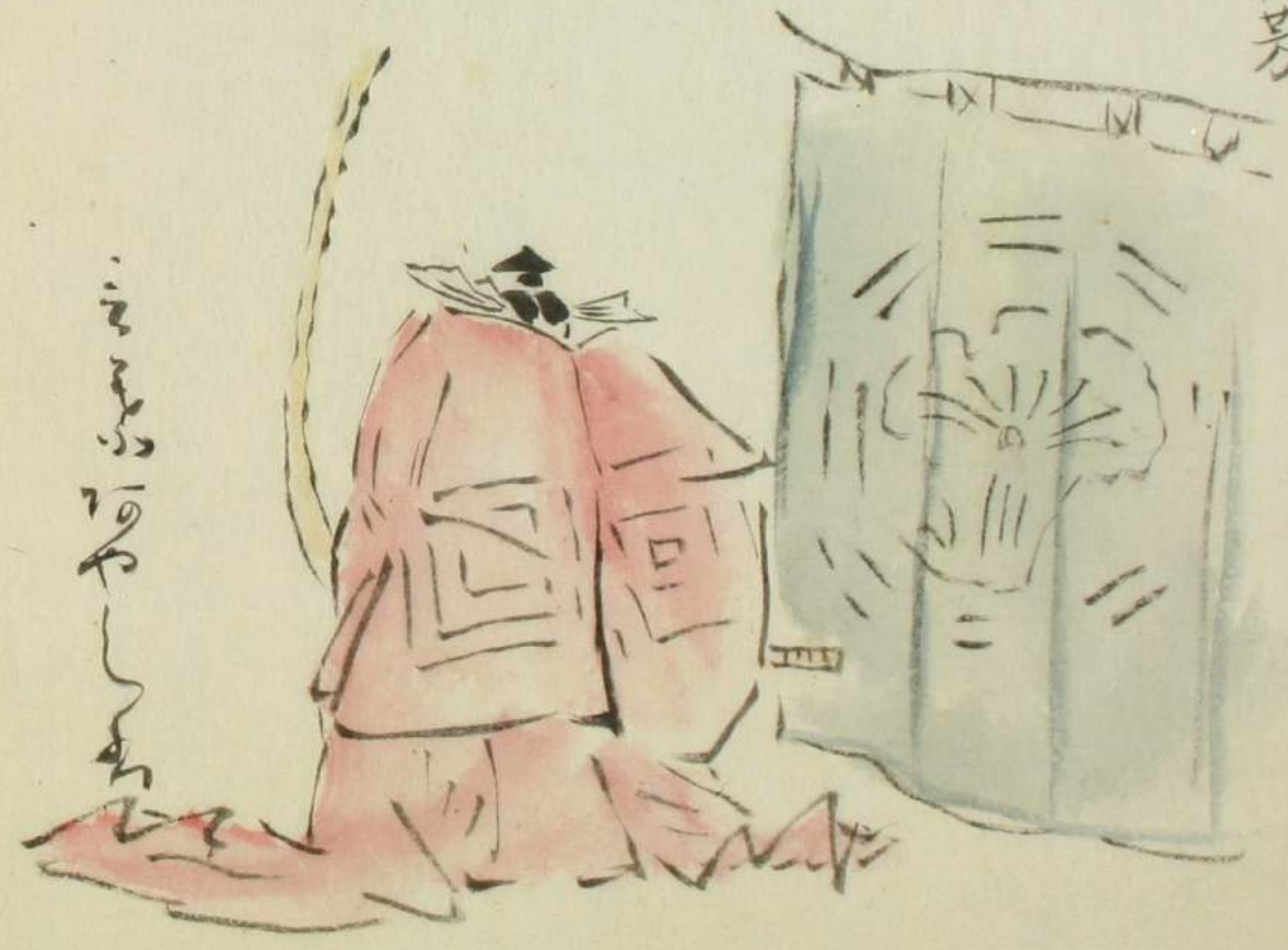
宮崎のいそやのらから杜若もあは  
神の家のいそやのらから

宮崎八藏

あは



住芝神町末 株山内杜芳



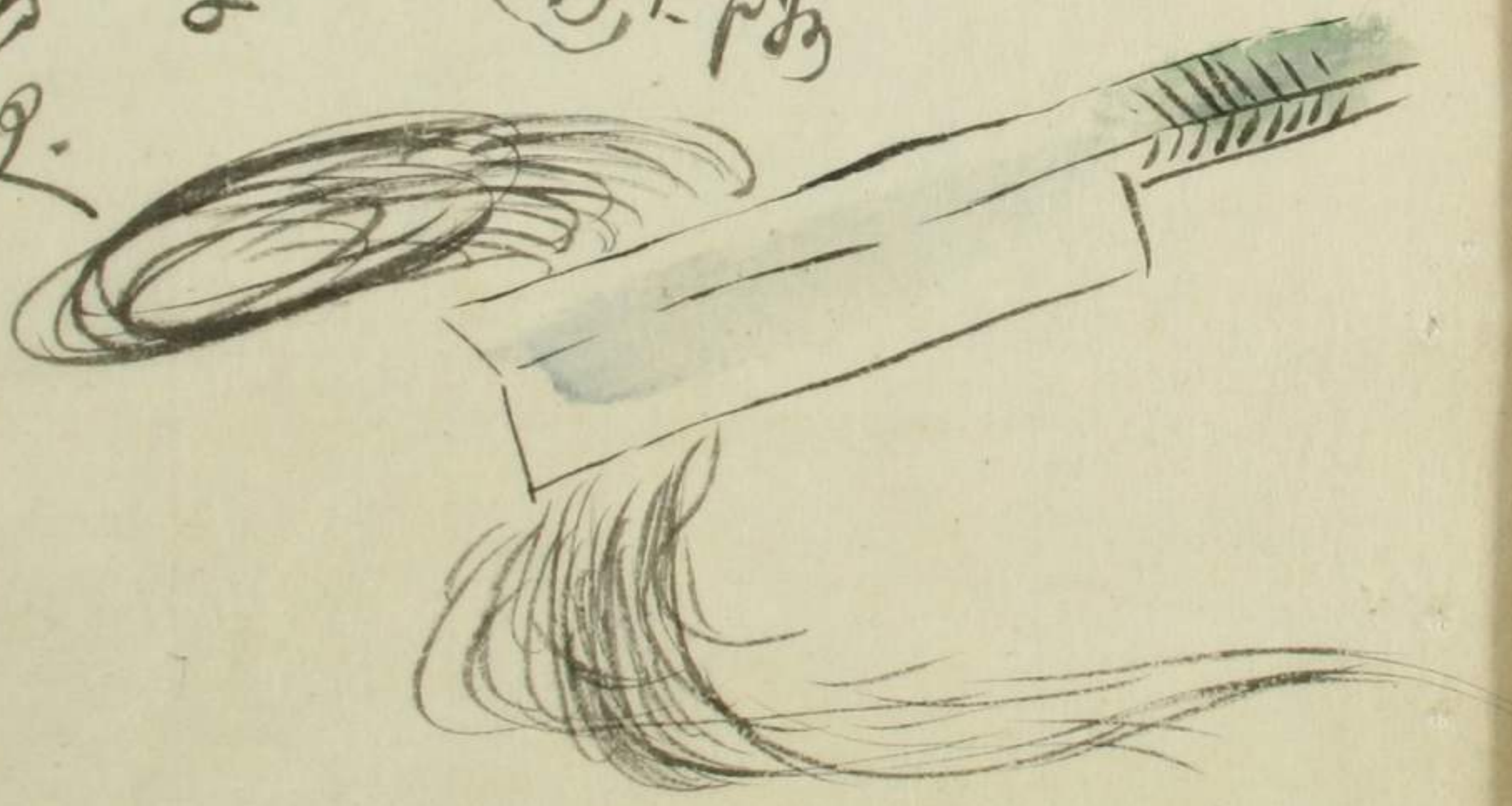
いさよふか

十思の意

ゆきゆき  
ゆるゆる

如龍  
日西  
道

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



小石川  
徳同心  
下  
小樽源  
市  
松  
竹  
庵  
主人

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの



あはれなるの



あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

あはれなるの

森多百藏 祢竹枝の経初号 大正元年 号百五十五

# 賞

一 賞 給 賞 金 一 千 圓

一 月 賞 給 賞 金 一 千 圓

一 新 田 計 賞 金 一 千 圓

一 石 田 賞 金 一 千 圓

一 月 賞 給 賞 金 一 千 圓

一 新 田 計 賞 金 一 千 圓

森多百藏 賞金一千元

中 賞 給 賞 金 一 千 圓

大 賞 給 賞 金 一 千 圓

賞 給 賞 金 一 千 圓

森多百藏 賞金一千元

# 寄 祢 城

神 祢 城

一 寄 祢 城 賞 金 一 千 圓

一 寄 祢 城 賞 金 一 千 圓

一 寄 祢 城 賞 金 一 千 圓

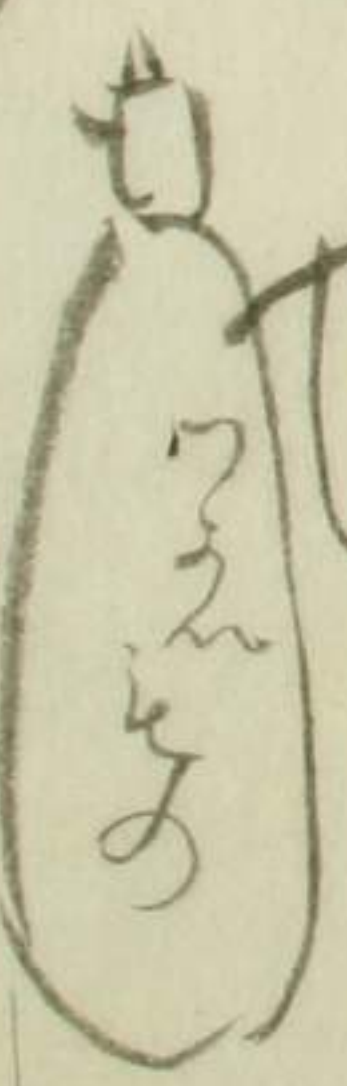
一 寄 祢 城 賞 金 一 千 圓

西 賞 給 賞 金 一 千 圓

西 賞 給 賞 金 一 千 圓



ふあり





膝の膝の  
 とも物とあひあひの膝  
 かしこ山  
 松屋三女 上御座候

初めに名を 旅森の 友七と ます 佐野女

杉屋三女

義孝の 洞帳 録

夜食の 宛

りん 名を する とも物 君の とも物



早良氏 女 簾

早良氏 女 簾

常州石段左任市谷田町号辰山

枝

その後と

のりあき

うすあ

あやの

枝

はきまも

あやの

あやの



御園會

御園會

あ

あ

あ

あ

あ

あ



竹本八巻

御園會



大久保住山伏町

名をうら

五月の

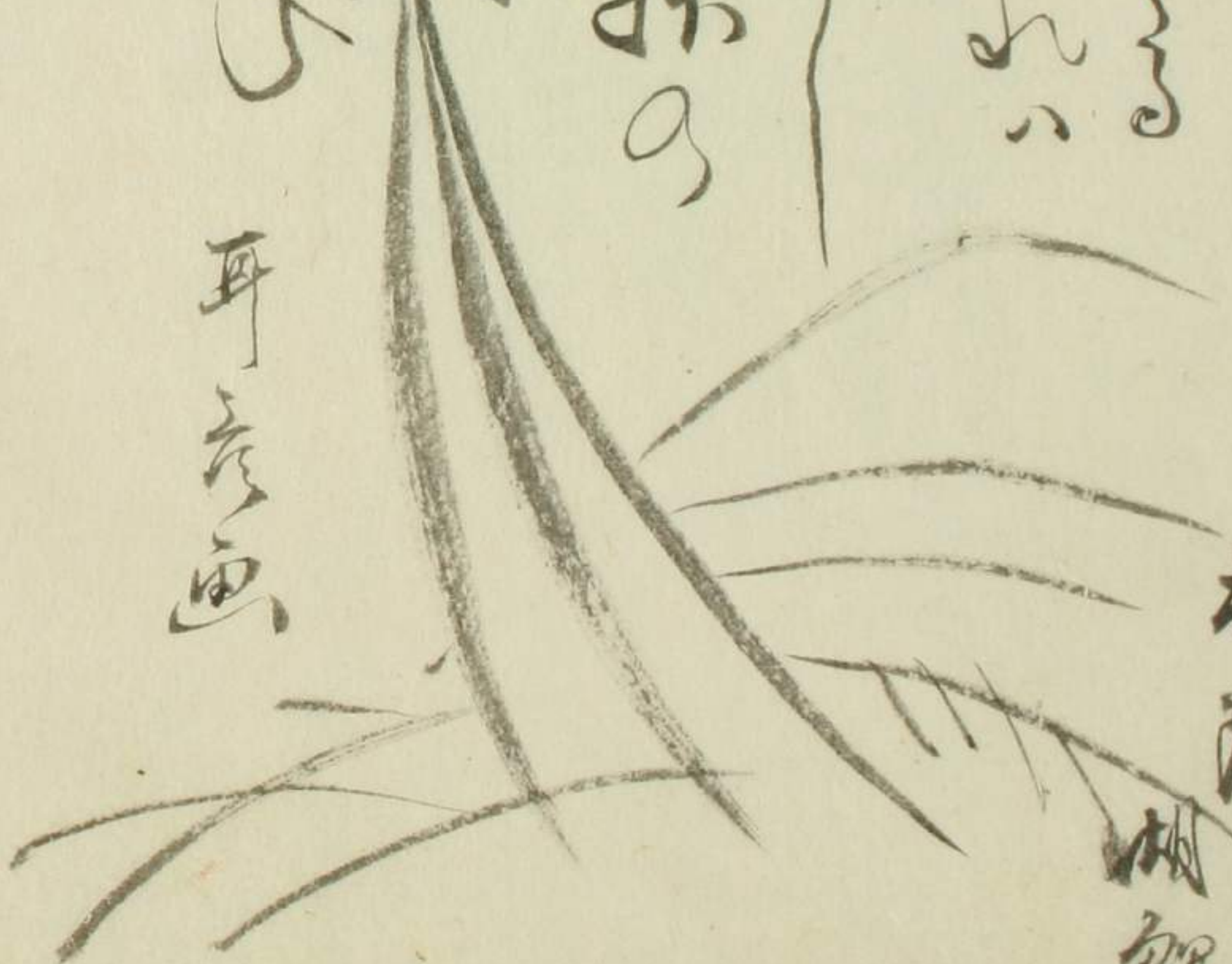
下

六一杯

き

花

耳



福清堂

湖

献立乃

中

ま

黄菊

あつ

市村羽左馬 菅正所 歌 舞 妓 大 文 元

八百屋現居住四谷新着

少平

三平

是八月廿五日

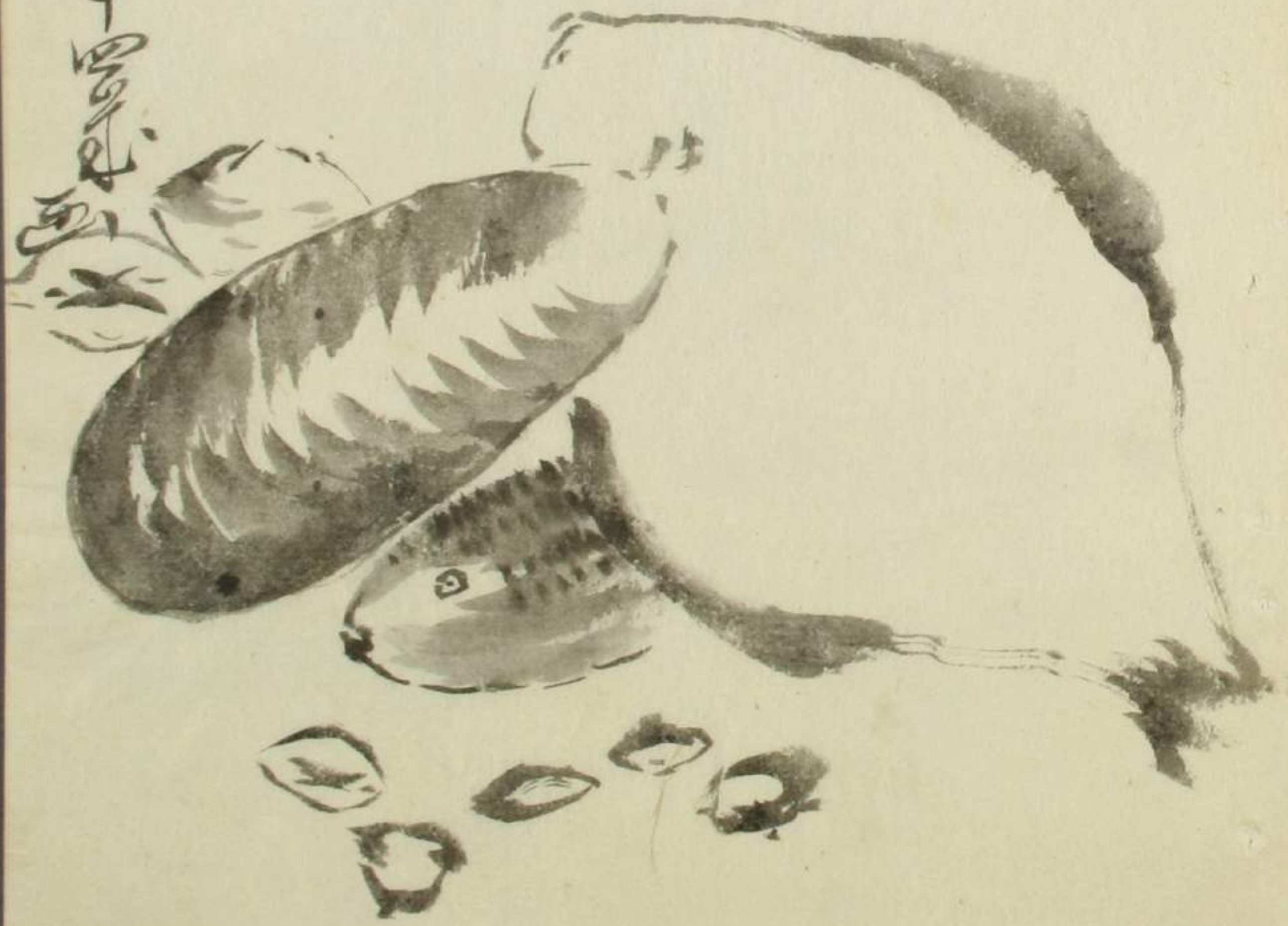
少平

少平

誌

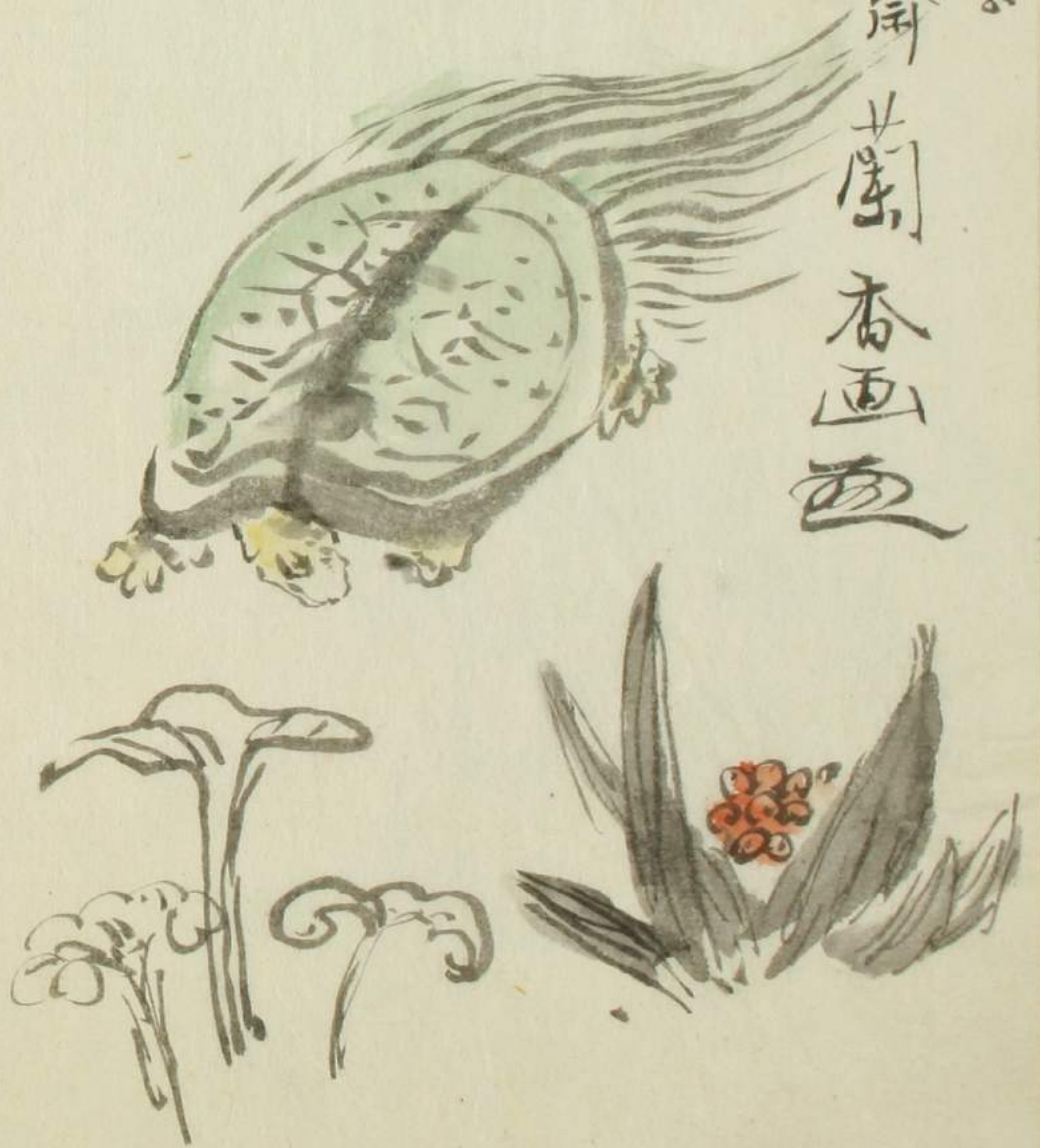
吉田三平  
土山宗甫

離友五嶋十景



吉田氏任牛込家

東牛齋蘭香画



如月 目如女 たりやまき

星野休重 号 文筆 任 駿河 齋 女 曰 人 妻 地 界 武

有脚

いさよのあし 有脚のくさくさ 志んぶ 一  
こひ 深のま 了 着や 志んぶ 人の安

之 母 秋 風

秋風よ 志んぶのま 志んぶ 志んぶ 志んぶ  
志んぶのま 志んぶのま 志んぶのま 志んぶのま  
目録 古 誌

神杉矣

杉の葉の如くもさしゆく中法を  
しるす解の部をぬきしるす中法を

松の心葉の如く

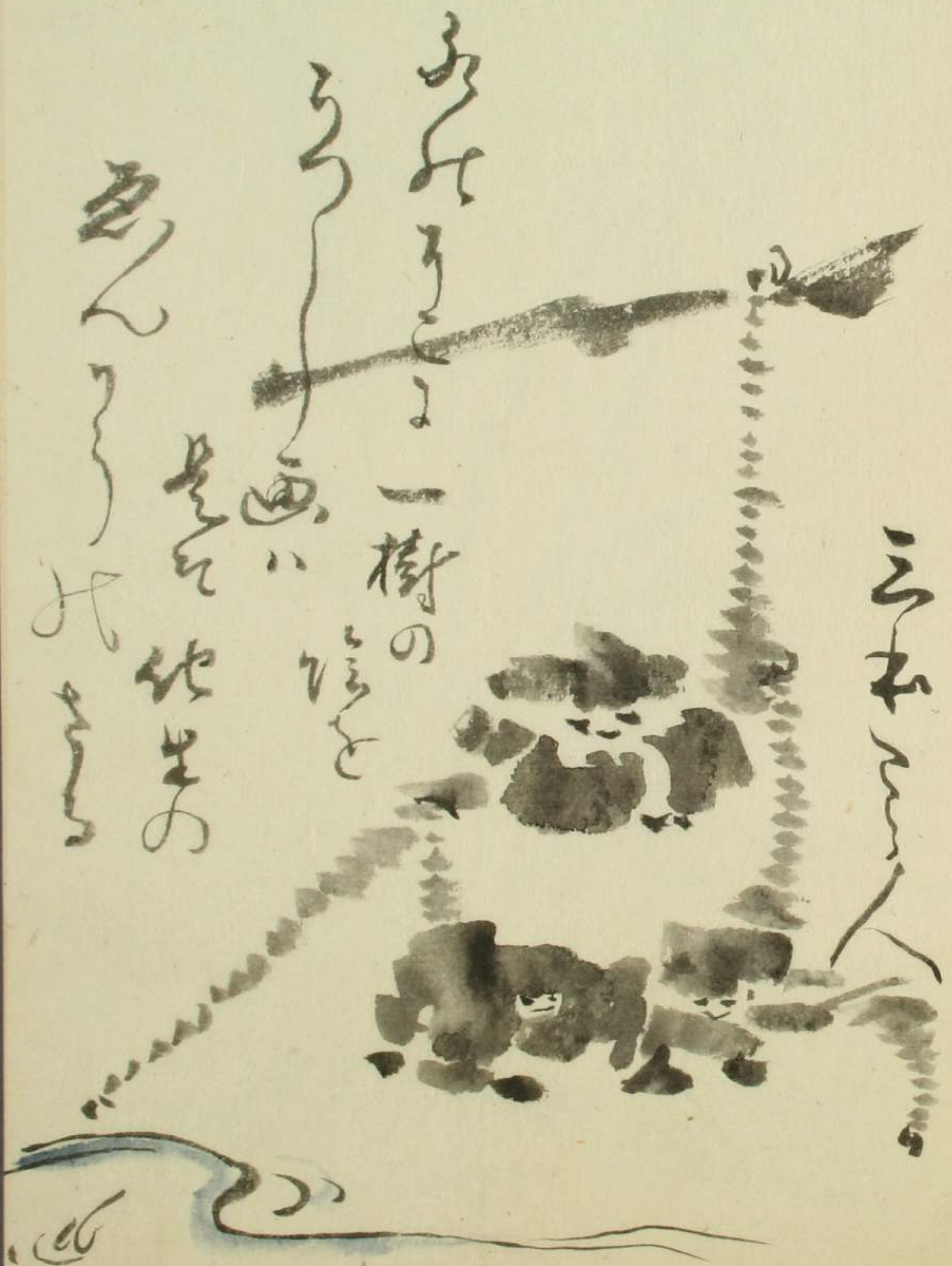
杉の葉の如く

平井直冬門娘松葉女

松の如く

松の心葉の如く

杉の葉の如く



松の如く

松の心葉の如く

杉の葉の如く

松の如く

杉の葉の如く

山蜂のさしおんち〜あつはつらん 母子花の草

村井新石



山蜂

あつはつらん

あつはつらん

あつはつらん

あつはつらん

あつはつらん

あつはつらん

山蜂のさしおんち〜あつはつらん

あつはつらん

あつはつらん

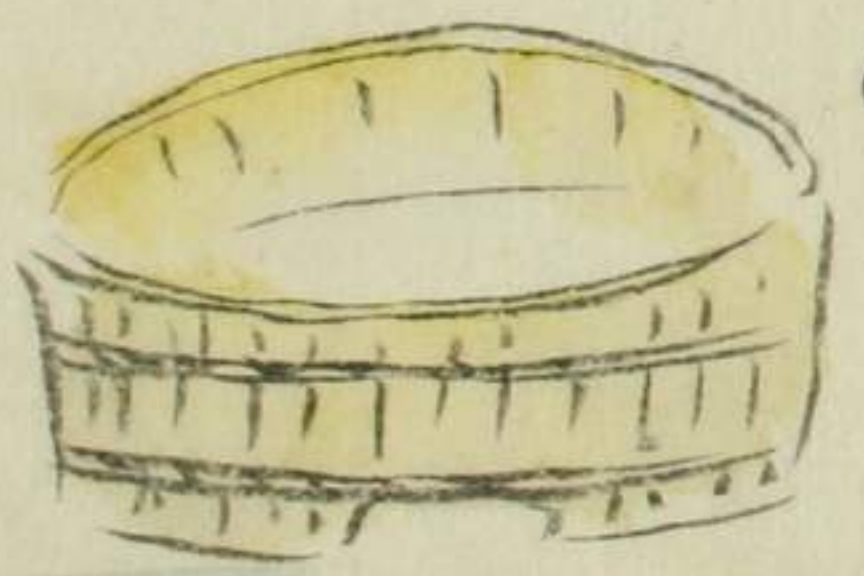
あつはつらん

あつはつらん

あつはつらん

村井新石

野良貫  
 高脚散入  
 韓愈志  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



野良貫  
 高脚散入  
 韓愈志  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



練之



馬蹄

筆下  
あは

まろ

見ぬ景色

る川や又

唐令



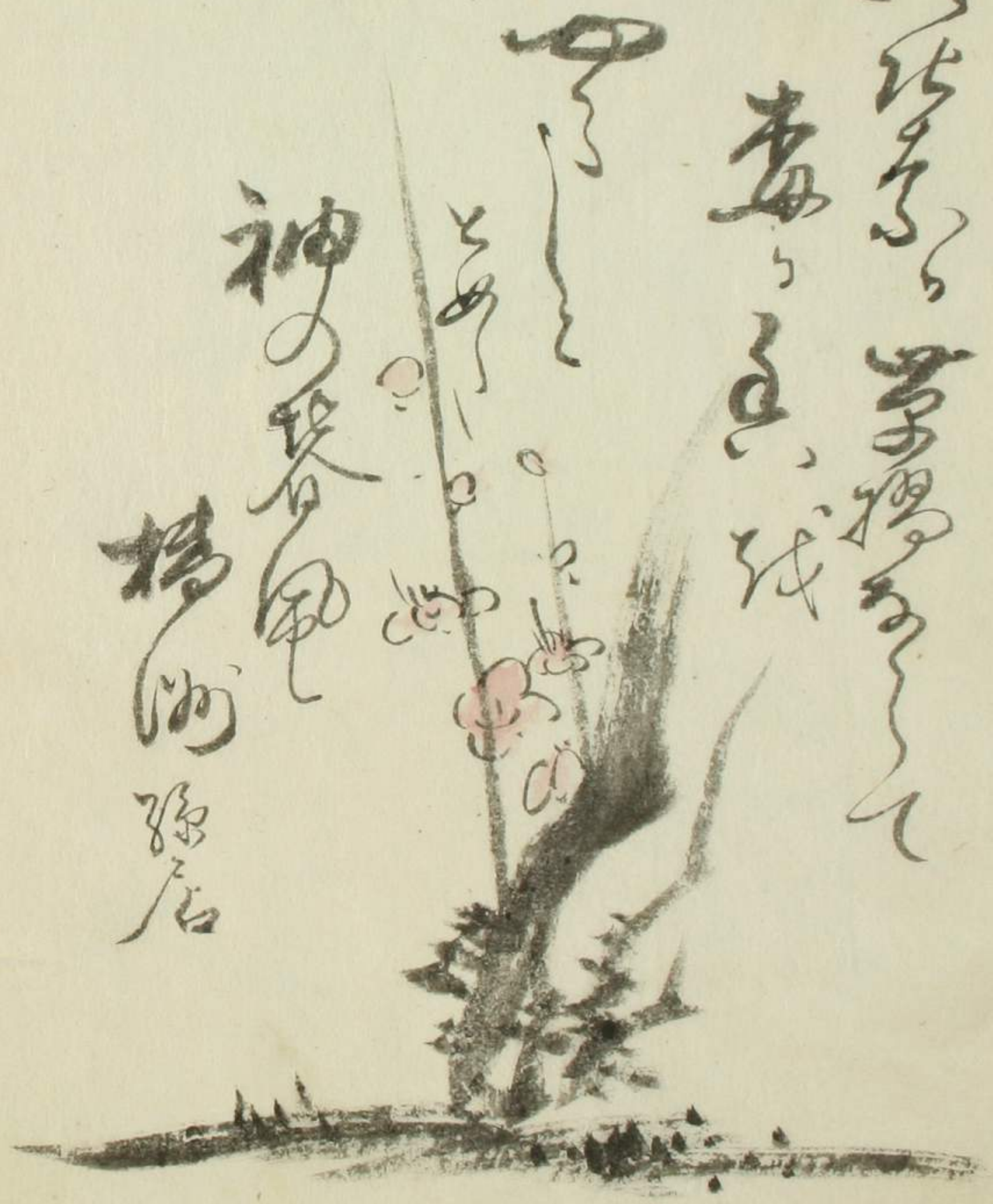
朝花  
あは

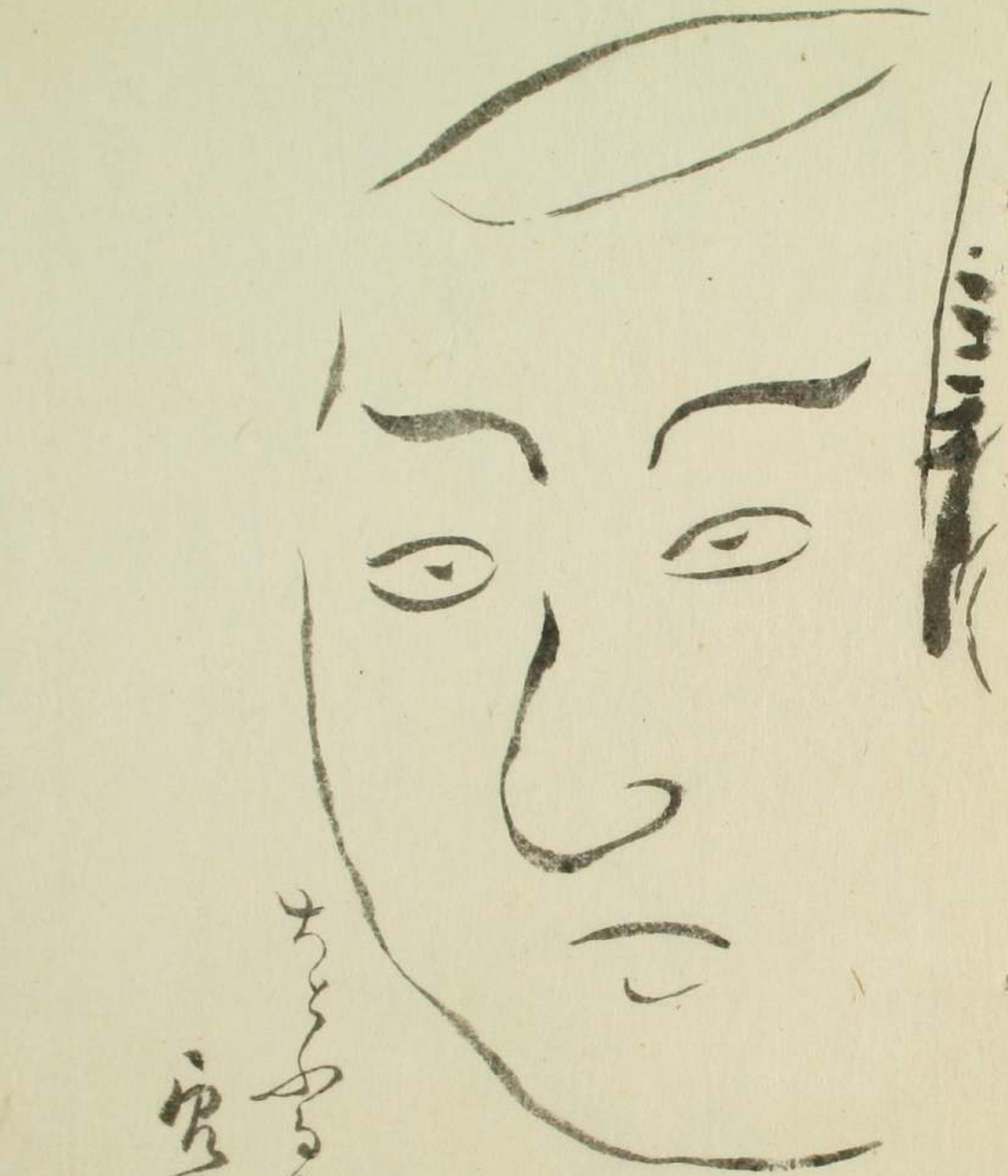
あは

あは

神の

楊州

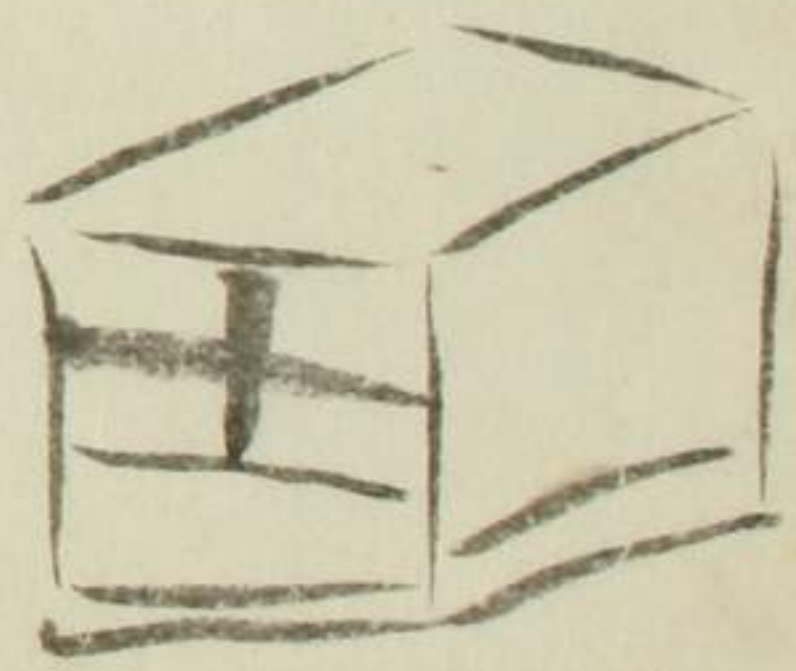




てんてんてん  
空を掃く  
雲を  
画



あつあつ  
あつあつ  
あつあつ  
あつあつ



あつあつ  
あつあつ



あまの時代  
 のおぼろげな  
 時よりこの  
 身もなす  
 ののこ  
 新  
 孫あか  
 けの  
 けい  
 けい  
 りん



揚州  
 自画  
 賛

鴨の汁の自画

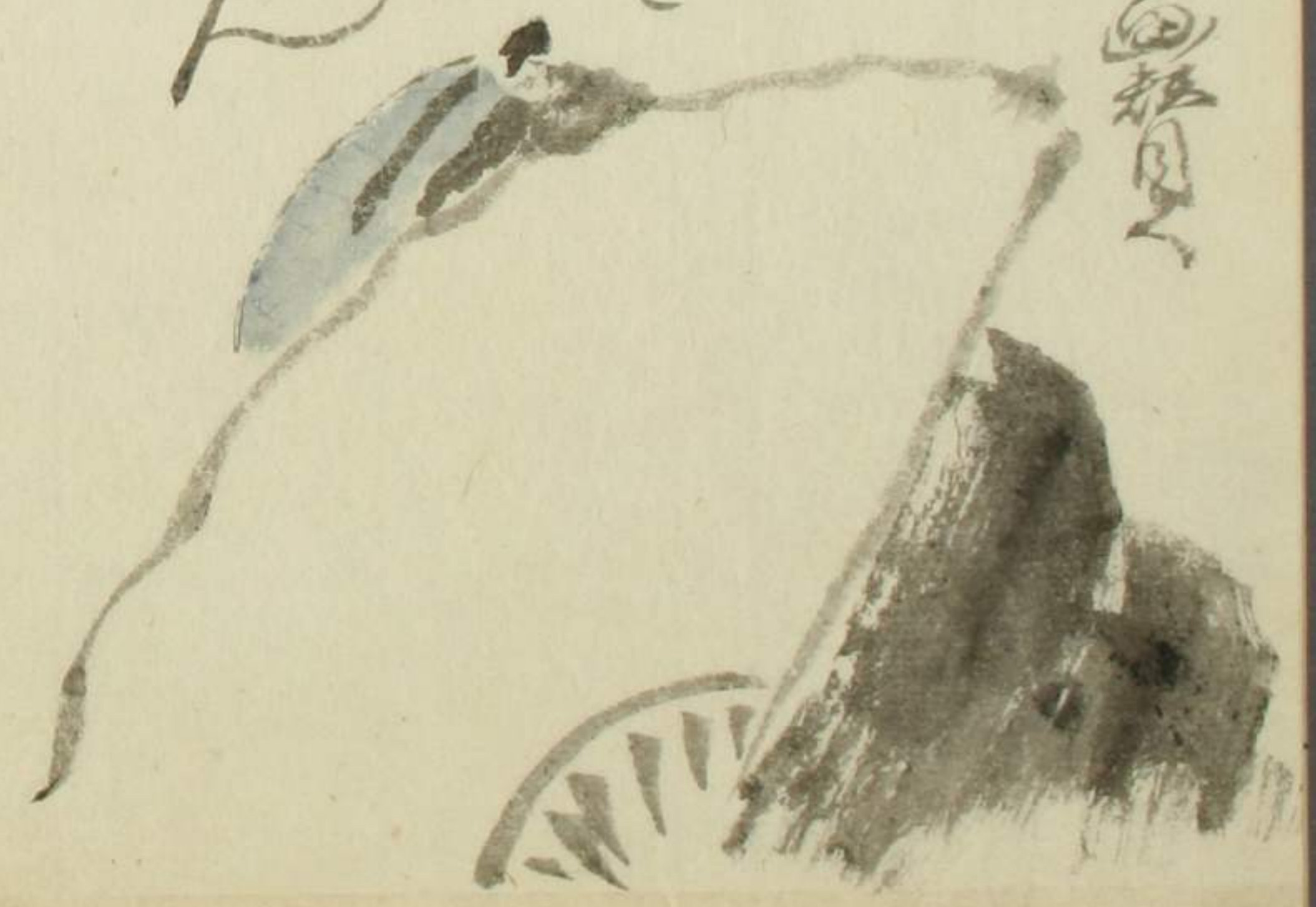
蓮花

蓮花の  
 花

音

音

おぼろげな



松本電三郎名保固字伯厚  
画名次朗齋三布位四谷  
忍町基

まろく

わんやん

わんやん

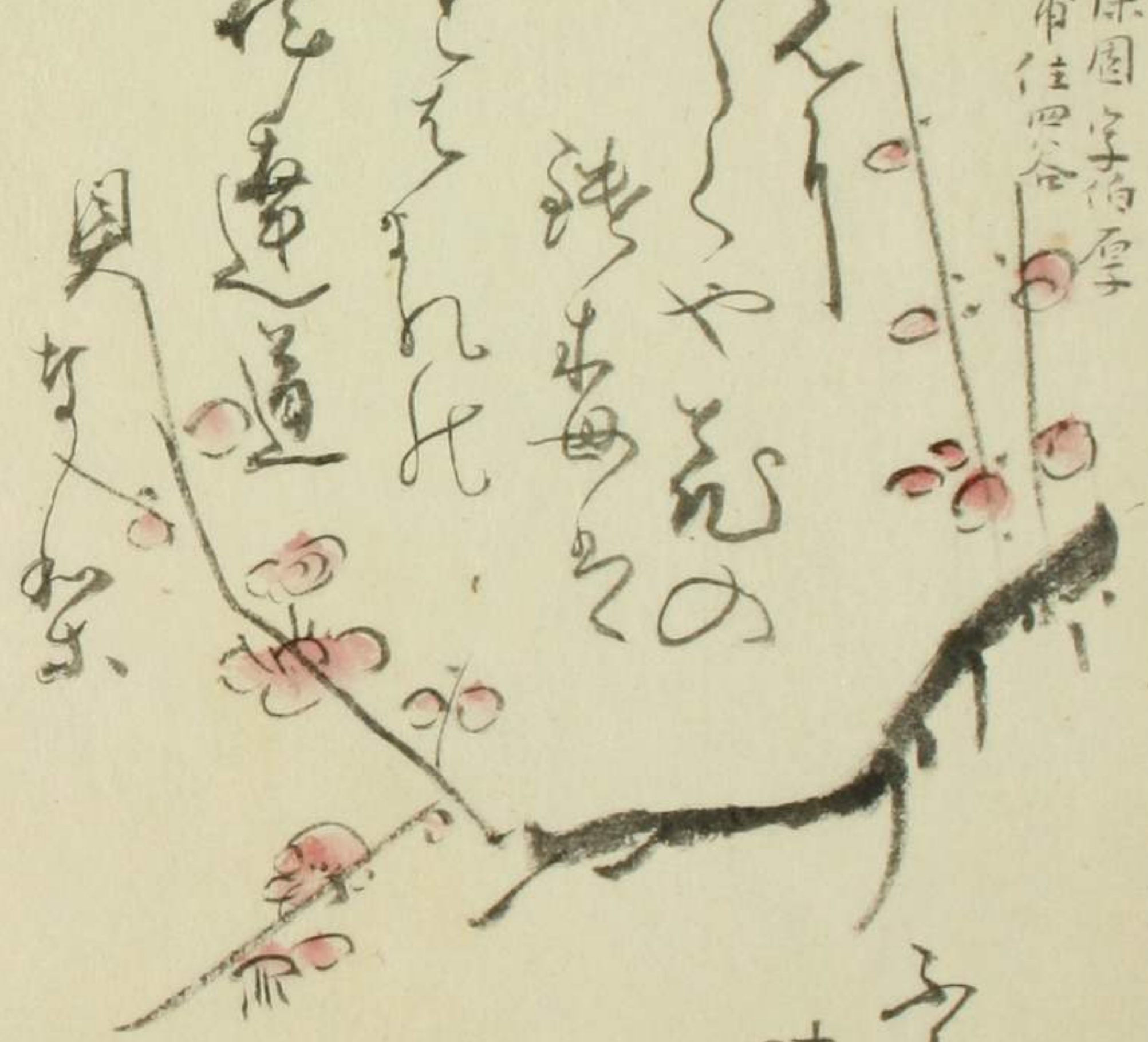
まろく

わんやん

まろく

まろく

勝雄画讚



寄猿恋

一巻

君

君

君

君

君

君

山と海



寄屏風神祇一

晴まじり霞みのお

志しきまのり

屏風の

うしろのまじり

すまじり



三才書屋

あゝ乃奈ささあまの 雲うきせの  
まじり霞みのお  
うしろのまじり

伊中の人まじり霞の  
まじり霞みのお  
うしろのまじり

晴光美典

うしろの

具師

美をたてまじり霞の  
うしろのまじり

鶏聲耳久保へありき時  
 少谷川にそのの都をさす  
 笑陪友竹  
 おとよき辰あはくさるるにけし  
 少谷川の傾城久保

雪  
 雪日つあふれ甲斐に根をさあ川の  
 やまわしと助女旅をくさる  
 下毛栢木  
 田畑持磨



此道くさ

世の中

美理と

とて

あま

悪いあれ也

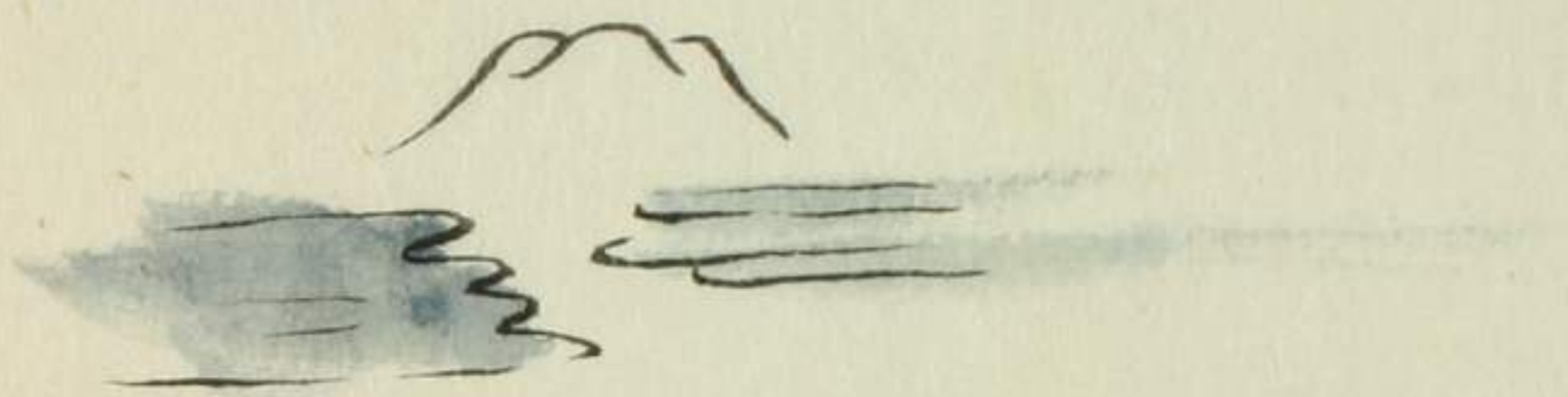
あまの



陽  
 光  
 照  
 臨  
 極  
 妙  
 景  
 也

此  
 景  
 實  
 為  
 天  
 下  
 無  
 雙  
 之  
 景  
 也

富士山は  
 天の  
 門  
 也  
 其  
 の  
 景  
 實  
 為  
 天  
 下  
 無  
 雙  
 之  
 景  
 也



此  
 景  
 實  
 為  
 天  
 下  
 無  
 雙  
 之  
 景  
 也  
 其  
 の  
 景  
 實  
 為  
 天  
 下  
 無  
 雙  
 之  
 景  
 也

裂衣惜  
入啼鳥

啼鳥

啼鳥  
啼鳥  
啼鳥  
啼鳥  
啼鳥



曲河寫



巴人亭  
書

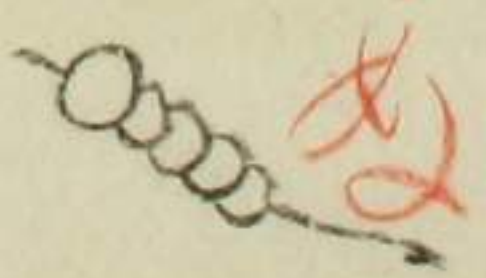


知花の月さなはさの  
 同のふりし流し  
 なるや子なきか次  
 朱樂菅江  
 郭ろちなほも卯乃乃

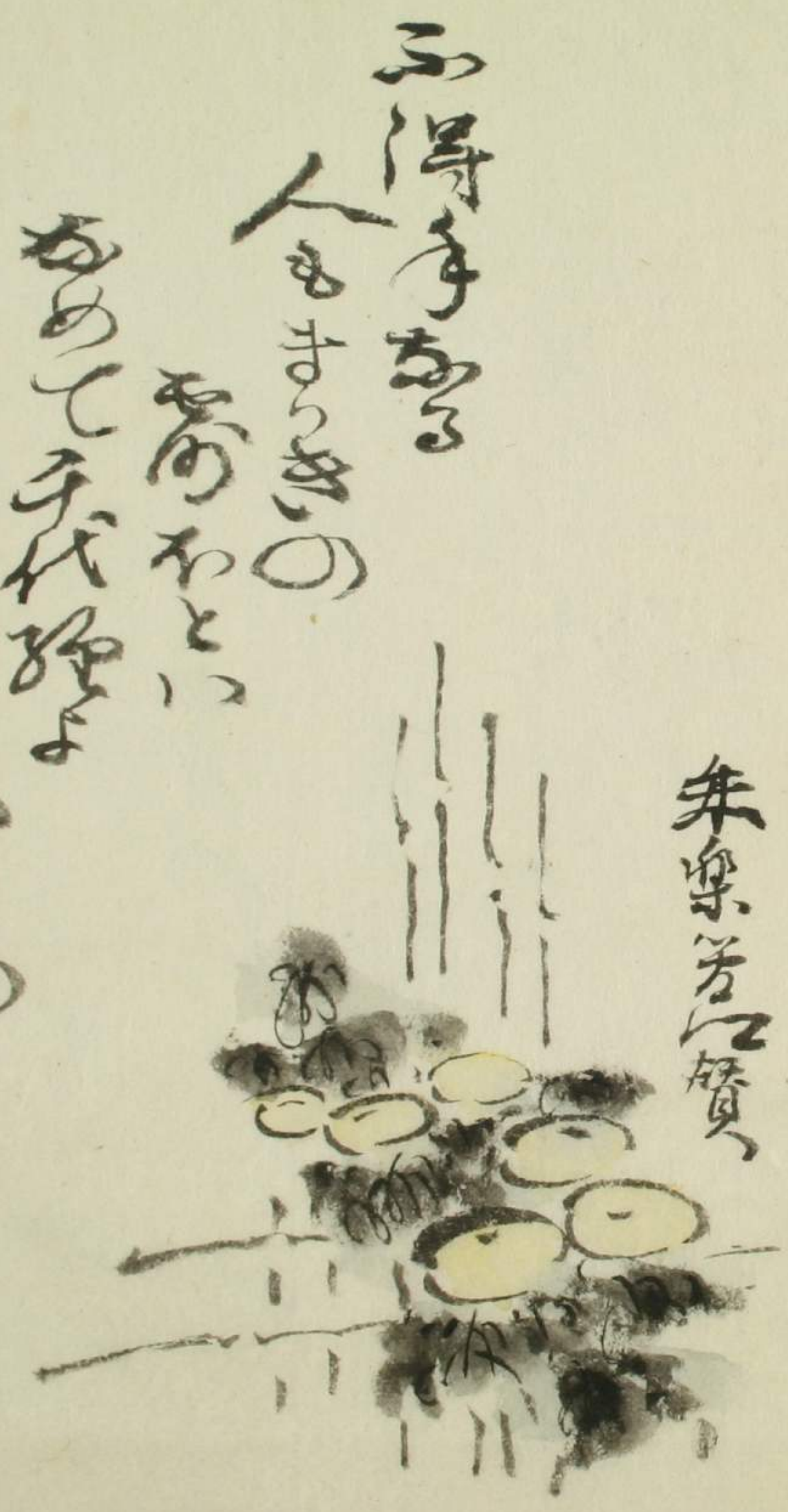
みのまゝ、まゝをり  
 人のまゝ

梅竹園  
 楊柳

不とまの字々待てぬ  
 まゝのまゝのまゝのまゝ  
 松角らふ人々  
 芳印の  
 善福庵

右邊のきんりの画續已り  
 延らふあかあきおきんり  
 おきんりのをたらまはら  
 けに飛車にふんりやたに  
 みせーもみなり  
 みせえきのこ子  
 おきんりなるを  
 純つぬ  


朱楽芳江贊



朱楽芳江

人かたあひの

あわちり

あめてうたげ

朱楽芳江



文化のそとに中村在る 坂東三河五節勸道成寺

さきさき

道あり

寺あり

路あり

さき

さき

さき

い

さき



